

御所市公共交通運行効率化計画（案）

平成31年3月

御所市

目次

1	計画策定にあたって	1
(1)	計画策定の背景と目的	1
(2)	計画の位置付け	1
2	公共交通に関わる問題・課題の抽出	2
(1)	公共交通の問題点	2
(2)	公共交通の課題	8
3	公共交通の基本方針	9
(1)	御所市の公共交通の将来像と基本的な考え方	9
(2)	公共交通の基本方針	11
4	公共交通再編の基本計画	13
(1)	公共交通再編の基本計画	13
(2)	今後のスケジュール	18
5	御所市の現状	19
(1)	地域の現状	19
(2)	交通の現状	26
(3)	現状のまとめ	36
6	住民アンケート調査	37
(1)	住民アンケート調査の結果	37
(2)	コミュニティバス利用者の調査	66
(3)	分析結果	77

1 計画策定にあたって

(1) 計画策定の背景と目的

御所市における公共交通は、近鉄御所線・吉野線とJR和歌山線の鉄道と、近鉄御所駅発着の近隣都市に向けての奈良交通の路線バスが運行されている。また、交通不便地域の日常生活を支える移動手段としてコミュニティバス「ひまわり号」が御所市全域を東西の2コースに分けて、老人福祉センターや市役所等の公共施設、近鉄御所駅等の鉄道駅、かもきみの湯、商業施設を巡回するように運行されている。

しかしながら、人口減少や利用ニーズが変化していることもあり、コミュニティバスの利用者が年々減少しており、本市の財政状況が厳しい中で、利用状況に応じた、持続可能な公共交通のあり方を検討することが求められている。一方で、京奈和自動車道 御所インターチェンジ周辺に奈良県と本市が協働して産業集積地を開設する予定であり、産業集積地への交通手段の確保や近鉄御所駅・JR御所駅から御所まちに至る中心市街地地区内の観光誘客による交流人口の拡大を図ることを目的にまちづくり基本計画策定の動きもある。

こういったなか、平成30年度においては、「御所市地域公共交通会議」を開催し、本市の地域や公共交通等の現状を把握・整理するとともに、市民の移動実態・移動ニーズを把握するアンケート調査を実施し、これらの結果を基に、公共交通の問題・課題を抽出し、その問題・課題解決に向けた今後の御所市の地域公共交通に関する基本方針及び再編の基本計画を示すものとした。

(2) 計画の位置付け

本計画は、上位計画等の施策として取組む分野別の計画として、御所市の地域公共交通に関する基本方針及び再編の基本計画を示したものであり、御所市、国、奈良県、住民、交通事業者等で構成される「御所市地域公共交通会議」における協議を経て策定されたものである。

2 公共交通に関わる問題・課題の抽出

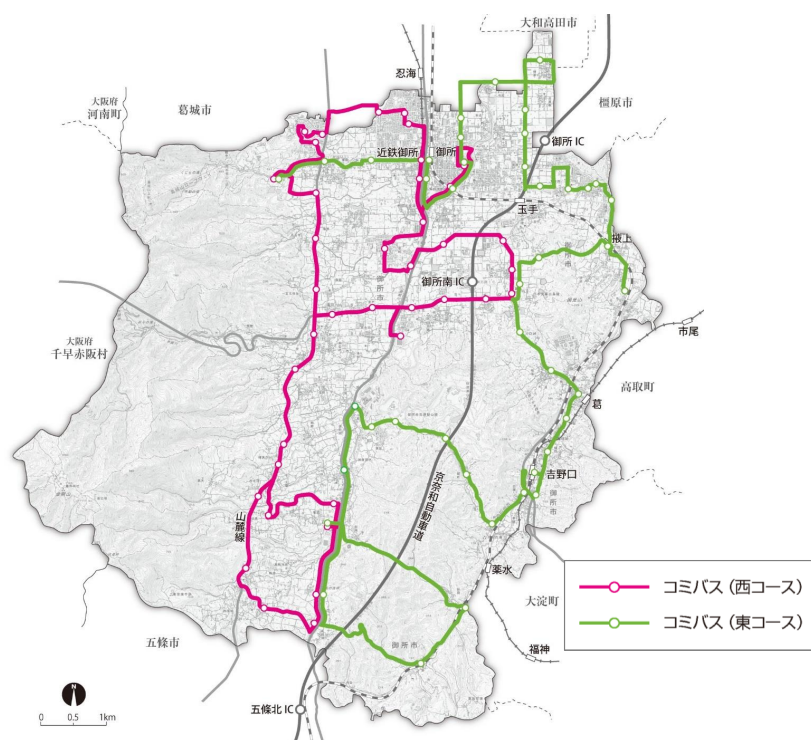
地域の現状（「5 御所市の現状」に詳細を記載）、公共交通の現状（「5 御所市の現状」に詳細を記載）、アンケート調査の分析結果（「6 住民アンケート調査」に詳細を記載）、本市の財政状況等を踏まえて、市における公共交通に関わる問題・課題を以下に抽出した。

(1) 公共交通の問題点

ア 地域によって公共交通のニーズが異なっている

(現状のデータ)

- ・市内の公共交通は、鉄道（近鉄、JR）、路線バス、コミュニティバス、タクシーがあり、コミュニティバスについては、市内を2コースで巡回しており、1周約90分かかっている。

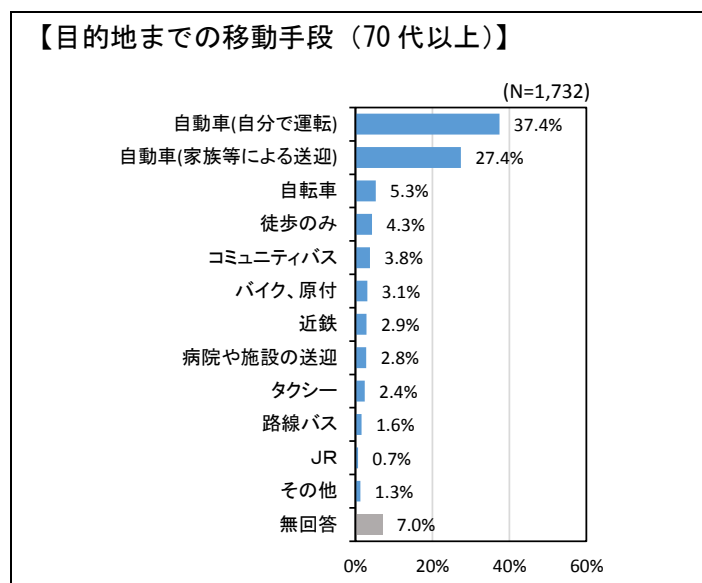


コミュニティバスのルート

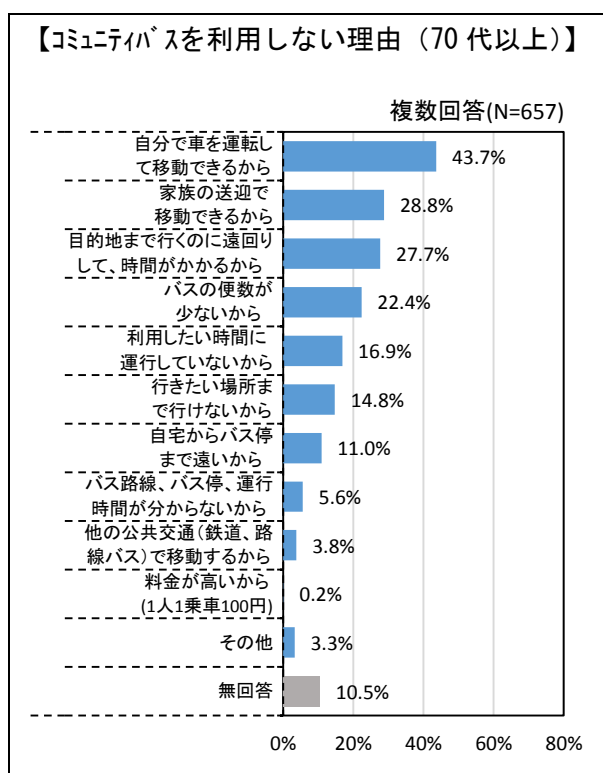
※出典：御所市調べ

（住民アンケート調査結果）

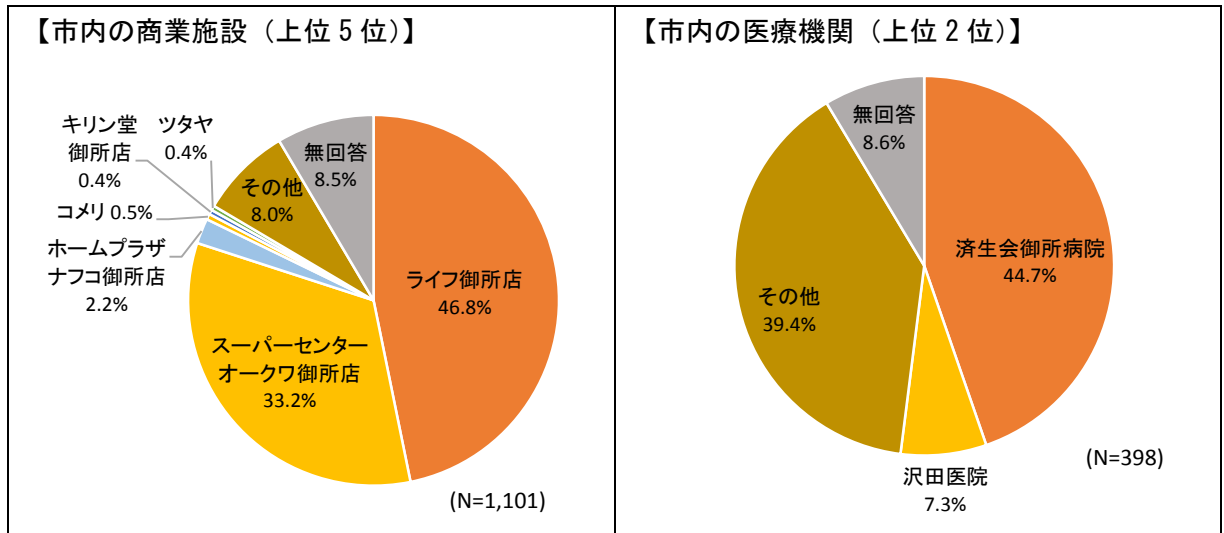
- ・70才以上の市民の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が37.4%、「自動車（家族による送迎）」が27.4%と車の依存度が高く、公共交通の利用率は高くはない。



- ・70才以上のコミュニティバスを利用しない理由について、「自分で車を運転して移動できるから」と「家族の送迎で移動できるから」を除いた場合、「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」（27.7%）が最も高い。



- ・主な外出（買物、病院）について、市内の買物は、市北部の方は「ライフ御所店」に、市南部の方は「スーパーセンターオークワ御所店」と地区によって異なっている。また、市内の通院は、5割以上の方が市北部の医療機関に行っている。



■市内の商業施設（上位5位）地区別

(単位：人)

店舗名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	被上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
ライフ御所店	515	109	26	24	37	62	27	206	15	9
スーパーセンターオークワ御所店	366	19	46	61	78	25	78	46	8	5
ホームプラザナフコ御所店	24	1	4	5	5	5	3	1	0	0
コメリ	5	1	2	0	1	0	0	0	1	0
麒麟堂御所店	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0
ツタヤ	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0
その他	88	4	5	8	10	11	11	34	5	0
無回答	95	12	10	8	11	8	14	24	2	6
計	1,101	149	93	106	142	111	134	312	34	20

■市内の医療機関（上位2位）地区別

(単位：人)

病院名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	被上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
済生会御所病院	178	25	21	22	14	14	35	36	11	0
沢田医院	29	4	5	4	4	1	7	4	0	0
その他	157	11	16	13	31	23	19	40	2	2
無回答	34	2	2	1	6	6	6	10	0	1
計	398	42	44	40	55	44	67	90	13	3

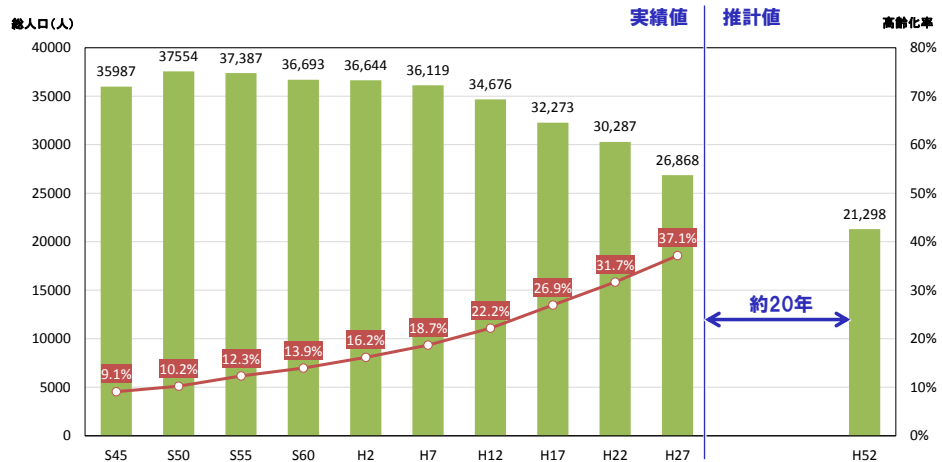
(問題点)

- ・これらのことから、各地区の方が利用したいサービス（目的、手段）が異なっている。

イ 人口が急激に減少し、高齢者が増加している

(現状のデータ)

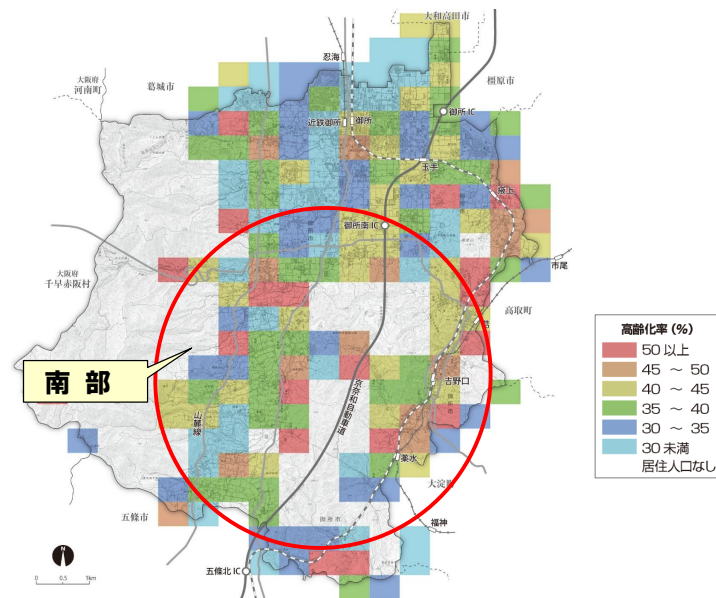
- ・御所市の人口は、昭和 50 年（43 年前）の約 3 万 8 千人をピークに減少し、平成 27 年には約 2 万 7 千人となっている。今後、出生率の向上策及び転出抑制策により、平成 52 年（2040 年、22 年後）に約 2 万 1 千人となる。



御所市の人口の推移

※出典：平成 27 年までは国勢調査、
平成 32 年以降は御所市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年 12 月）

- ・人口減少と反対に、高齢化率が高くなっており、特に、市北部に比べて市南部の高齢化率が高い地区が多い。



御所市の高齢化率の状況

※出典：平成 27 年国勢調査

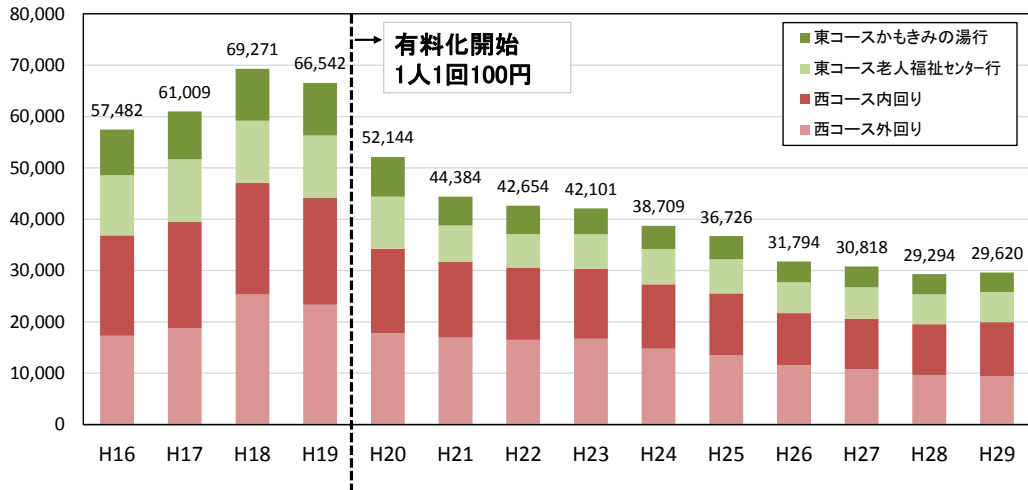
(問題点)

- ・人口減少・高齢化により、特に、南部地域は、北部に比べて、高齢者も多い状況である。

ウ コミュニティバスの利用者は減少傾向であり、利用率も低い状況である

(現状のデータ)

- ・平成 29 年度のコミュニティバスの利用者は約 3 万人であるが、利用者数は平成 18 年度の約 6 万 9000 人をピークに減少傾向である。

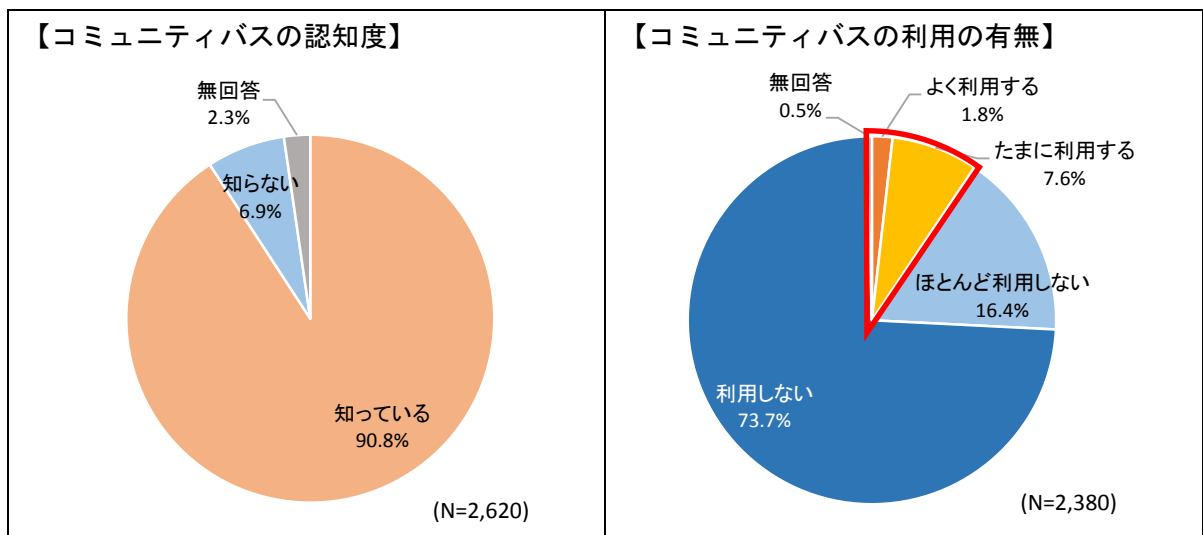


コミュニティバスの利用者数の推移

※出典： 御所市調べ

(住民アンケート調査結果)

- ・コミュニティバスの認知度は、90.8%が「知っている」と回答しているが、コミュニティバスを「知っている」と回答した人のうち、9.4%が「よく利用する」「たまに利用する」と回答し、利用率は低い状況である。



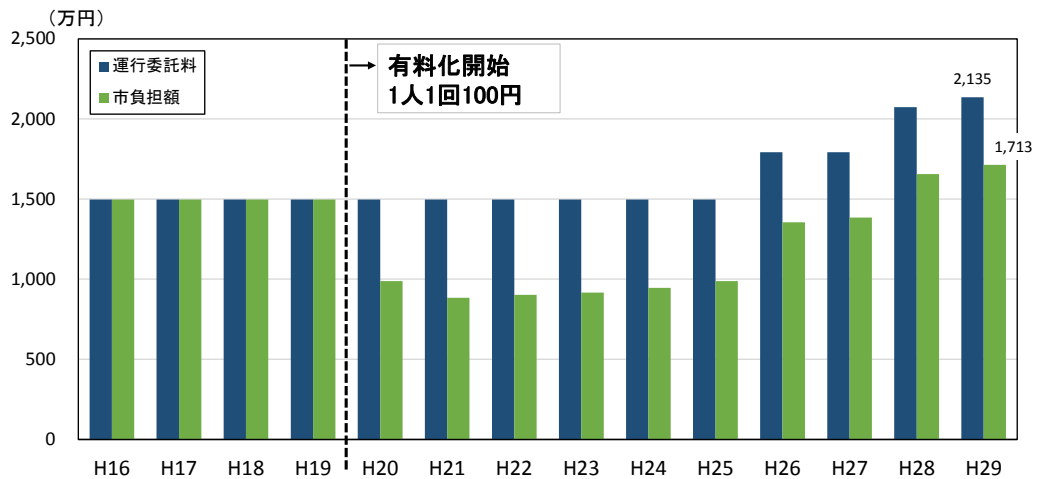
(問題点)

- ・このことから、コミュニティバスの利用者は減少傾向であり、また、市民の利用率も低い状況である。

エ コミュニティバスの運行経費が近年増加しており、今後、市の財政負担が増加し続けると思われる

(現状のデータ)

- ・コミュニティバスの運行委託料は約 2100 万円、市負担額（運行委託料から利用料金及び広告料を差し引いた額）は、約 1700 万であり、両費用ともに、近年増加傾向となっている。

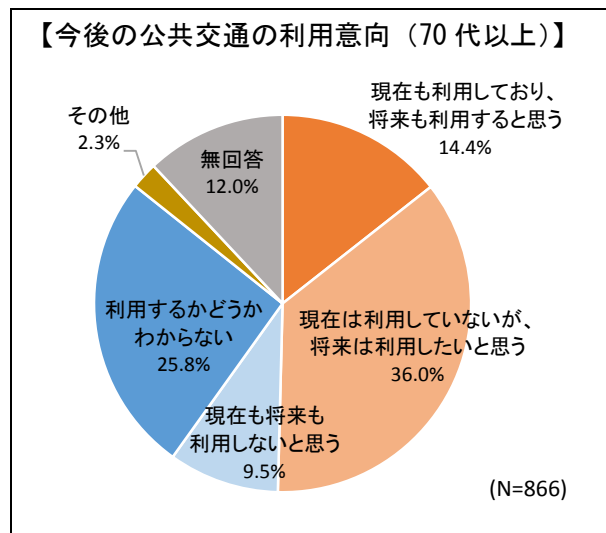


コミュニティバスの運行委託料及び市負担額の推移

※出典： 御所市調べ

(住民アンケート調査結果)

- ・今後の公共交通の利用意向については、「将来も利用すると思う」と「将来は利用したいと思う」と回答した 70 才以上の方は、約 50%であり、住民の半数は、今後とも、市の公共交通の利用を望んでいると思われる。



(問題点)

- ・このことから、コミュニティバスの運行経費が増加する中で、市民は今後とも公共交通の利用を望んでいる方が多く、公共交通を続ける限り、今後も市の財政負担が増加し続けると思われる。

(2) 公共交通の課題

ア (市北部) 需要やニーズに応じた効率的なルートの検討が必要

- ・市北部は、市南部に比べ人口が多く、主要な公共施設、スーパー、病院が集積している。
- ・コミュニティバス利用者の不満は「目的地まで遠回りで時間がかかる」との意見が多く、公共交通を使いたい市民は「運行本数の増加」のニーズが高い。
- ・このことから、1周約90分の巡回時間を短縮するなどして、運行本数を増やすことで、需要やニーズに適した効率的なルートの検討を行う。

イ (市南部) 高齢者にとって利便性の高い公共交通の検討が必要

- ・市南部は、市北部に比べ人口が少なく、高齢化率も高い地区が多い。
- ・現在のコミュニティバスの運行時間が非常に長く、利便性の高い公共交通とはいい難い。
- ・このことから、高齢者が多い地区であり、また、集落が点在することから、少ない需要に応じた利便性の高い公共交通を検討する必要がある。

ウ 公共交通の利用促進が必要

- ・アンケートの結果、多くの市民が、自家用車で移動していることが分かったが、その一方で、交通手段がない高齢者や若者層等に対して、利便性を向上させるだけでなく、利用促進を行う必要もある。

エ 運行内容に応じたコスト検討が必要

- ・市の公共交通の運行経費は増加傾向であり、また、公共交通の利便性を向上させることで、さらに運行費用は増加すると思われる。
- ・今後は、人口減少等により、市の歳入も減少することから、持続可能な公共交通を目指すため、運行内容に応じたコストを抑制する取り組みが必要である。

3 公共交通の基本方針

(1) 御所市の公共交通の将来像と基本的な考え方

御所市の上位計画（御所市第5次総合計画等）を踏まえ、本計画での公共交通に関する「将来像」及び市としての「基本的な考え方」を以下に示す。

ア 将来像

御所市第5次総合計画等の上位計画や、公共交通の課題等を踏まえ、計画が目指す公共交通の将来像を以下の通りとする。

御所市第5次総合計画 (平成23年10月)	《施策の大綱》 第1章 住み続けたいまちづくり 《取り組み項目》 ◆地域公共交通の充実 ・近鉄・JR御所駅を交通結節点として、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーの公共交通の利便性を図る。
御所市都市計画マスタープラン (平成23年4月)	《まちづくりのプロジェクト》 ◆みんなの公共交通 ・市街地中心部と郊外部を結ぶ公共交通ネットワークをつくれます。 ・市街地中心部では、より利便性・快適性を高めるため、密度の高い公共交通網を整備します。 ・郊外部では、人口が減り公共交通の需要が減る一方で、高齢化が進み公共交通の依存が増してきます。必要に応じて配送するデマンド型公共交通や、企業と地域がお互いに協力しながら運営する地域交通等の研究を進め、自宅から市街地中心部へ向かう公共交通を確立します。 ◆具体的な事業 ・市街地中心部と郊外部をつなぐ基幹公共交通軸の編成 ・デマンド型交通の検討 ・交通情報の案内サービスの充実



《将来像》
市中心部及び郊外部の方に対して、それぞれに応じた利便性の高い公共交通

イ 基本的な考え方

御所市コミュニティバスは、平成15年4月の名柄線（近鉄御所駅～名柄）と御所今木線（近鉄御所駅～大淀町今木）の両路線の廃止に伴い、それまでの市民の交通（移動）手段を確保する目的で、代替路線として平成16年度に導入したものである。導入後は、市民の移動手段として定着し、平成18年度には約6万9,000人の利用者があったが、平成29年度には約3万人まで減少している状況である。

このような状況を踏まえ、公共交通の今後の基本方針を検討するにあたって、市としての公共交通の基本的な考え方として以下の3つを設定する。

(7) 民間事業者（鉄道・路線バス・タクシー）が運営する市内公共交通のフレーム（枠組み）を守ることを前提とした公共交通施策の推進

公共交通の核となる枠組み（鉄道・路線バス・タクシー）を堅持・維持することは、中長期的な視点で住民の公共交通に対する利便性の確保に繋がることから、公共交通の交通手段の一角を崩さないよう（民業圧迫とならないよう）配慮しながら、現状の行政が運営するコミュニティバス運行のあり方を検討するものとする。

(4) コミュニティバスの再編及び新たな交通手段の導入の検討

市内の公共交通は、鉄道及び路線バスが市内と市外を繋ぎ、タクシーやコミュニティバスが市内に点在する住民と交通結節点等に運ぶ手段として、各事業者がそれぞれの役割を持って運行している。一方、今後、人口減少が急速に進むことが予想され、本市の財政基盤が縮小する中で、効率的で財政負担の少ない、将来にわたって持続可能な交通のあり方を検討する必要がある。

具体的には、現行のコミュニティバスは、多くの市民に認知（約9割以上）されているが、利用者数がピーク時の年間69,000人から29,000人に激減している現状を踏まえ、住民のニーズに合ったコミュニティバスの運行のあり方を検討するものとする。また、それに合わせて、新たな交通手段の導入の検討を行うものとする。

(ウ) 市北部と南部の特性に合わせた公共交通の検討

市北部は、市南部に比べて人口が多く、主要な公共施設、スーパー、病院等が集積しており、コミュニティバスの利用数も全体の約7割いる。

一方、市南部は、市北部に比べて人口が少なく、集落が点在しており、少ない需要に応じた公共交通が適している。

このように、市北部と南部は、人口や建物配置状況等の特性が異なっており、効率的な公共交通を考えるためには、それぞれの特性に応じた交通サービスの検討を行うものとする。

(2) 公共交通の基本方針

公共交通の将来像や市の公共交通の基本的な考え方、公共交通の課題を踏まえ、公共交通の基本方針を以下に示す。

ア 利用者の需要やニーズに応じた、効率的で利便性の高い公共交通への再編

- ・コミュニティバスの年間利用者数（平成 29 年度）は約 3 万人であり、ルートの中で、北部で約 7 割、南部で約 3 割の利用があり、市全域で 1 日あたり 100 人程度利用されている。一方、バス停毎の 1 日あたりの乗車人数及び降車人数をみていくと、大半のバス停において、1 日 1 人前後の利用状況となっている。
- ・また、アンケート結果からは、「目的地まで遠回り時間がかかる」、「運行本数が少ない」ことに不満を持っている方が多く、このことから、現行のコミュニティバスの運行ルートが非効率である点を改善する必要がある。
- ・これらの状況を踏まえ、エリア別で分析していくと、市北部は、市南部に比べて人口が多く、主要な公共施設、スーパー、病院が集積していることから、輸送密度が高いコミュニティバスを運行し、移動時間の短縮や運行本数の増加に対応した利便性の高いものに再編する。市南部は、市北部に比べて人口が少なく、集落が点在しており、少ない需要に応じた輸送密度がコンパクトで利便性の高い停留所方式の運行形態となるデマンド交通を導入する必要がある。

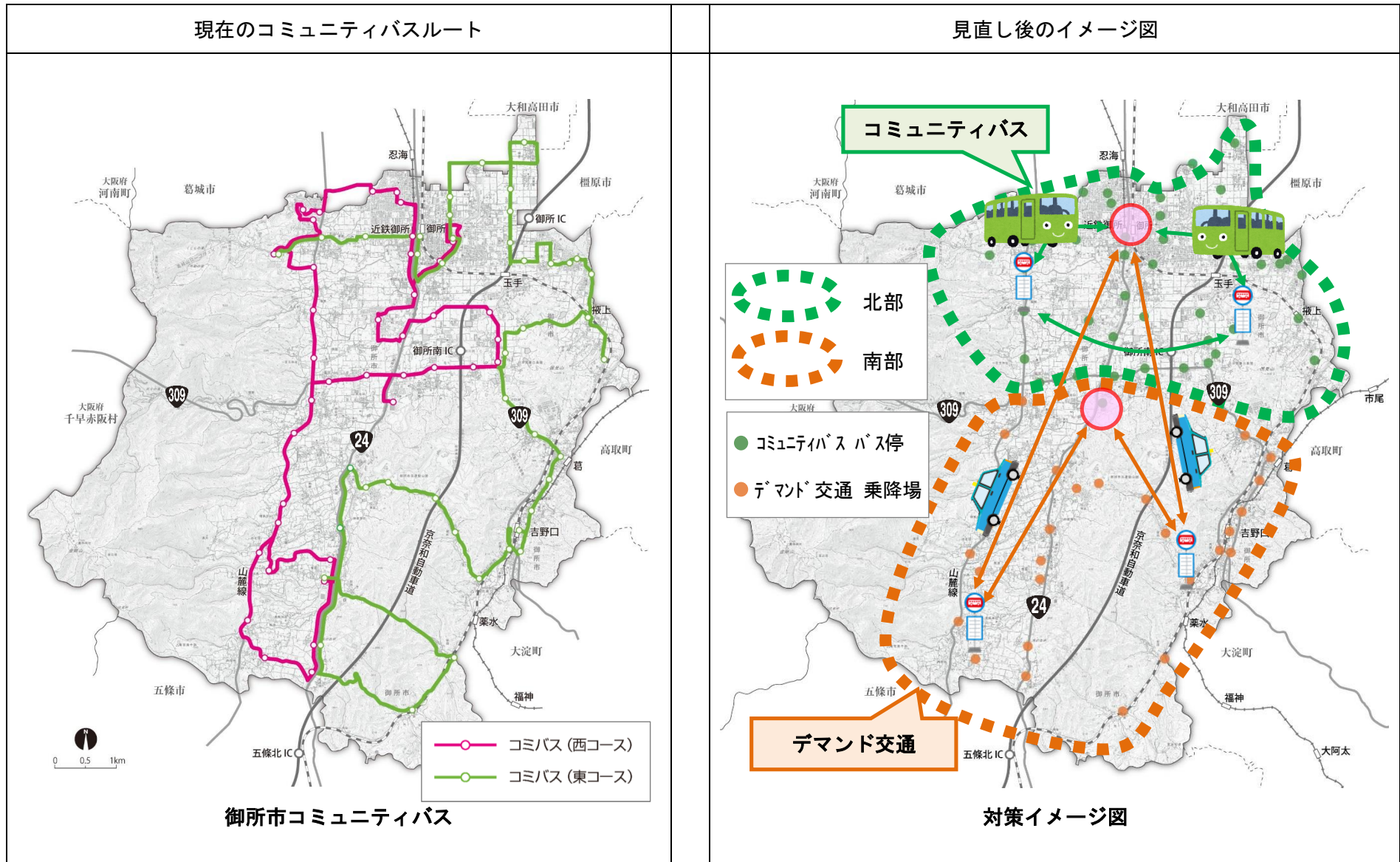
イ 市内公共交通の利用の促進

- ・コミュニティバスの利用者数は減少傾向であり、また、アンケート結果から、コミュニティバスの認知度は 90%以上にもかかわらず、利用率は約 10%と低い状況である。
- ・アンケート結果の自由意見からも、「情報提供をして PR してはどうか」との意見もあった。
- ・このことから、住民にとって使いやすく利便性の高い公共交通を構築し、その運行形態を住民にわかりやすく周知する。また、効率的にデマンドタクシーを運行するためデマンド運行管理システムを導入する。これらの取組によって、市内の公共交通をより多くの方に利用して頂くための環境づくりを進めていく。

ウ 将来にわたって持続可能な公共交通の構築

- ・アンケート結果から、公共交通を「将来は利用したい」と思うとの意見が約 6 割と、利用しないと思うより多い結果であった。
- ・市の財政状況は、今後も介護や医療などの扶助費が増加していくものと想定され、将来的に公共交通にかかる費用を増加させることは非常に厳しい状況がつづく想定される。
- ・市が運営する公共交通を将来にわたり持続していくために、運行費用を増大させないようコストを意識し、利用状況に応じた運行内容の見直しを図っていく。

■公共交通の見直し後のイメージ



4 公共交通再編の基本計画

(1) 公共交通再編の基本計画

公共交通の基本方針では、市北部は、輸送密度が高いコミュニティバスを運行し、移動時間の短縮や運行本数の増加に対応した利便性の高いものに再編する。また、市南部は、少ない需要に応じた輸送密度がコンパクトで利便性の高い停留所方式の運行形態となるデマンド交通を導入する必要があるとした。

この基本方針を踏まえ、公共交通再編の基本計画を以下に示す。

ア 公共交通再編の基本計画の概要

公共交通再編の基本計画の概要を、以下に示す。

■コミュニティバス及びデマンド交通の概要

項目	内容	
	市北部	市南部
概要	現在のコミュニティバスの車両を活用し、運行ルートは、市北部の現在のコミュニティバスのバス停を結ぶルートとする。	市南部について、バス停とバス停を繋ぐデマンド交通で運行する。
運行形態	定時定路線（現在のコミュニティバスの運行形態と同じ）	予約制デマンド交通
運行区域	市北部	市南部、市北部の主要施設（市役所、近鉄御所駅、スーパー、病院等）
利用対象者	主に市民（利用制限はなし）	市南部の市民（事前利用登録必要）
車両	小型バス（車両延長 7m 以下） ※現在のコミュニティバスと同じ車両	セダン型タクシー
運賃	有料	有料
備考		「かもきみの湯」と「吉野口駅」を起点に、近鉄御所駅までコミュニティバスの朝便を運行する。

イ 再編にあたっての留意事項

(7) コミュニティバス（市北部）

①運行範囲

- ・コミュニティバスのネットワーク（運行範囲）については、市内で、市北部運行を基本とする。

②ルート設定の考え方

- ・ルートは、市北部の現在のコミュニティバスのバス停を結ぶルートとする。
- ・なお、現在のコミュニティバスの利用状況から、朝の1便目に市内を周遊して9時過ぎに近鉄御所駅で降りる方が多いことから、その方の利便性の低下を防ぐ目的で、朝の1便目だけ、南部（かもきみの湯、吉野口駅）から近鉄御所駅まで運行する。
- ・運行時間は、現在の1便あたり約1時間30分程度かかっているため、1時間を切る時間で運行する。

③起点・終点及び始発・終発

- ・起点・終点については、市の主要施設（鉄道駅、スーパー、病院等）が多く集積し、現在のコミュニティバスの利用者の乗り降りが多い「近鉄御所駅」とする。
- ・始発・終発については、現在のコミュニティバスの運行時間（8時台～19時台）とする。

④バス停位置

- ・現在のコミュニティバスのバス停としてのサービス水準を維持する観点から、現在の市北部（国道309号以北）のコミュニティバスのバス停には、基本的に停車する。

⑤運行台数

- ・運行台数は、運行本数を増加して利用者の利便性向上を図るため、2台とする。

⑥料金

- ・利用者ニーズ等を踏まえ、総合的な観点から200円とする。

※利用者ニーズ： 「御所市の公共交通に関する住民アンケート調査（平成30年8月実施）」の中で、「市内の公共交通が利用しやすくなった場合、支払って良い片道料金」の質問に対する回答

- ・100円程度 30.8%
- ・200円程度 33.8%
- ・300円程度 14.8%

(イ) デマンド交通（市南部）

①運行範囲

- ・運行範囲については、市内で、市南部運行を基本とする。

②必要想定台数

- ・他自治体でのデマンド交通の利用状況、市南部のコミュニティバスの利用状況や高齢者人口等を踏まえ、必要台数は2台程度とする。

③始発・終発

- ・始発・終発については、既存のタクシー事業への影響を抑制するため、午前8時～午後5時とする。

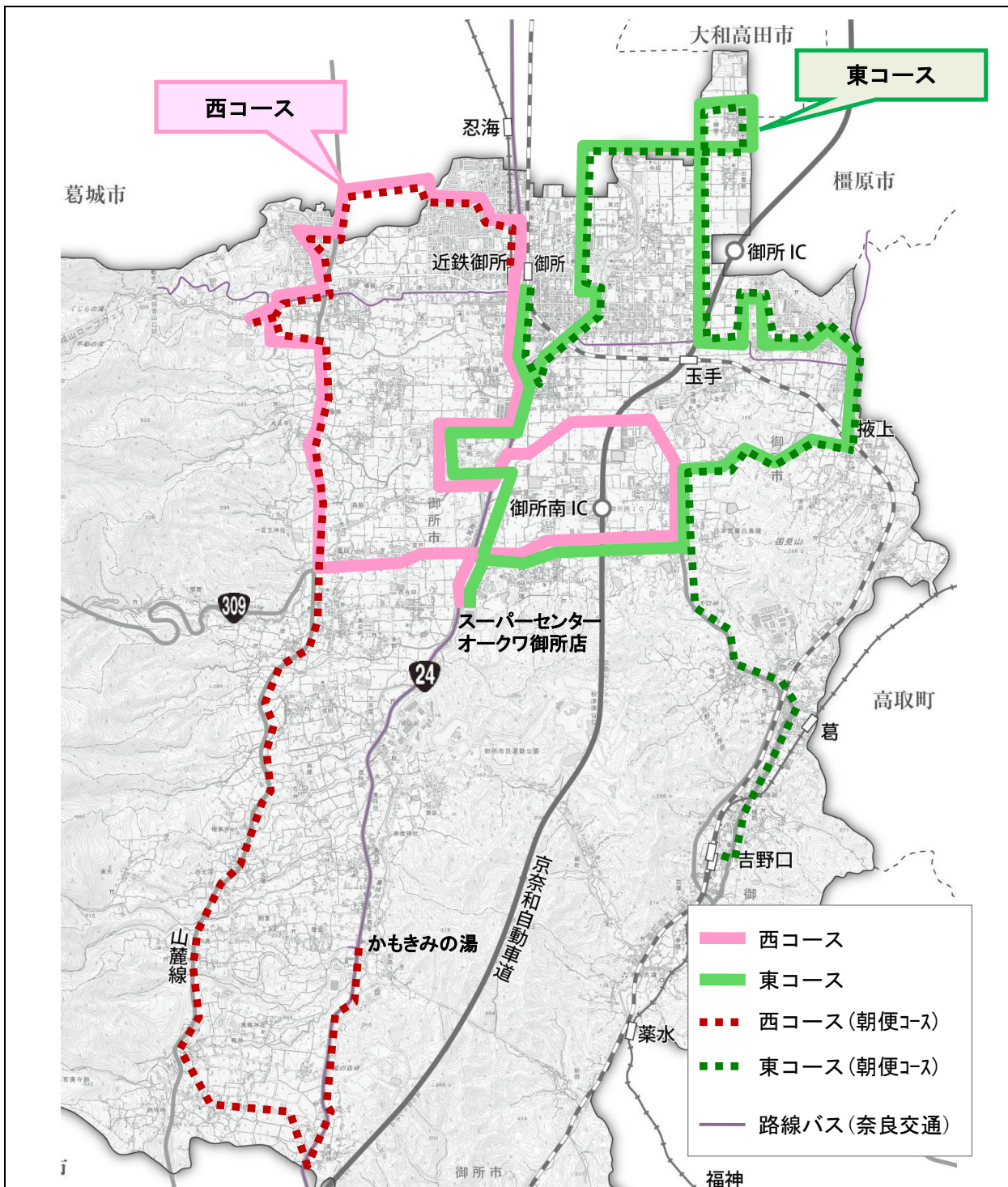
④乗降場所

- ・自宅付近の「バス停（現在のコミュニティバスのバス停）」から、目的地の「バス停」間を運行する。
 - ・自宅付近：現在のコミュニティバスのバス停
 - ・目的地：市が設定した目的地（公共施設、鉄道駅、商業施設、病院等）のバス停

⑤料金

- ・サービス内容やコミュニティバスの新たな料金（200円）、既存の公共交通の料金（路線バス、タクシー）等を踏まえ、総合的な観点から1人1乗車500円とする。
- ・なお、高齢者の負担を軽減するため、70歳以上は1人1乗車300円とする。

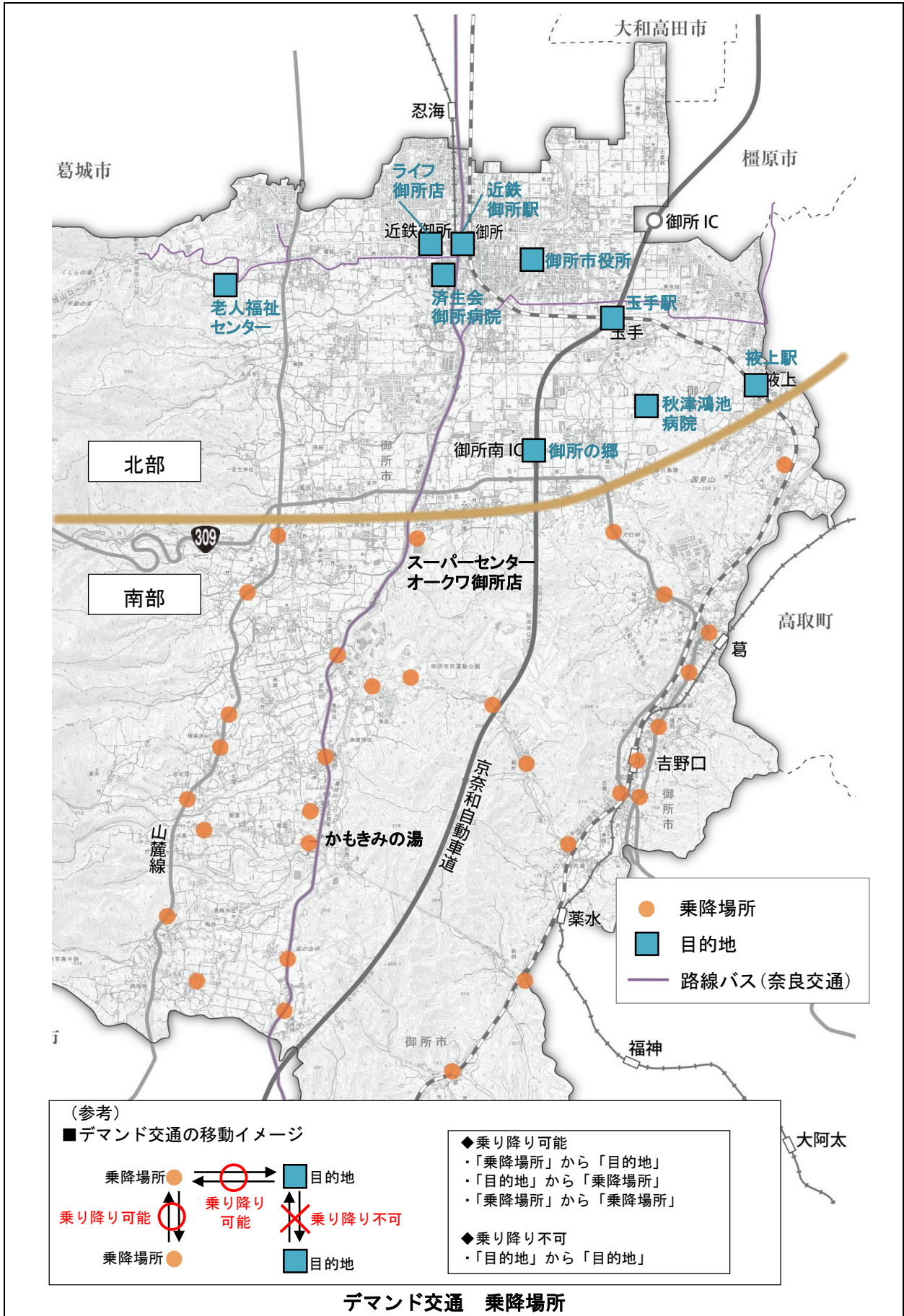
■コミュニティバス再編のルートイメージ



- (参考)
- 西コース
 - ・朝便が「かもきみの湯」発→「近鉄御所駅」に9時過ぎ着（運行時間は約35分）
 - ・その後、近鉄御所駅を起終点として、市北部の西側を周遊。（1周約50分）
 - ・1日8～9便運行
 - 東コース
 - ・朝便が「吉野口駅」発→「近鉄御所駅」に9時過ぎ着（運行時間は約40分）
 - ・その後、近鉄御所駅を起終点として、市北部の東側を周遊。（1周約55分）
 - ・1日7～8便運行

コミュニティバスのコースイメージ図

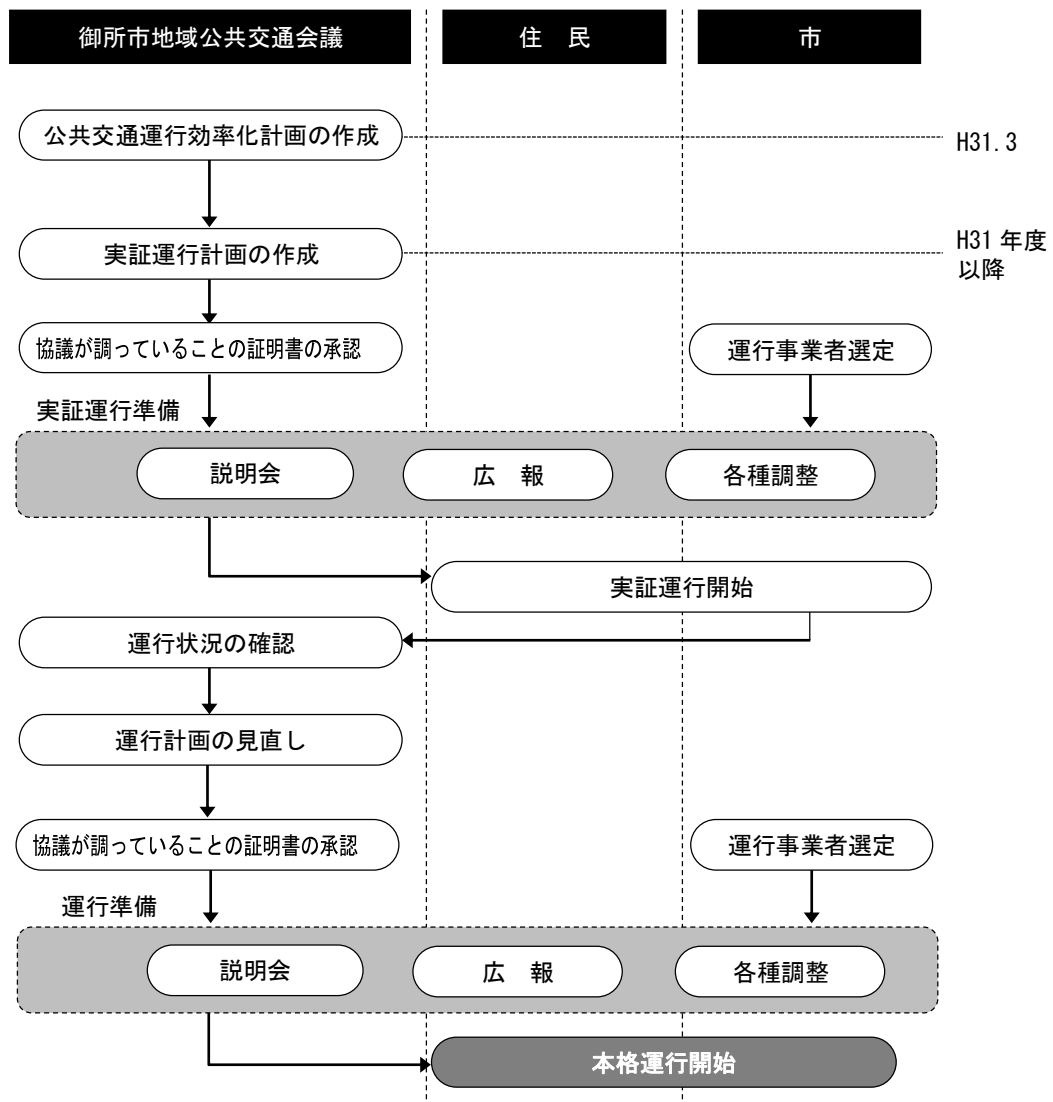
■ デマンド交通の運行イメージ



(2) 今後のスケジュール

今後は、平成 30 年度に作成した「御所市内公共交通運行効率化計画」を踏まえ、平成 31 年度以降に実証運行を実施する。

その後、実証運行で得られた利用状況のデータ等を踏まえ、平成 32 年度以降に評価・見直しを行い、本格運行を行うものとする。



今後のスケジュール（案）

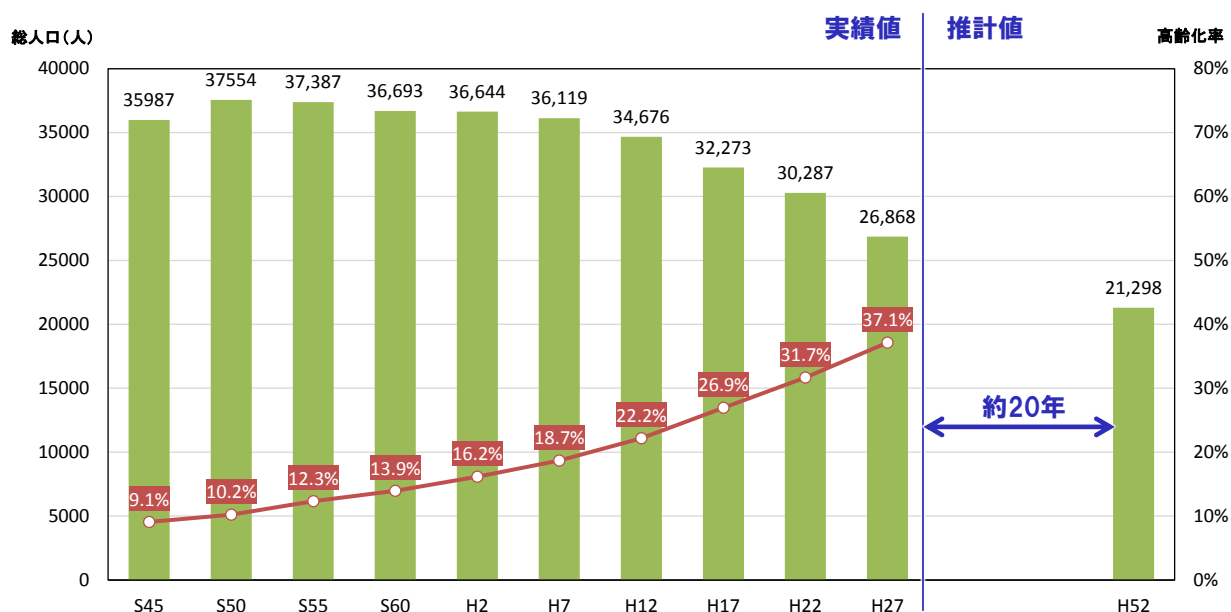
5 御所市の現状

(1) 地域の現状

ア 人口推移

(7) 人口の推移

御所市の人口は、昭和 50 年（43 年前）の約 3 万 8 千人をピークに減少し、平成 27 年には約 2 万 7 千人となっている。今後、出生率の向上策及び転出抑制策により、平成 52 年（2040 年、22 年後）に約 2 万 1 千人を目指している。



御所市の人口の推移

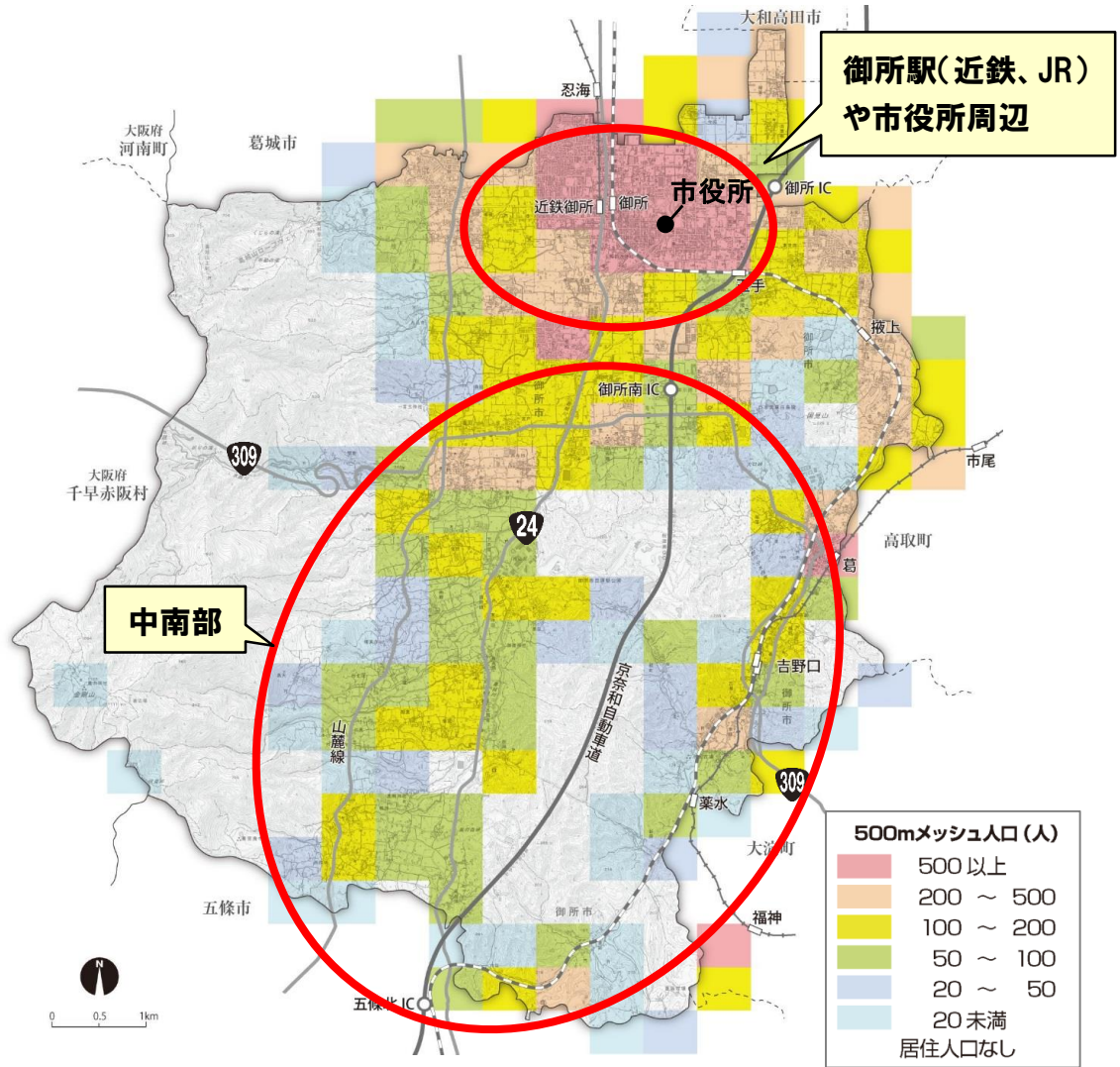
出典：平成 27 年までは国勢調査、

平成 32 年以降は御所市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年 12 月）

(イ) 人口分布の状況

人口は市の北部に集中しており、特に、御所駅（近鉄、JR）や市役所周辺に多く分布している。

一方で、市の中南部の人口は少なく、国道24号、山麓線、鉄道沿線に分布している。



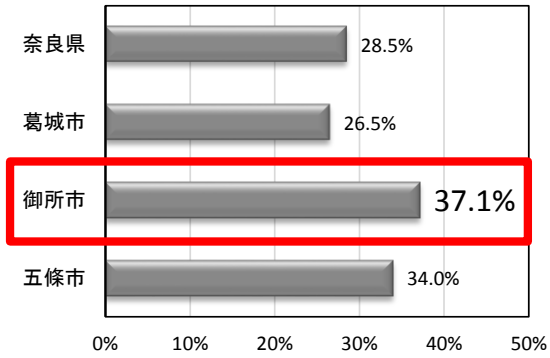
御所市の人口分布の状況

※出典：平成27年国勢調査

(ウ) 高齢化率の状況

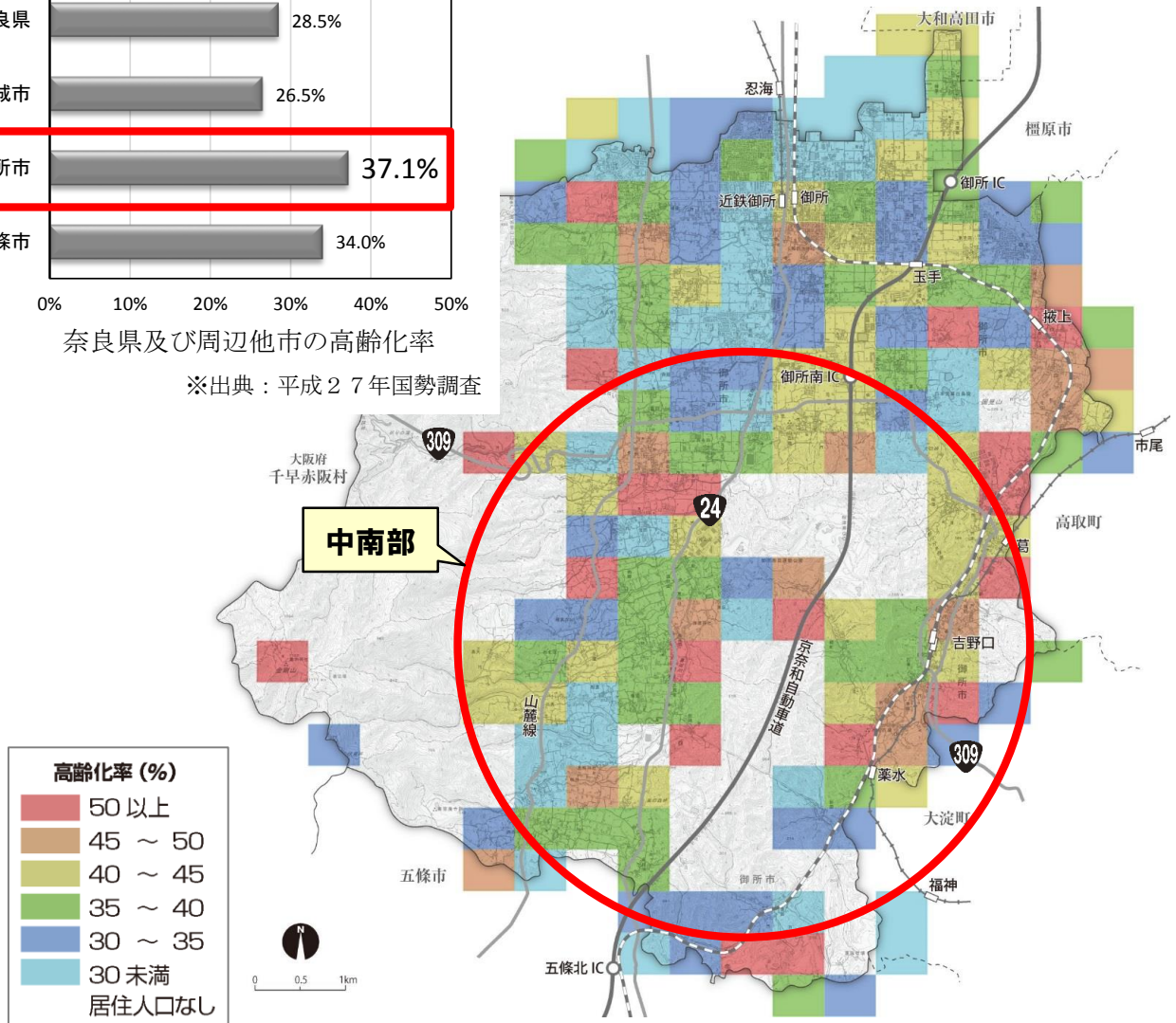
御所市の高齢化率は、奈良県又は周辺他市と比べて高い状況である。

市内の高齢化の状況は、市の北部に比べて、中南部に高齢化率が高い地区（40%以上）が多くある。



奈良県及び周辺他市の高齢化率

※出典：平成27年国勢調査



御所市の高齢化の状況

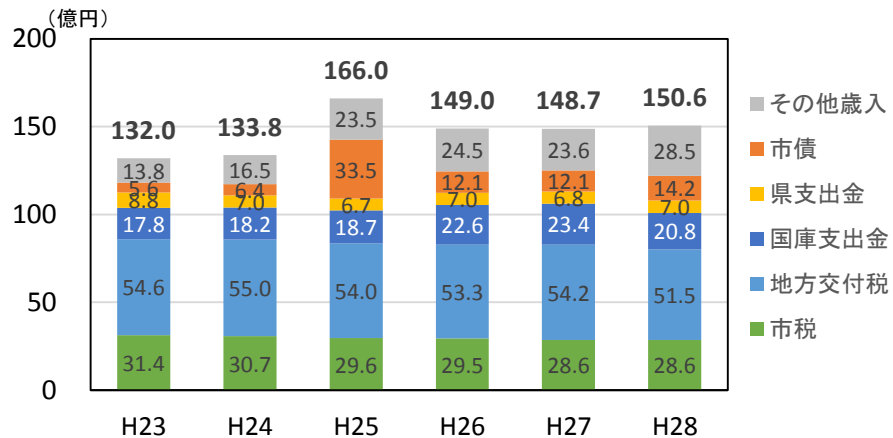
※出典：平成27年国勢調査

(I) 財政の状況

a 歳入の推移

御所市の財政の状況は、歳入全体に対して自主財源である市税の占める割合が低く、減少傾向であり、一方で、地方交付税や国・県支出金の占める割合が高い状況である。

市税は、法人市民税の占める割合が小さいことから、景気悪化による影響は受けにくい反面、企業業績の好調などによる大幅な税収増加は見込めない。

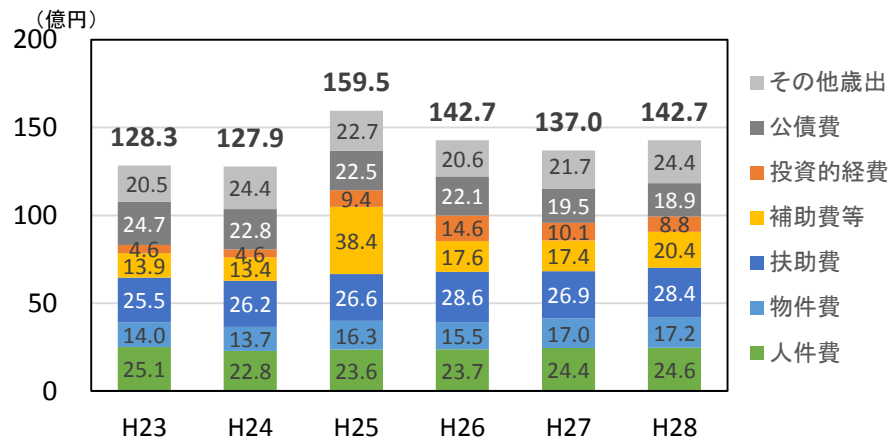


歳入の推移

出典：市町村決算カード（総務省ホームページ）

b 歳出の推移

御所市の歳出については、少子高齢化の進展による介護や医療などの扶助費が年々増加傾向であり、今後も増加していくものと想定される。



歳出の推移

出典：市町村決算カード（総務省ホームページ）

イ 地理的特性

(7) 土地利用

本市の総面積は 60.6km² であり、そのうち非課税土地を除く面積は 35.9km² (平成 29 年) で、土地利用区分別にみると山林が 15.7km² で約 44%、田と畑の農地が 12.7km² で約 35%、宅地が 5.0km² で約 14%となっている。

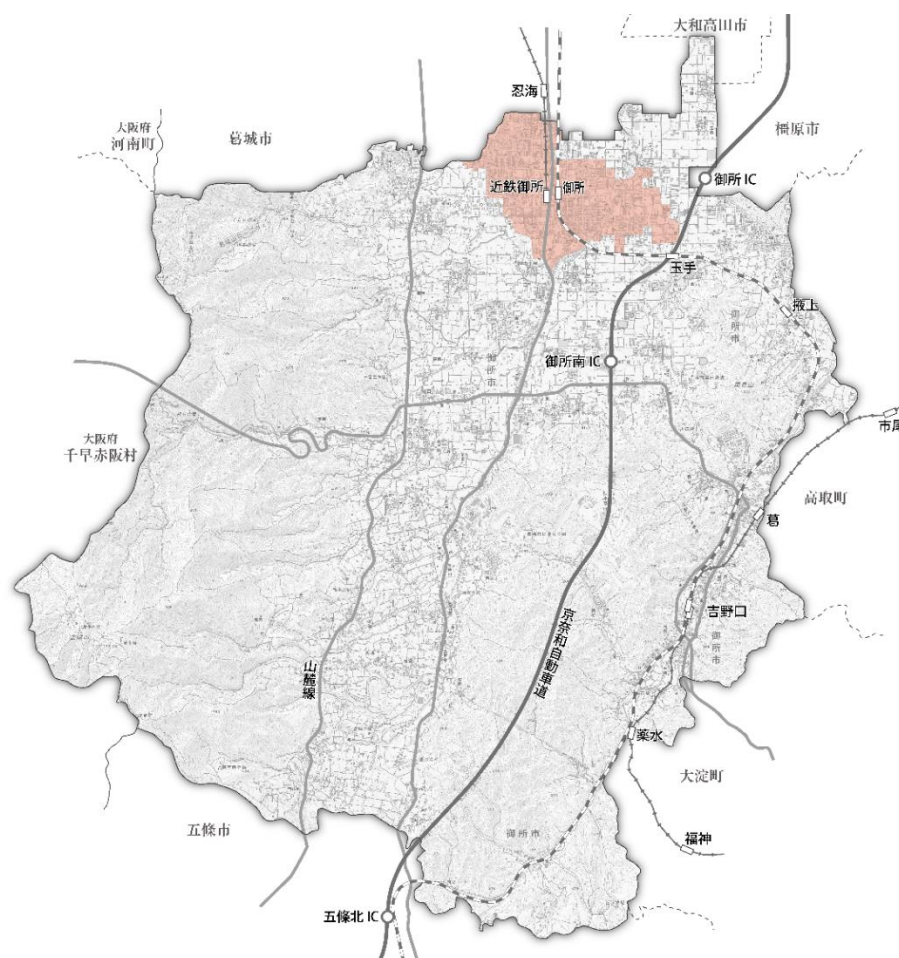
また、本市の人口集中地区 (DID 面積) は 2.3km² と全体の約 4% であり、近鉄・JR 御所駅周辺及び「御所まち」周辺に形成されている。

■土地利用の内訳

(単位：千㎡)

年	総数	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地
平成25年	35,938	11,324	1,600	5,011	4	15,759	328	1,912
平成26年	35,936	11,290	1,597	5,014	4	15,764	316	1,951
平成27年	35,936	11,245	1,587	5,036	4	15,765	305	1,994
平成28年	35,938	11,188	1,581	5,050	4	15,752	304	2,059
平成29年	35,939	11,140	1,567	5,061	5	15,731	308	2,127

出典：御所市統計書（平成 29 年版）

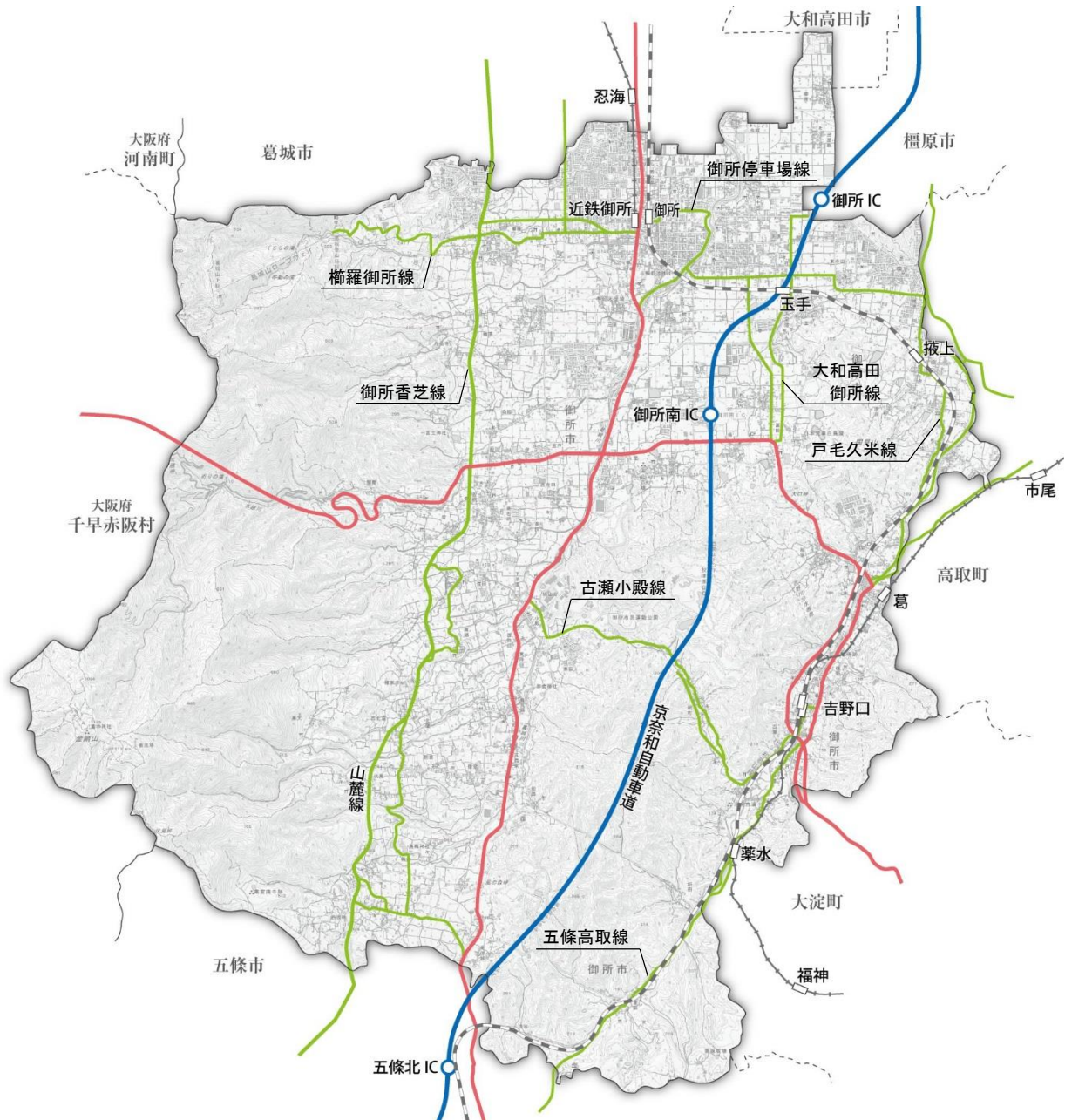


出典：平成 27 年国勢調査

図 人口集中地区 (DID 地区)

(イ) 道路の状況

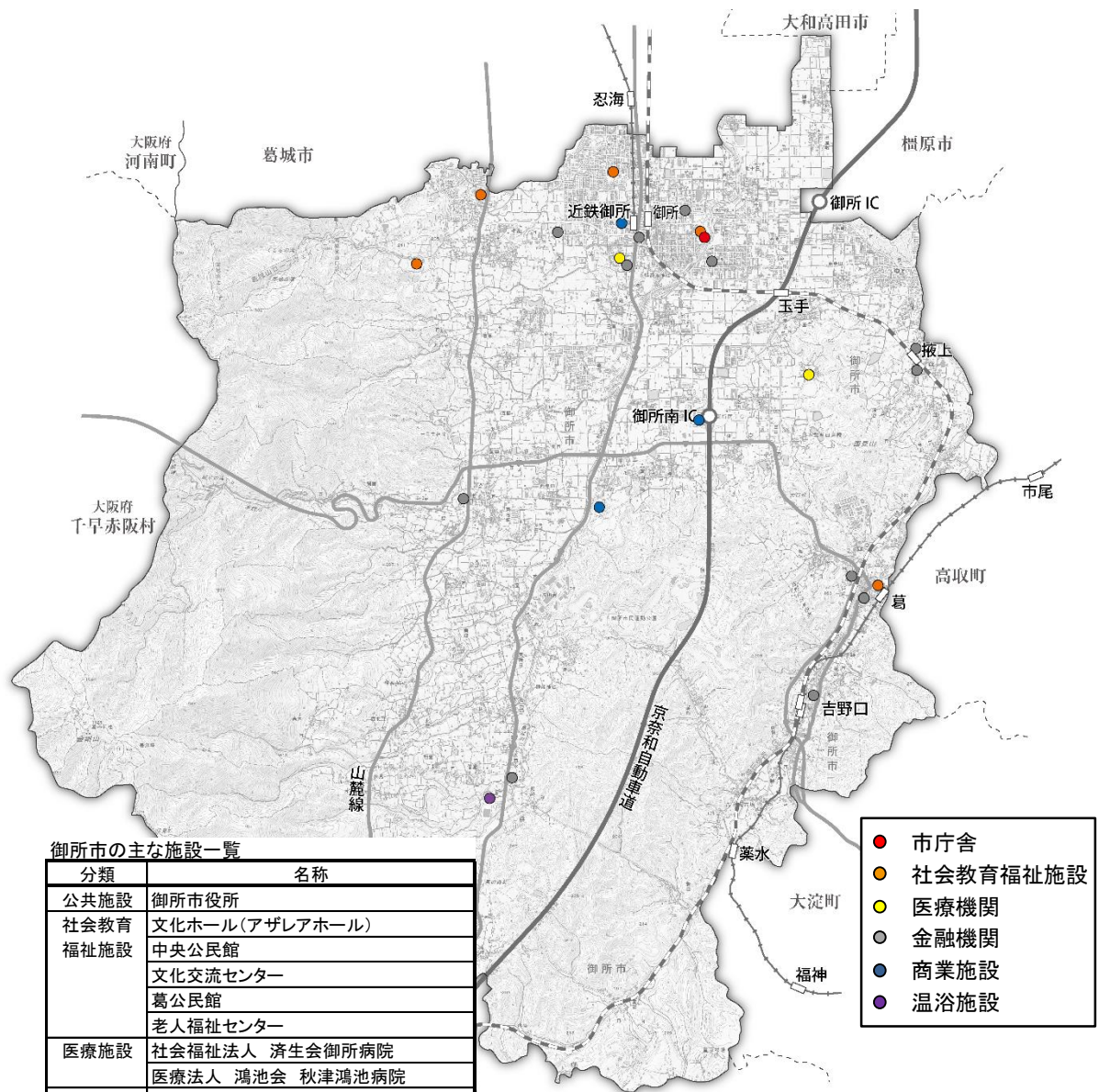
道路は、奈良市と和歌山市を結ぶ国道 24 号が市の中央部を南北に、県道御所香芝線（山麓線）が市の西側を南北に通過しており、その他に市内を県道櫛羅御所線、御所停車場線、高田御所線、戸毛久米線、古瀬小殿線、五條高取線等で市内ネットワークを形成している。また、平成 29 年 8 月には京奈和自動車道の御所南インターチェンジから五條北インターチェンジ間が開通し、近隣市及び他府県への利便性が高くなった。一方で、主要道路以外の生活道路などは、狭隘な道路が多い状況である。



御所市の道路の状況

(ウ) 施設の分布状況

市北部の近鉄・JR 御所駅周辺に、公共施設や商業施設等の多くの施設が分布している。



御所市の主な施設一覧

分類	名称
公共施設	御所市役所
社会教育福祉施設	文化ホール(アザレアホール)
	中央公民館
	文化交流センター
	葛公民館
	老人福祉センター
医療施設	社会福祉法人 済生会御所病院
	医療法人 鴻池会 秋津鴻池病院
金融機関	南都銀行 御所支店
	南都銀行 掖上支店
	南都銀行 吉野口支店
	御所郵便局
	名柄郵便局
	御所大正郵便局
	御所寺内郵便局
	御所柳田郵便局
	御所掖上郵便局
	御所吉野口郵便局
	御所葛城郵便局
	御所葛郵便局
	商業施設
スーパーセンターオークワ御所店	
御所の郷	
温浴施設	かもきみの湯

御所市の施設の分布状況

※出典：御所市HP など

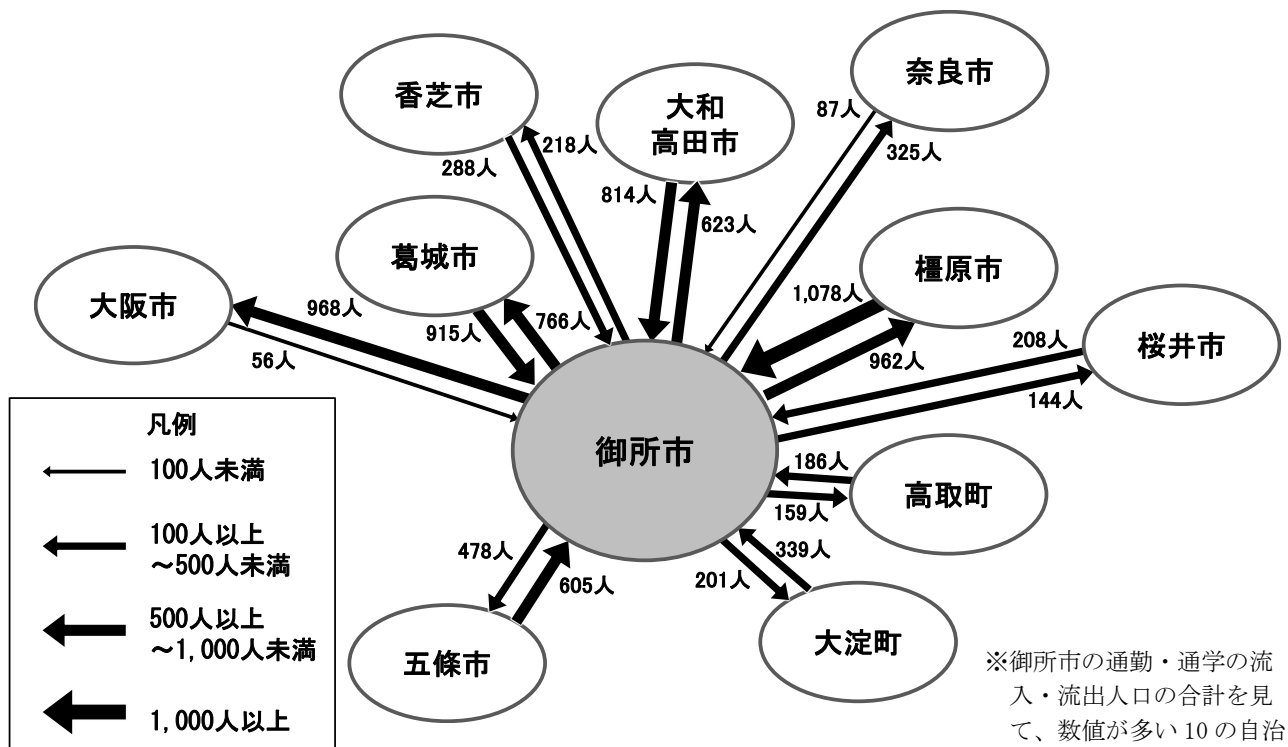
(2) 交通の現状

ア 人の動き

(7) 通勤・通学の流入・流出状況

平成27年の御所市の通勤・通学の流出人口は6,884人、流入人口は5,892人であり、流出人口の方が約1.16倍である。

流出が最も多いのは「大阪市」、流入が最も多いのは「橿原市」である。



御所市の流入・流出状況

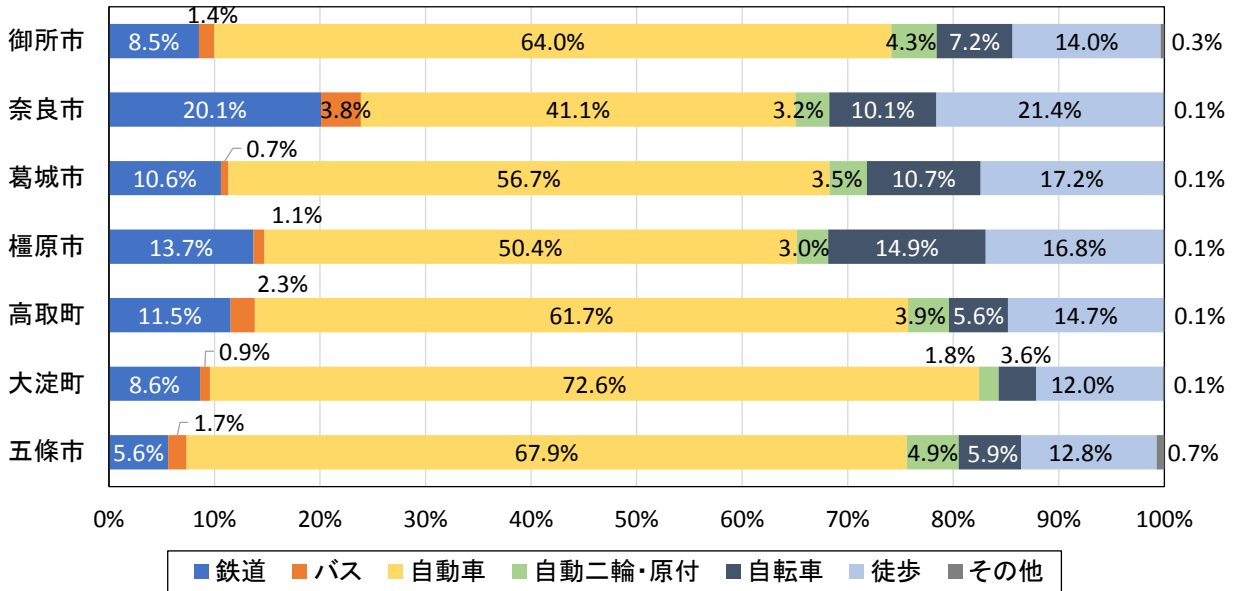
※御所市の通勤・通学の流入・流出人口の合計を見て、数値が多い10の自治体を掲載している。

※出典：平成27年国勢調査

(イ) パーソントリップ状況

御所市の住民の移動手段は、自動車の割合が64%と最も高い。

一方、公共交通（鉄道、バス）の利用割合は約9.9%と奈良県内の隣接自治体（葛城市、橿原市、高取町）と比べ低い。



パーソントリップ状況（平日）

※出典：第5回（平成22年）近畿圏パーソントリップ調査結果
（京阪神都市圏交通計画協議会）

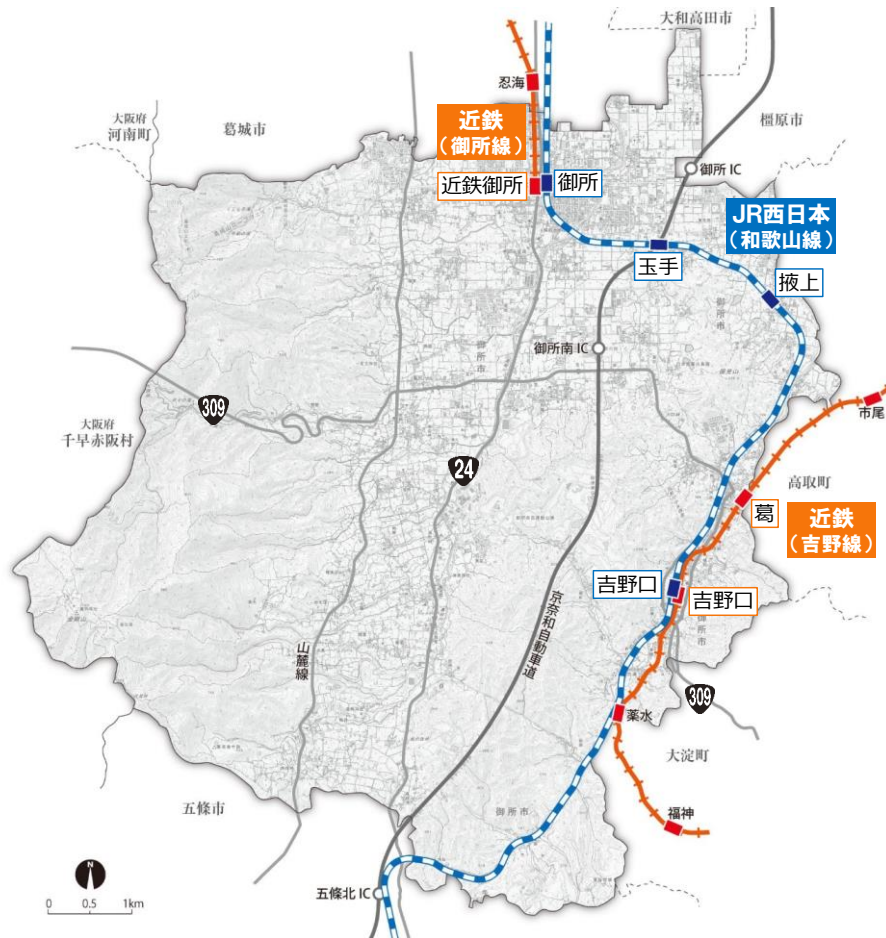
イ 公共交通の状況

市内の公共交通は、鉄道、タクシー、路線バス、コミュニティバスがある。

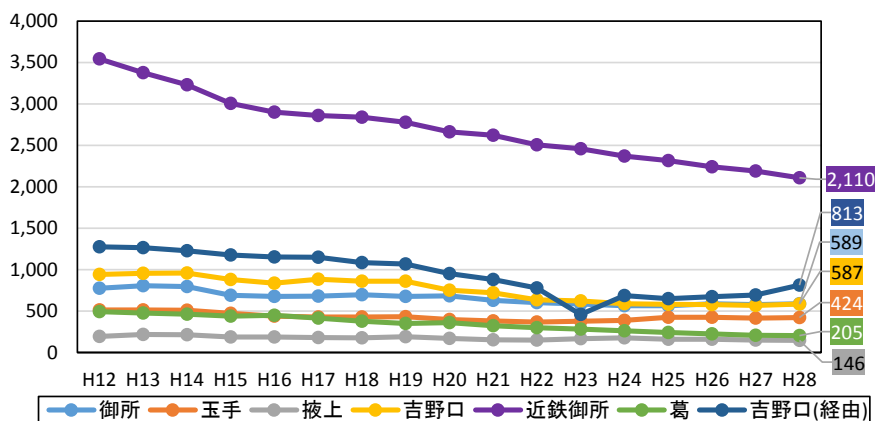
(7) 鉄道の概要

御所市では、「近鉄」と「JR西日本」の鉄道があり、近鉄は市北部と南東部を、JR西日本（和歌山線）は市東部を通過し、近鉄は3駅、JR西日本は4駅ある。

市内の鉄道駅の乗車人員は、近鉄御所駅が1日あたり2,110人（平成28年度）と最も多いが、16年前（平成12年度）と比べると約6割まで減少している。



御所市の鉄道位置図



鉄道駅の乗車数の推移

※JR西日本の乗車人員は、1日平均乗車人員。
 ※近鉄の乗車人員は、年度一年間の総乗車人員を元に、1日平均乗車人員を算出。

出典：奈良県統計年鑑

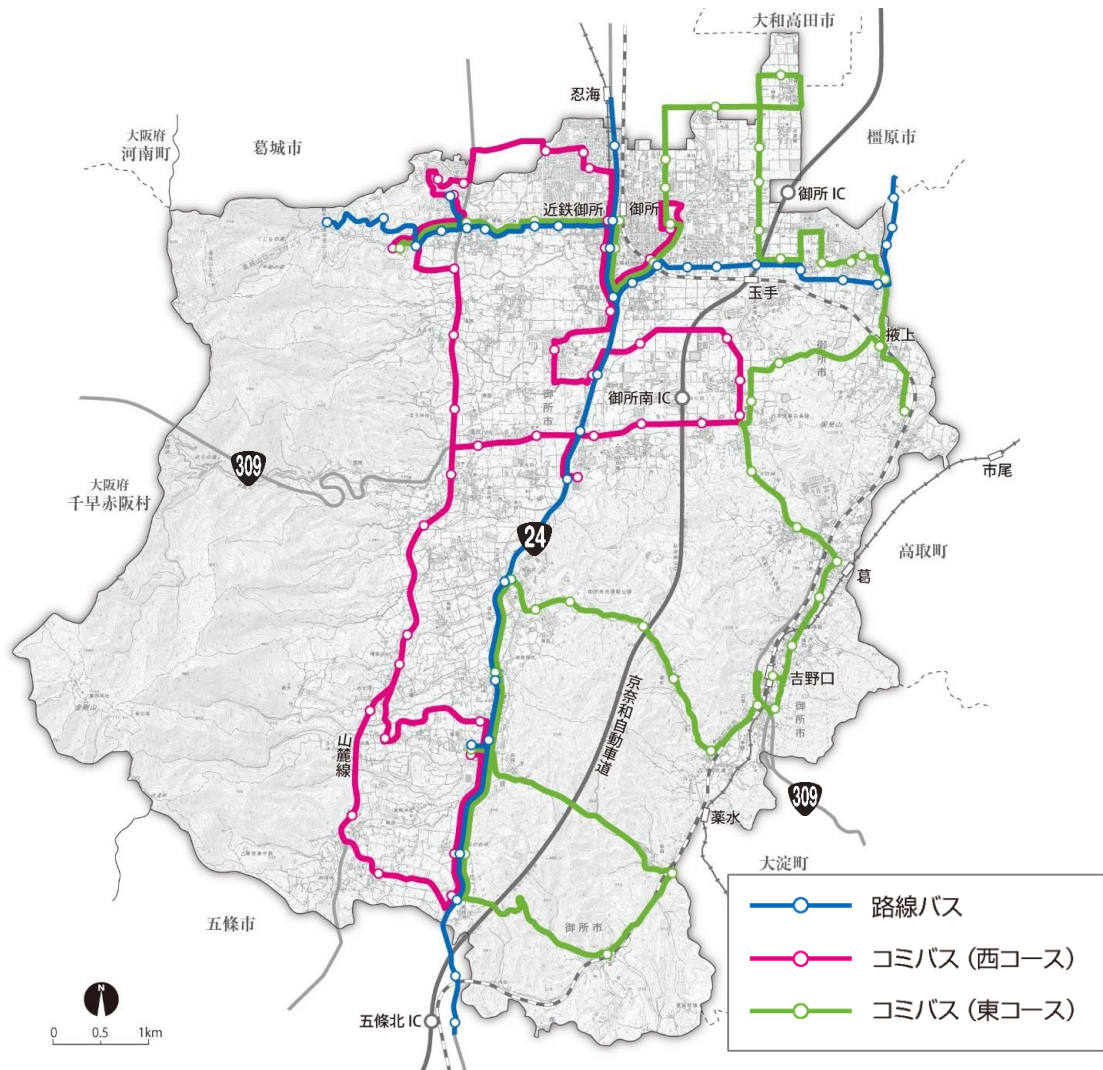
(イ) タクシーの概要

御所市内に営業所のあるタクシー会社は、「サワタクシー（株）」と「(株) サンキュータクシー」である。

(ウ) バスの概要

御所市を運行するバスは、「路線バス」と「コミュニティバス」がある。

各ルートは以下の図のように、市内の鉄道駅、市役所の公共施設、商業施設、病院、かもしみの湯等をバス停として、国道 24 号、山麓線等をルートして運行している。



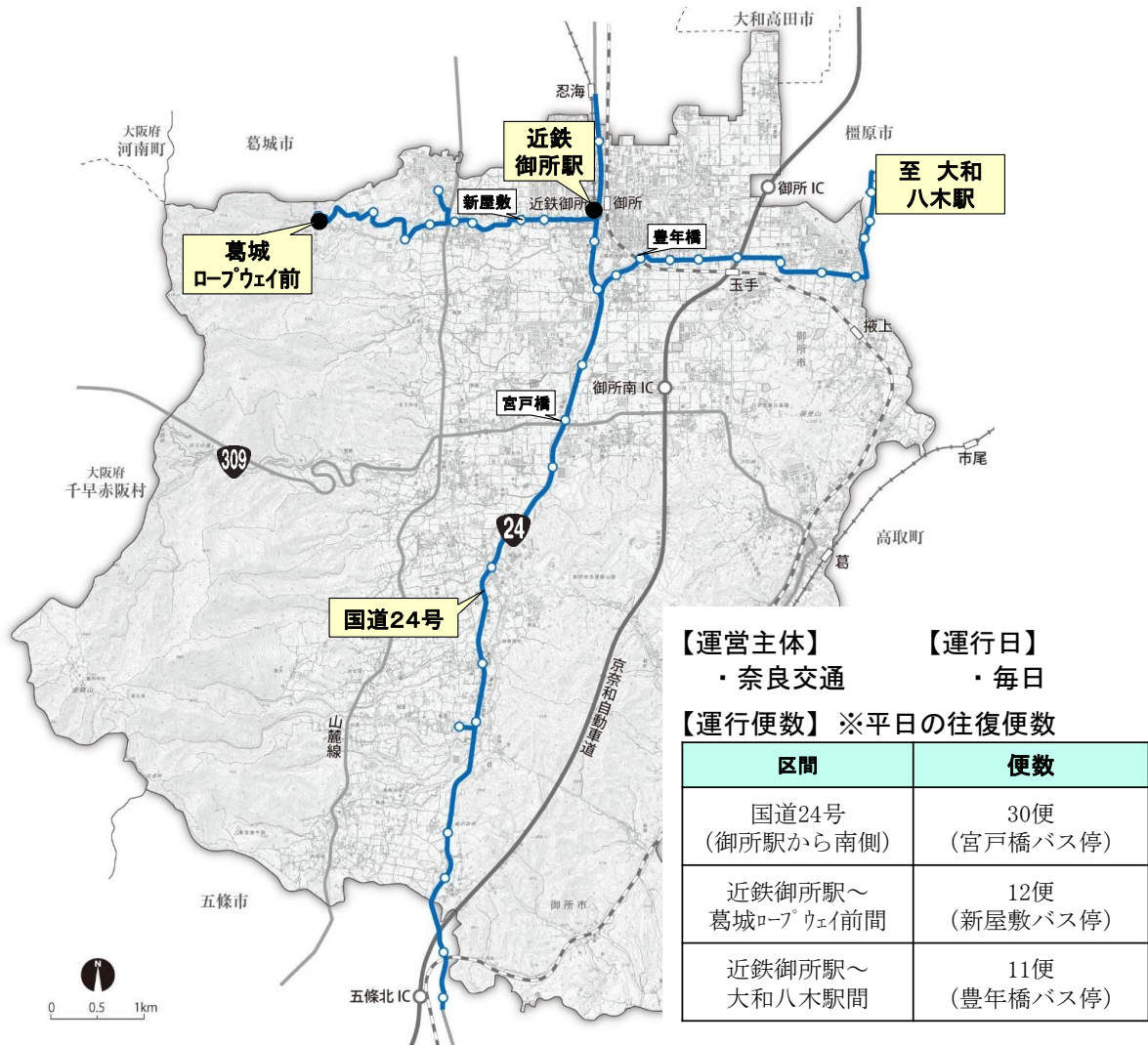
御所市のバスルート

※出典：路線バスは路線バス事業者の HP、コミュニティバスは市 HP

(I) 路線バスの概要

路線バスは「奈良交通」が運行している。

主な運行ルートは、国道 24 号を南北方向に、1 日 30 便運行する区間と、近鉄御所駅を起・終点に、西側の葛城ロープウェイ前と東側の大和八木駅の間で運行している。



路線バスのルート

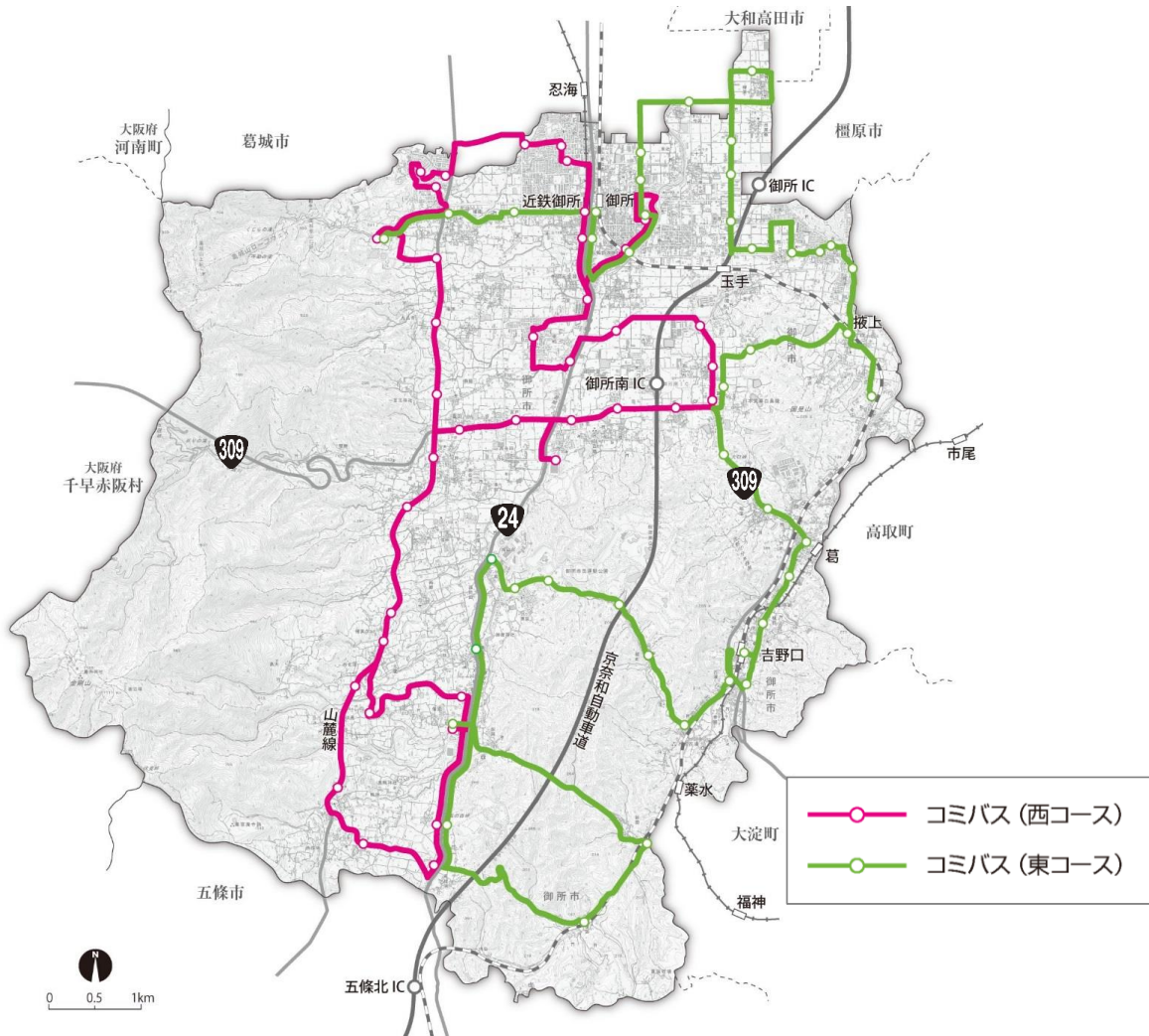
※出典：奈良交通HP

(オ) コミュニティバスの概要

a 運行状況

コミュニティバスは、市が交通事業者に委託して運行している。

主に市の西側（山麓線等）を運行する西コースと、市の東側を運行する東コースがある。



コミュニティバスのルート



【運営主体】

・御所市

【運行日】

・毎日

【運賃】

・1人1乗車 100円(小学生以下は無料)

【運行便数】

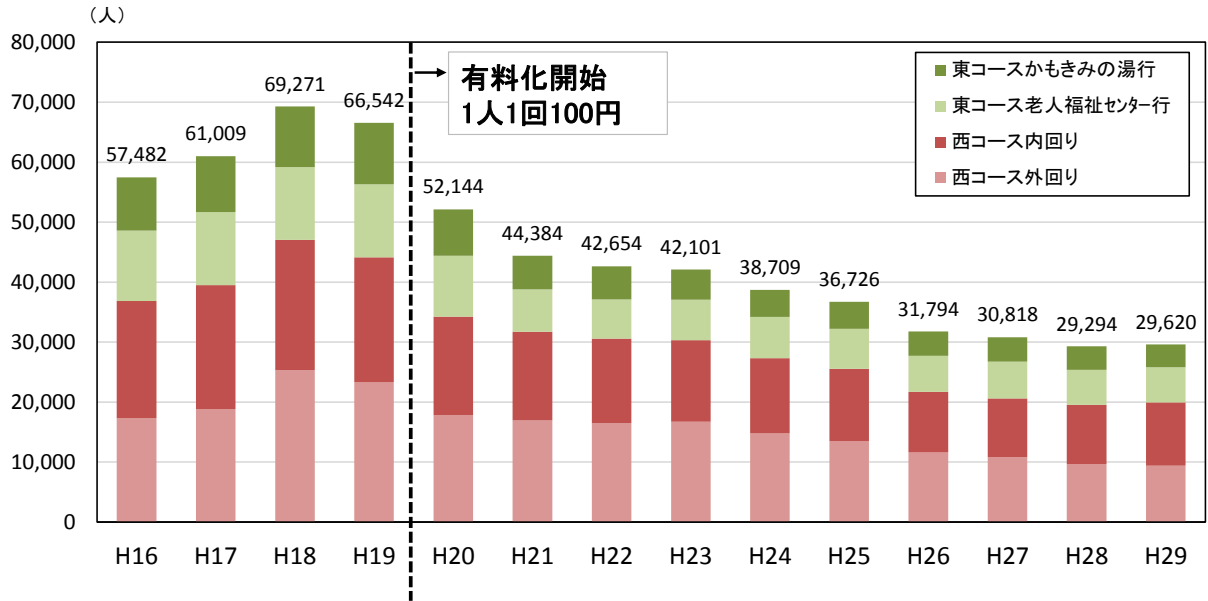
ルート	平日
西コース	6便/日
東コース	6便/日
計	12便/日

※出典：御所市HP

b 利用者数

平成 29 年度のコミュニティバスの利用者は約 3 万人である。

利用者数は平成 18 年度の約 6 万 9000 人をピークに減少しており、特に、平成 20 年度からの有料化（1 人 1 回 100 円）により大きく減少している。

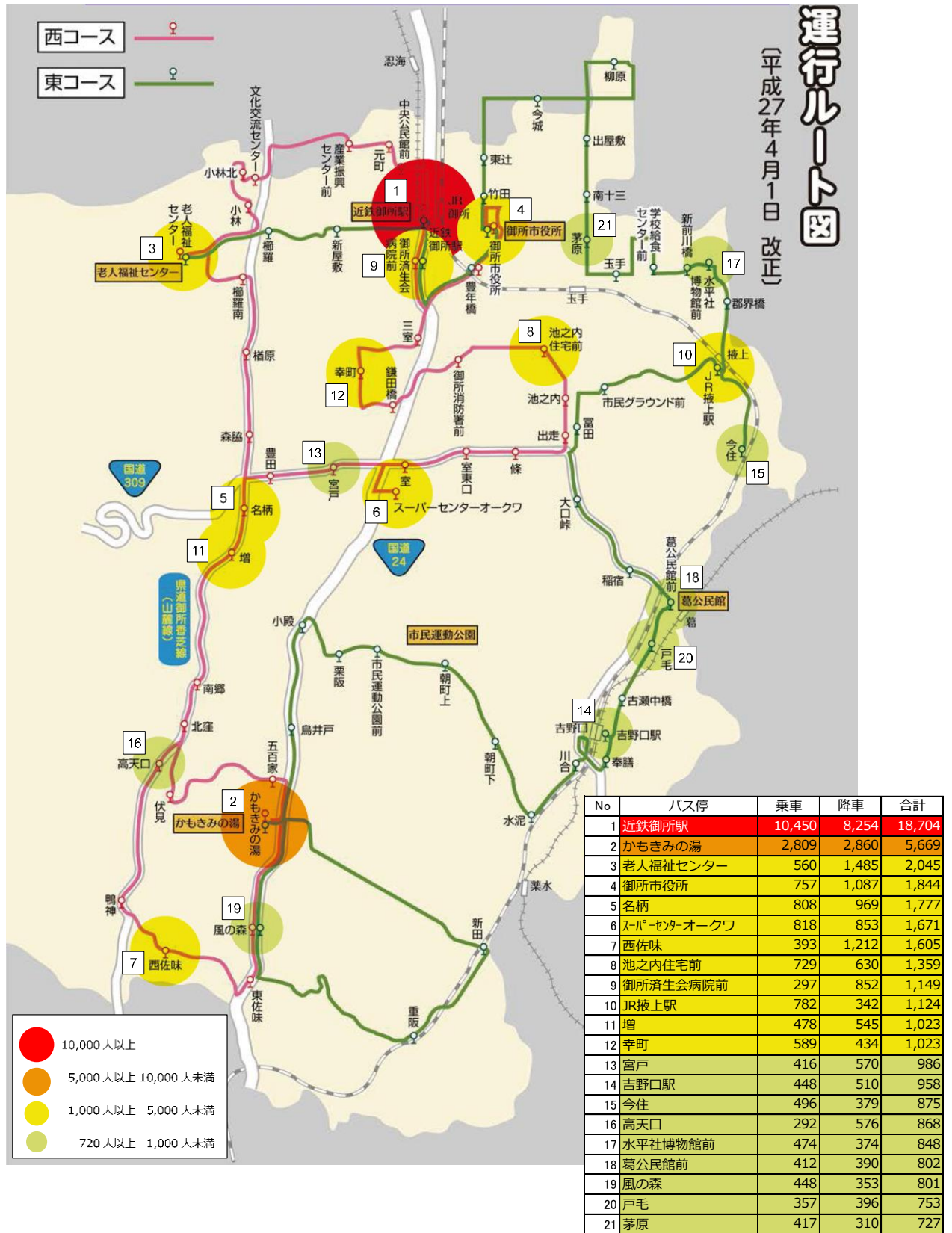


コミュニティバスの利用者数の推移

※出典：御所市調べ

c バス停別の利用状況

平成 29 年度のバス停別利用者数（乗降数）では、近鉄御所駅での乗り降り人数が最も多く、次いで、かもきみの湯である。



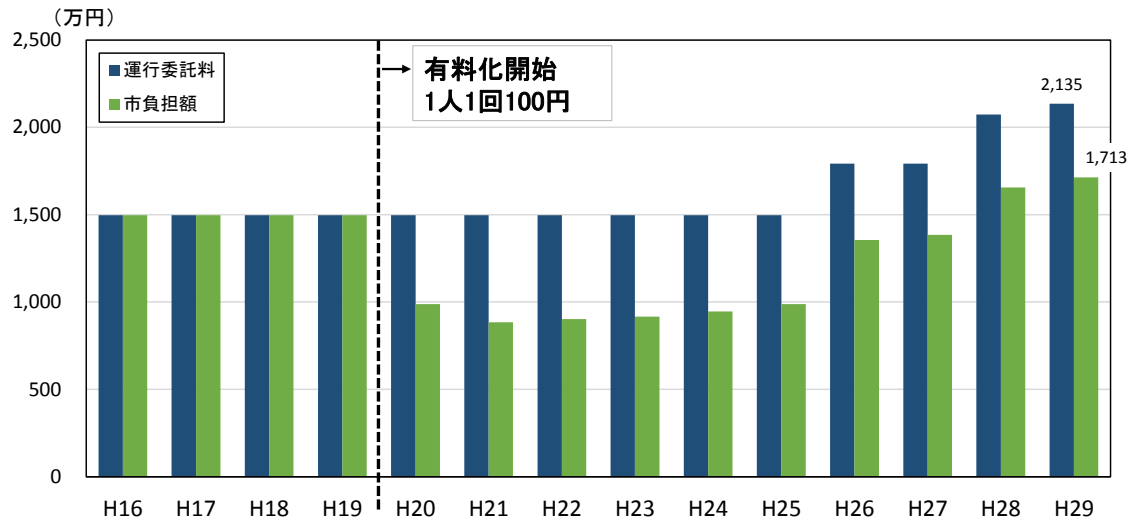
※出典：御所市調べ

コミュニティバスのバス停別の利用者数

d 運行委託料

平成 29 年度のコミュニティバスの運行委託料は約 2100 万円である。運行委託料は平成 18 年度から約 1500 万円で推移していたが、平成 26 年度以降増加している。

また、市負担額（運行委託料から利用料金及び広告料を差し引いた額）は、平成 29 年度は約 1700 万である。



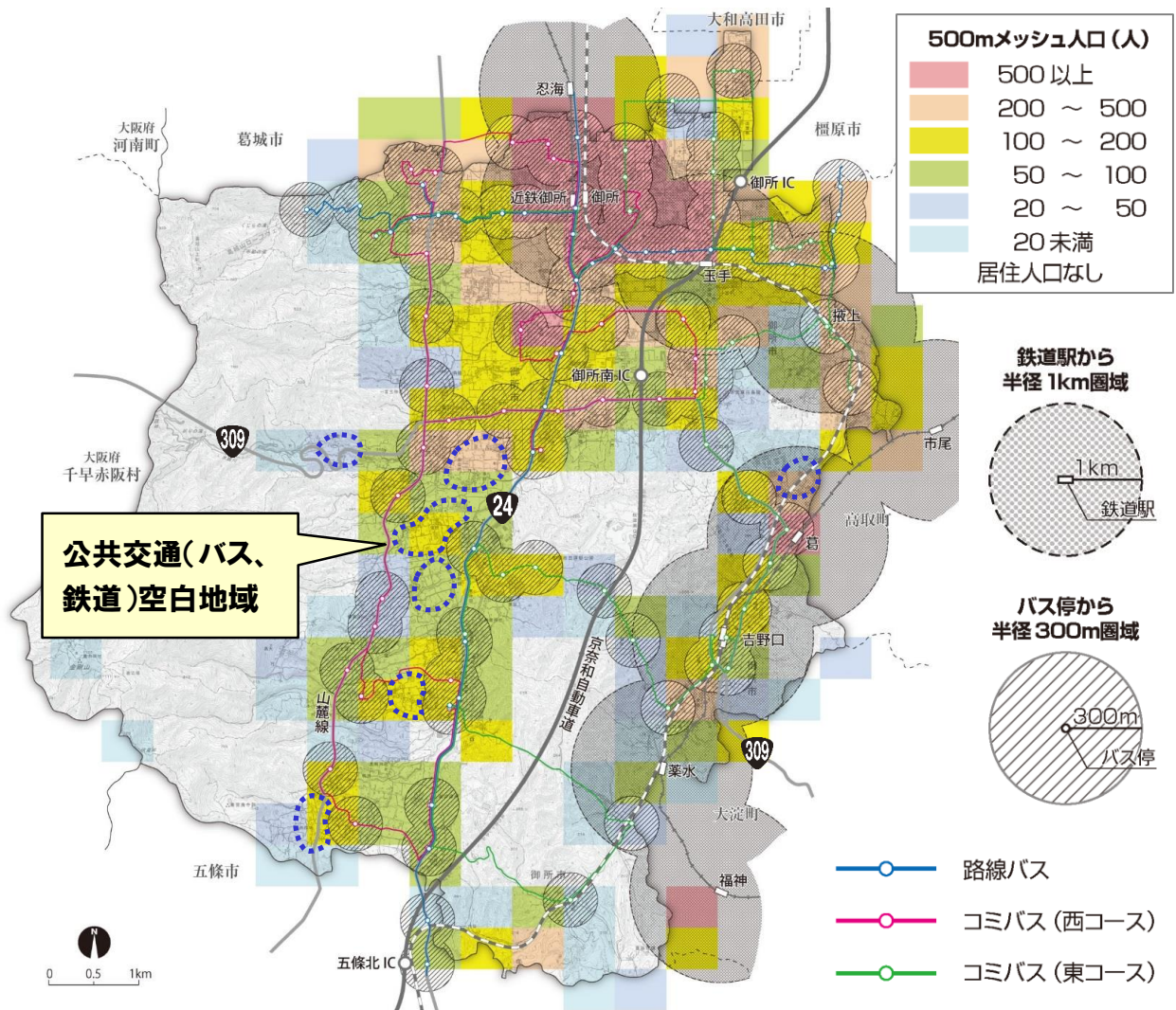
コミュニティバスの運行委託料及び市負担額の推移

※出典：御所市調べ

ウ 公共交通空白地域

公共交通（鉄道、バス）空白地域とは、鉄道駅から半径 1km 以遠、バス停から 300m 以遠と設定している。

市内の公共交通空白地域は、主に、山麓線と国道 24 号の間、東エリアの一部に分布している。



人口分布と公共交通空白地域

※出典：平成 27 年国勢調査

(3) 現状のまとめ

ア 地域の現状

- ・人口は、昭和 50 年の約 3 万 8 千人をピークに減少しているが、今後、出生率の向上策及び転出抑制策により、平成 52 年（2040 年）に約 2 万 1 千人を目指している。地区別にみると、人口は市の北部に集中しており、御所駅（近鉄、JR）や市役所周辺に多く分布している。
- ・高齢化率は、増加傾向であり、奈良県又は周辺他市と比べて高く、地区別にみると、市の北部に比べて、中南部に高齢化率が高い地区（40%以上）が多い。
- ・御所市の財政の状況は、歳入は市税が減少傾向であり、歳出は扶助費が年々増加傾向であり、今後も増加していくものと想定される。
- ・市内には山地や農地が多く、近鉄・JR 御所駅周辺に市街地が広がっている。
- ・市内の道路は、南北に通過する国道 24 号、山麓線、京奈和自動車道等の主要道路はあるが、主要道路以外の生活道路などは、狭隘な道路が多い状況である。
- ・市の主な施設（公共施設、商業施設等）は、北部の近鉄・JR 御所駅周辺に多く分布している。

イ 交通の現状

- ・通勤・通学については、特に、大阪市に流出している。流出人口が流入人口に比べて約 1.16 倍と多い状況である。
- ・移動手段は、自動車の割合が 64%と最も高く、公共交通（鉄道、バス）の利用の割合は約 9.9%と県内の隣接自治体（葛城市、橿原市、高取町）と比べ低い状況である。
- ・市内の公共交通は、鉄道、タクシー、バスがあり、バスは「路線バス」と「コミュニティバス」が運行している。
- ・路線バスは、主に、国道 24 号を南北方向と、近鉄御所駅を起・終点に、西側の葛城ロープウェイ前と東側の八木駅の間で運行している。一方、コミュニティバスは、市の西側（山麓線等）を運行する西コースと、市の東側を運行する東コースがある。
- ・コミュニティバスの利用数は、年間約 3 万人であり、平成 18 年度の約 6 万 9000 人をピークに減少している。バス停別にみると、利用者数（乗降数）は、近鉄御所駅が最も多く、次いで、かもきみの湯であった。
- ・コミュニティバスの市負担額（運行委託料から利用料金及び広告料を差し引いた額）は、平成 29 年度は約 1700 万である。
- ・バス空白地域は、主に、山麓線と国道 24 号の間、東エリアの一部に分布している。

6 住民アンケート調査

公共交通運行効率化計画の作成にあたって、市内の公共交通について市民の皆さんのニーズ等をお聞きするため、「住民アンケート調査」と「コミュニティバス利用者調査」を行った。

(1) 住民アンケート調査の結果

ア 住民アンケート調査の概要

概要を以下に示す。

項 目	内 容
概 要	御所市の公共交通についての利用の有無等の利用実態を把握するために市内 3,000 世帯を無作為抽出により選び、郵送によるアンケート調査を実施した。
調査時期	平成 30 年 8 月 7 日（火）～8 月 20 日（月）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査対象	市内 3,000 世帯（無作為抽出） ※ 1 枚の調査票で 4 名まで記入可能 ※ 中学生以上を対象
回収数	1,175 票（回収率 39.2%）
有効回収数	1,175 票（有効回収率 39.2%） ※ 回収数から白票を除いたもの
有効回答者数	2,620 人（1 票あたり平均 2.2 人回答）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・属性（居住地、性別、年齢、職業、運転免許保有の有無等）・普段の生活での外出について（主な目的、目的地、出かける頻度等）・鉄道に関する意見（利用の有無、満足度）・路線バスに関する意見（利用の有無、満足度）・コミュニティバスに関する意見（認知度、利用の有無、満足度等）・今後の公共交通について（市内の公共交通が利用しやすくなって行きたい場所、利用意向等）・公共交通に関する自由意見

イ 属性
(7) 居住地

- ・アンケートの有効回収数は、全体で 1,175 票であり、大正地区が最も多く、忍海地区が最も少ない。
- ・アンケートの有効回収率は、全体で 39.2%であり、葛地区が 48.4%と高く、御所地区が 26.6%と低い。

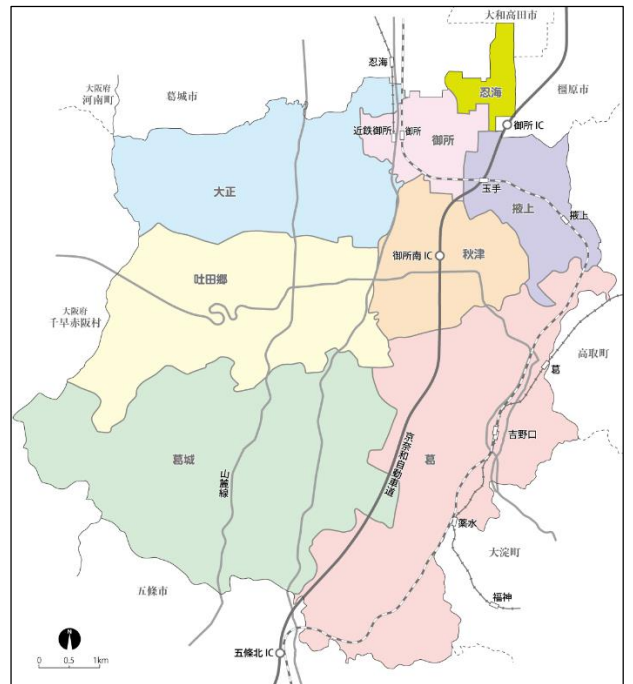
■配布数、有効回収数、有効回収率、有効回答者数一覧（地区別）

項目	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	掖上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等	計
配布数	659 票	289 票	206 票	275 票	382 票	254 票	776 票	159 票	-	3,000 票
有効回収数	175 票	99 票	90 票	133 票	143 票	119 票	337 票	59 票	20 票	1,175 票
有効回収率	26.6%	34.3%	43.7%	48.4%	37.4%	46.9%	43.4%	37.1%	-	39.2%
有効回答者数	384 人	226 人	221 人	309 人	315 人	275 人	720 人	131 人	39 人	2,620 人

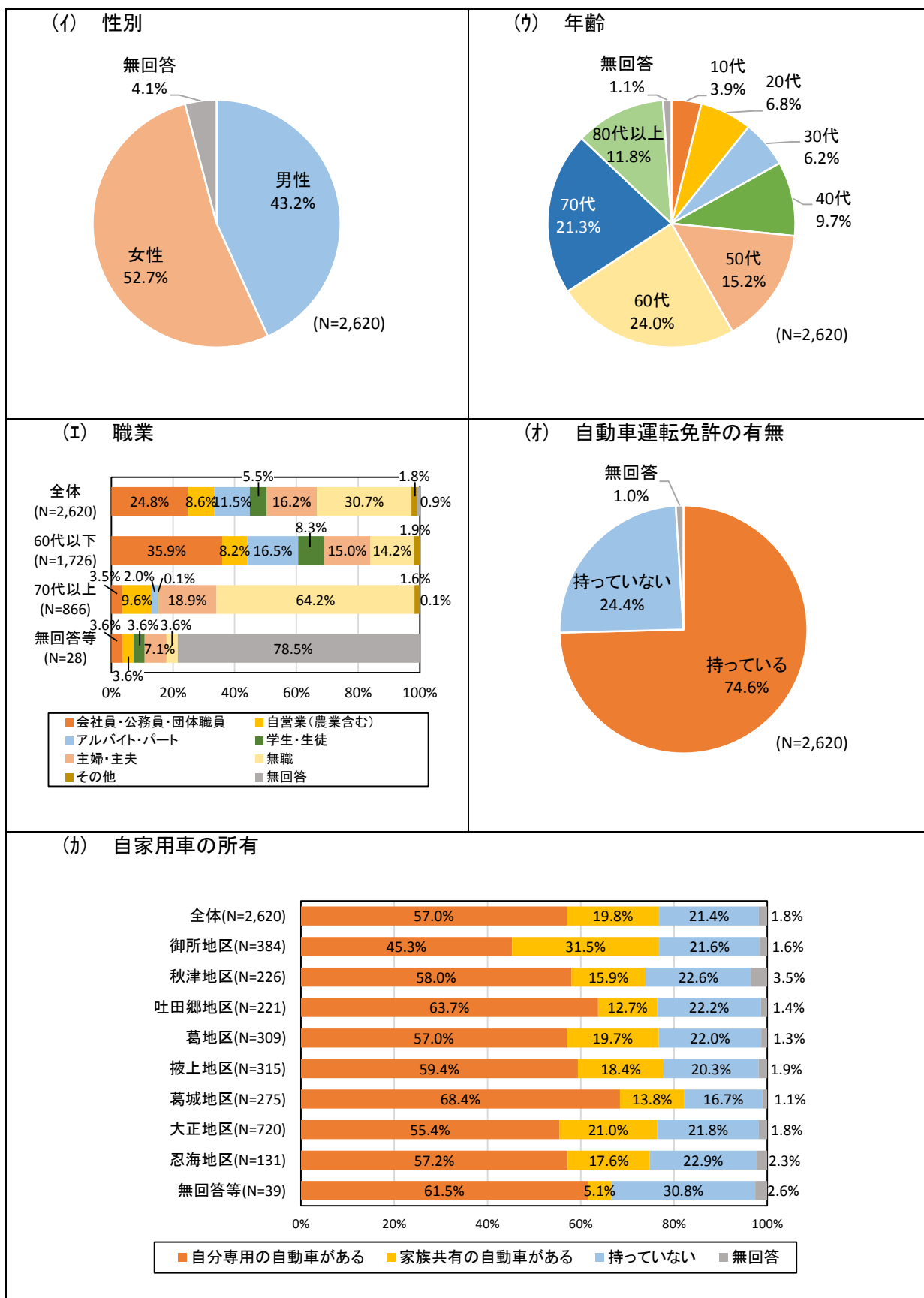
※1 地区について

- ・当資料の地区は、市内を 8 地区で分けした。
- ・各地区に属する大字通称名は以下とした。

	大字通称名
御所地区	御国通 1、JR 御所駅前通り、新地町、末広町、大広町、御国通 2、御国通 3、西町、鴨口町、宮前町、西久保本町、御堂魚棚町、中央通 2、東久保町、中本町、南中町、西柏町、本町、神宮町、中央通 1、栄町、六軒町、柳田町、大橋通 1、大橋 2 東向町、大橋通 3、旭町、柿ヶ坪町、御門町、都町、柳町、寺内町、代官町、豊年橋通、南十三
秋津地区	池之内、今出、蛇穴、條、出走、富田、西垣内、緑ヶ丘、室、秋津団地
吐田郷地区	多田、関屋、豊田、名柄、西寺田、東名柄、増、宮戸、森脇、宮戸団地、南寺田
葛地区	朝町、稲宿、今住、川合、古瀬、新田、戸毛、樋野、奉膳、重阪、水尻
掖上地区	上方、北方、玉手、茅原、中方、原谷、東寺田、本馬、緑町、茅草
葛城地区	朝妻、五百家、井戸、小殿、鴨神下、鴨神上、北窪、栗阪、極楽寺、佐田、下茶屋、僧堂、高天、鳥井戸、南郷、西北窪、西佐味、林、東佐味、船路、伏見、持田
大正地区	櫛羅、小林、幸町、竹田、檜原、東松本、三室、三室新町、元町、さくらヶ丘、葛城台第 1、葛城台東、葛城台第 2、葛城台西、京阪ハイツ
忍海地区	今城、北十三、出屋敷、東辻、柳原



有効回答数 1,175 票に対して、有効回答者数が 2,620 人であり、これ以降は 2,620 人の有効回答者数で整理した。



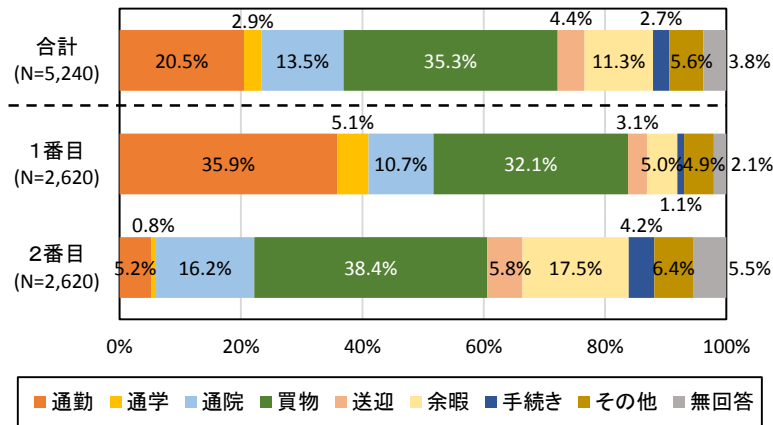
ウ 普段の生活での外出（通勤・通学・通院・買物 等）について

「最もよく出かける外出先」について

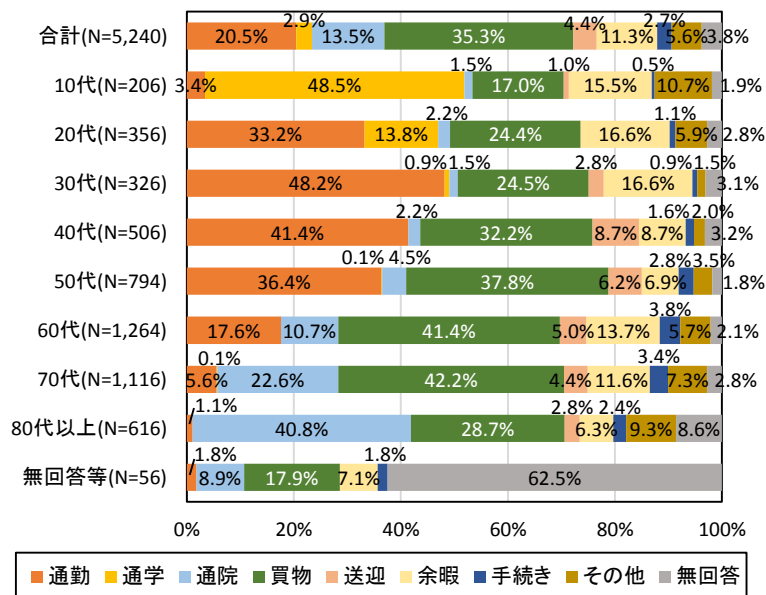
(7) 出かける主な目的

- ・ 出かける主な目的は、全体では「買物」が 35.3%と最も多く、次いで「通勤」が 20.5%であった。
- ・ 年齢別にみると、10代は「通学」、20代から40代では「通勤」が多く、50代から70代では「買物」、80代以上では「通院」が多い。
- ・ 地区別にみると、いずれの地区においても「買物」が約 30~40%、次いで「通勤」が約 15~25%と多い。

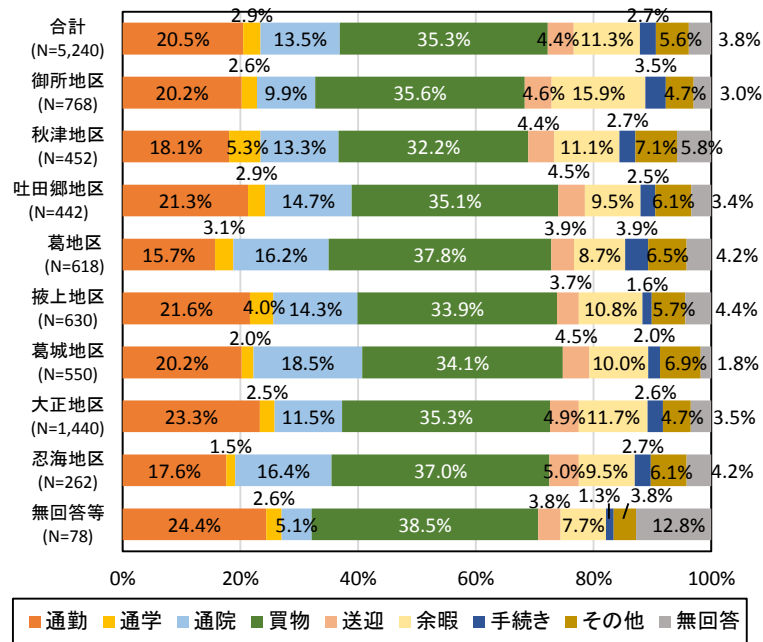
【出かける主な目的】



【出かける主な目的（年齢別）】

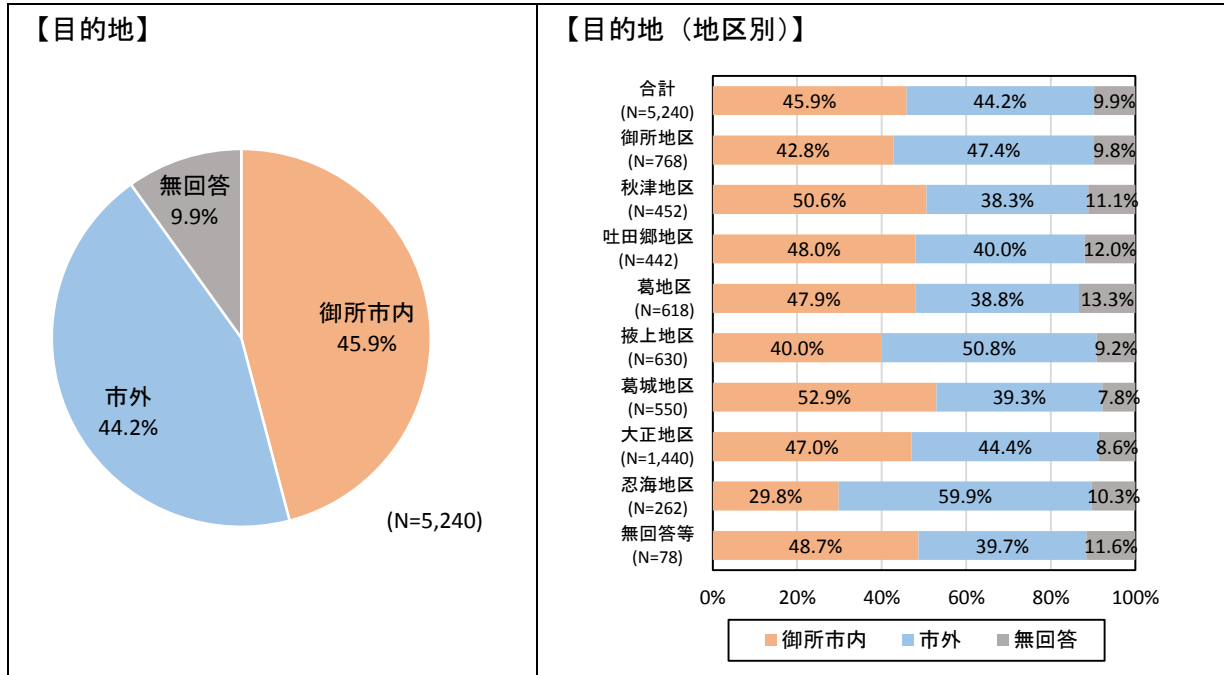


【出かける主な目的（地区別）】



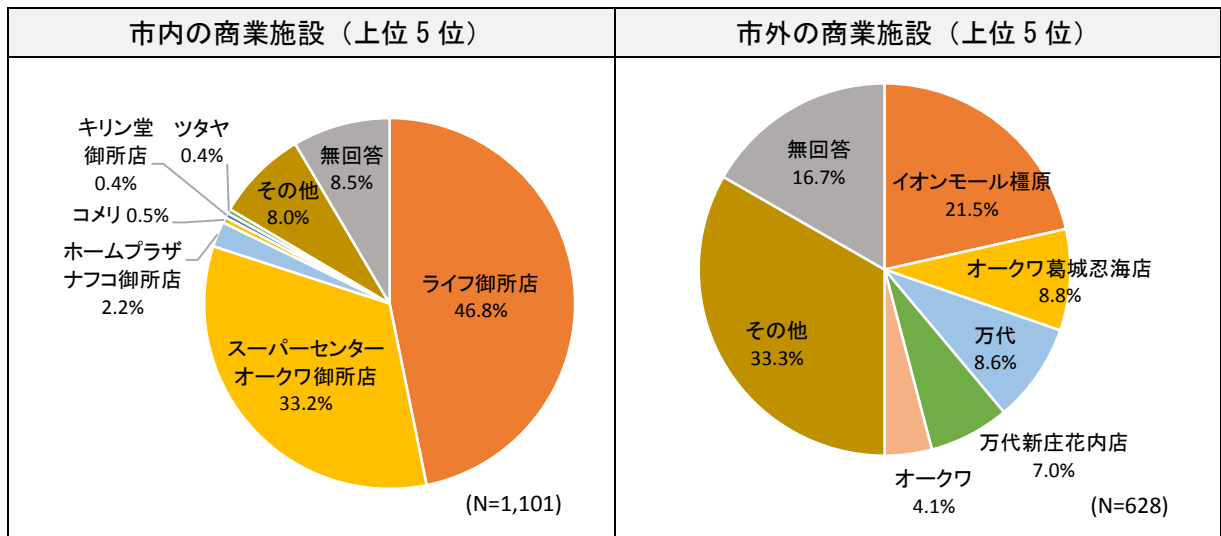
(イ) 目的地（具体の施設名称も記載）

- 目的地は、「御所市内」が45.9%と、「市外」(44.2%)に比べやや多い。
- 地区別にみると、秋津地区、葛城地区では「御所市内」がそれぞれ50.6%、52.9%と多いが、市北部の掖上地区、忍海地区では「市外」がそれぞれ50.8%、59.9%と、他地区に比べ市外を目的にしている人が多い。



- ・具体的に記載のあった施設名称の中で、「商業施設」と「医療機関」を市内・市外で集計した。
- ・市内の商業施設では、「ライフ御所店」が46.8%、次いで「スーパーセンターオークワ御所店」(33.2%)の順に多い。地区別にみると、市北部の御所地区、掖上地区、大正地区、忍海地区は「ライフ御所店」が多く、市南部の秋津地区、吐田郷地区、葛地区、葛城地区は「スーパーセンターオークワ御所店」が多い。
- ・一方、市外の商業施設は、「イオンモール橿原」が21.5%、次いで「オークワ葛城忍海店」(8.8%)の順に多い。地区別にみると、「イオンモール橿原」は御所地区、掖上地区、大正地区が多い。

【商業施設】



■市内の商業施設（上位5位）地区別

(単位：人)

店舗名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	掖上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
ライフ御所店	515	109	26	24	37	62	27	206	15	9
スーパーセンターオークワ御所店	366	19	46	61	78	25	78	46	8	5
ホームプラザナフコ御所店	24	1	4	5	5	5	3	1	0	0
コメリ	5	1	2	0	1	0	0	0	1	0
キリン堂御所店	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0
ツタヤ	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0
その他	88	4	5	8	10	11	11	34	5	0
無回答	95	12	10	8	11	8	14	24	2	6
計	1,101	149	93	106	142	111	134	312	34	20

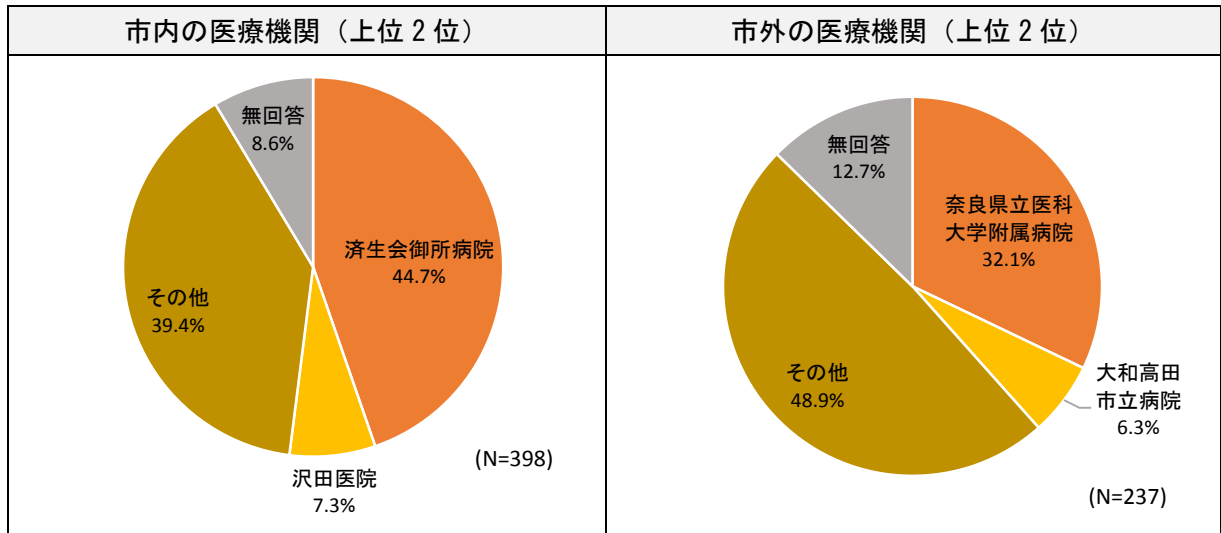
■市外の商業施設（上位5位）地区別

(単位：人)

店舗名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	掖上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
イオンモール橿原	135	18	10	13	17	22	15	32	6	2
オークワ葛城忍海店	55	12	1	0	1	6	0	19	16	0
万代	54	11	7	1	2	9	4	18	2	0
万代新庄花内店	44	15	3	1	0	2	1	10	12	0
オークワ	26	5	0	2	3	5	2	7	1	1
その他	209	34	14	12	37	35	13	50	12	2
無回答	105	13	5	4	11	14	7	38	9	4
計	628	108	40	33	71	93	42	174	58	9

- ・市内の医療機関では、「済生会御所病院」が44.7%、次いで「沢田医院」(7.3%)の順に多い。地区別にみても、全ての地区で「済生会御所病院」が多い。なお、医療機関については、個人の医院・クリニックに行っている方が多数みられる。
- ・一方、市外の医療機関では、橿原市の「奈良県立医科大学附属病院」が32.1%、次いで大和高田市の「大和高田市立病院」(6.3%)の順に多い。地区別にみると、市北部の方が「奈良県立医科大学附属病院」に行く方が多い。

【医療機関】



■市内の医療機関（上位2位）地区別

(単位：人)

病院名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	掖上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
済生会御所病院	178	25	21	22	14	14	35	36	11	0
沢田医院	29	4	5	4	4	1	7	4	0	0
その他	157	11	16	13	31	23	19	40	2	2
無回答	34	2	2	1	6	6	6	10	0	1
計	398	42	44	40	55	44	67	90	13	3

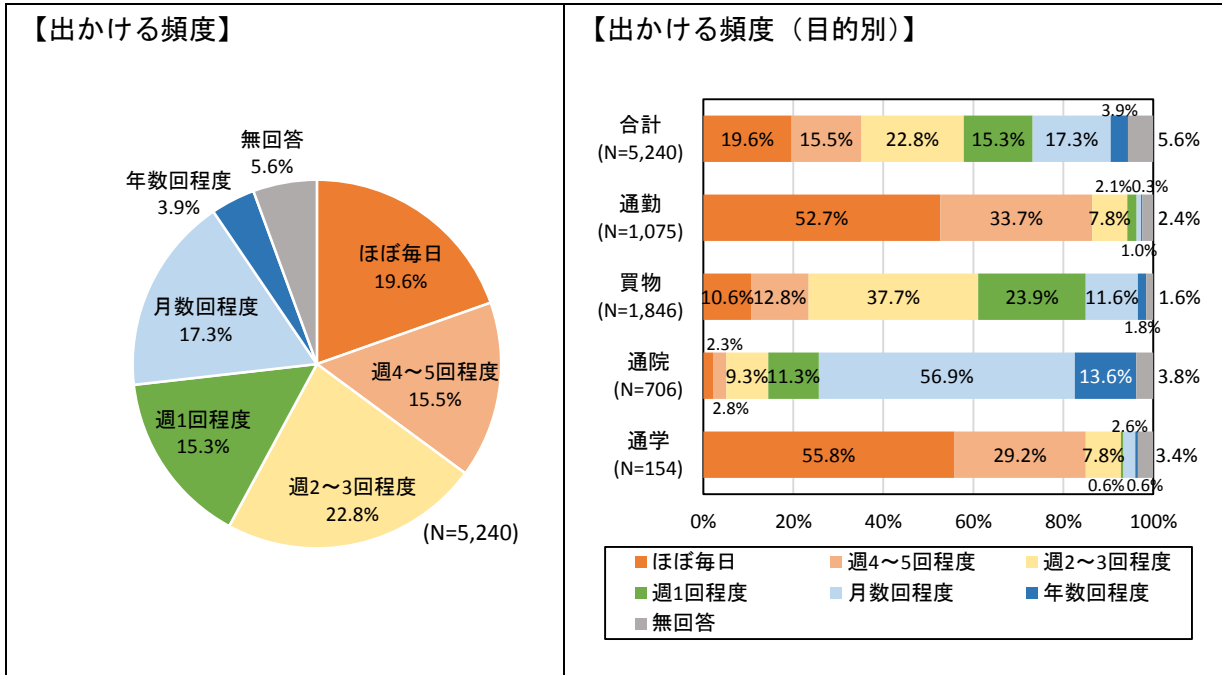
■市外の医療機関（上位2位）地区別

(単位：人)

病院名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	掖上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
奈良県立医科大学附属病院	76	7	5	5	5	17	7	20	10	0
大和高田市立病院	15	3	0	2	2	3	2	2	1	0
その他	116	9	6	10	17	15	18	26	14	1
無回答	30	2	2	2	6	3	2	10	3	0
計	237	21	13	19	30	38	29	58	28	1

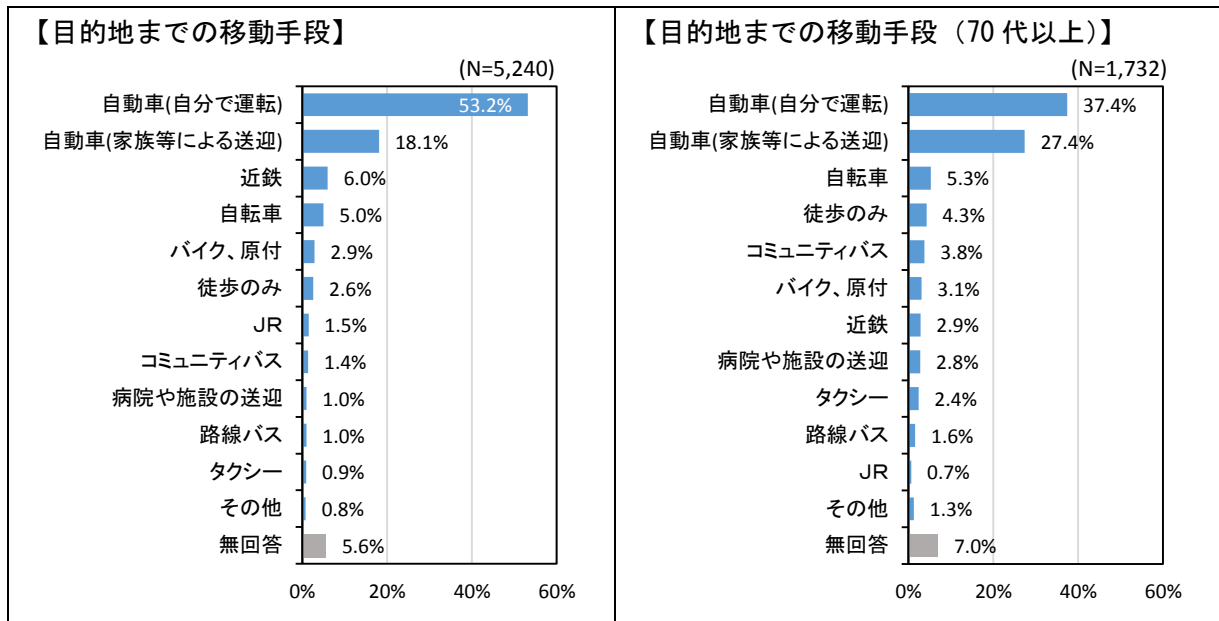
(ウ) 出かける頻度

- ・ 出かける頻度は、「週 2～3 回程度」が 22.8%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が 19.6%であった。
- ・ 目的別にみると、『通勤』は「ほぼ毎日」が多く、『買物』は「週 2～3 回程度」、『通院』は「月数回程度」、『通学』は『通勤』と同様に「ほぼ毎日」が多い。

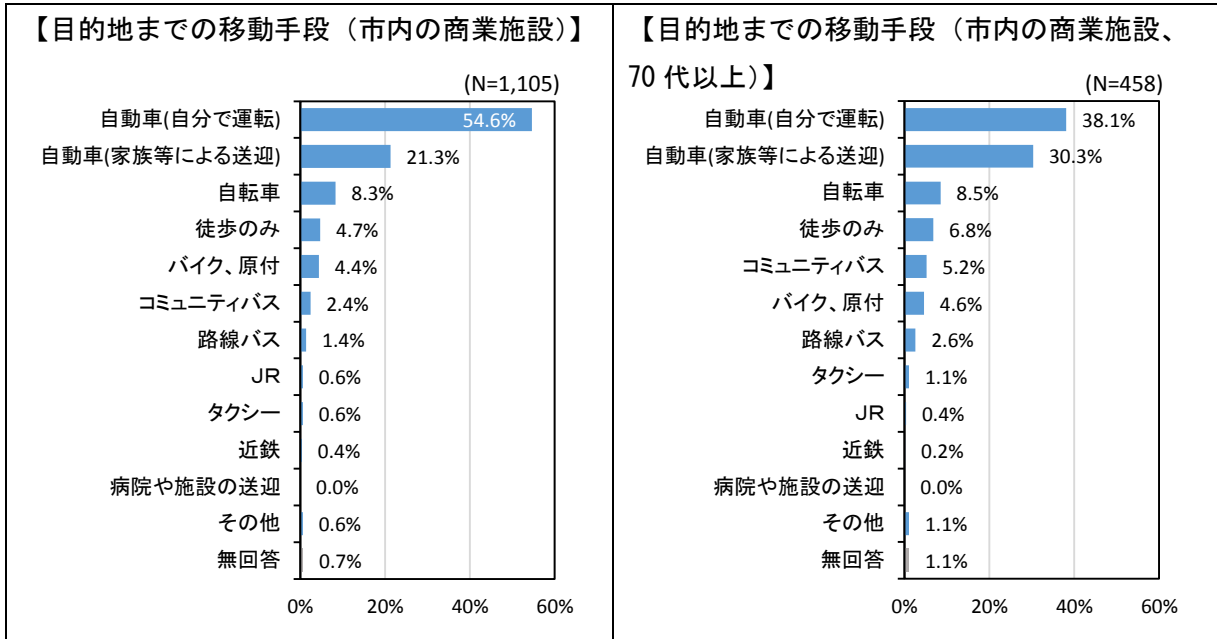


(I) 目的地までの移動手段

- ・全体では、移動手段は、「自動車（自分で運転）」が 53.2%と最も多く、次いで「自動車（家族等による送迎）」が 18.1%であった。
- ・「自動車（自分で運転）」と「自動車（家族等による送迎）」を合計すると 71.3%であり、公共交通（JR・近鉄・路線バス・コミュニティバス・タクシー）を全て合計すると 10.8%と、約 10 人に 1 人が公共交通を移動手段としている。
- ・70 代以上では、「自動車（自分で運転）」が 37.4%と最も多く、次いで「自動車（家族等による送迎）」が 27.4%であり、「自動車（家族等による送迎）」は全体（18.1%）と比べて、約 9.3 ポイント高くなる。



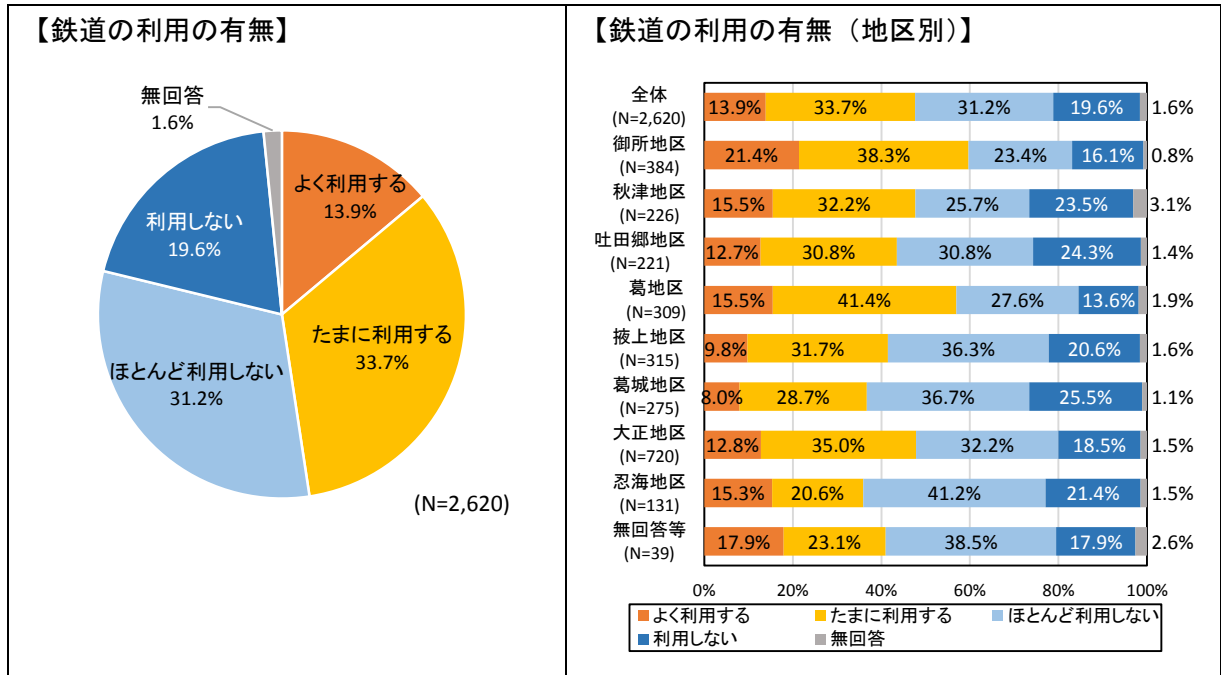
- 全体では、「市内の商業施設」を目的にした方の移動手段をみると、「自動車（自分で運転）」が54.6%と最も多く、次いで「自動車（家族等による送迎）」が21.3%であった。
- 70代以上では、「自動車（自分で運転）」が38.1%と最も多く、次いで「自動車（家族等による送迎）」が30.3%であり、「自動車（家族等による送迎）」は全体（21.3%）と比べて、約9.0ポイント高くなる。



エ 鉄道（JR・近鉄）について

(7) 鉄道（JR、近鉄）の利用の有無

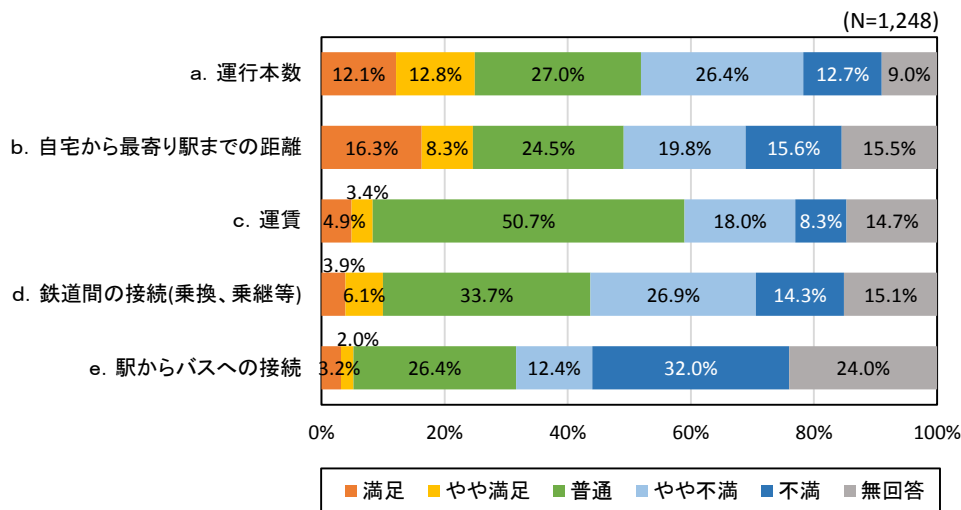
- ・鉄道の利用状況については、「よく利用する」と「たまに利用する」を足して47.6%と、およそ2人に1人が利用したことがあると回答している。
- ・地区別にみると、「よく利用する」と「たまに利用する」を足すと御所地区、葛城地区では50%を超えるが、吐田郷地区、掖上地区、葛城地区、忍海地区では約35~43%と少ない。



※(7) 「利用したことがある」を選ばれた方

(イ) 鉄道（JR・近鉄）の満足度

- ・鉄道の満足度が高い項目は「a. 運行本数」で、24.9%が「満足」「やや満足」と回答している。
- ・一方、不満が高い項目は「e. 駅からバスへの接続」で、44.4%が「不満」「やや不満」と回答している。

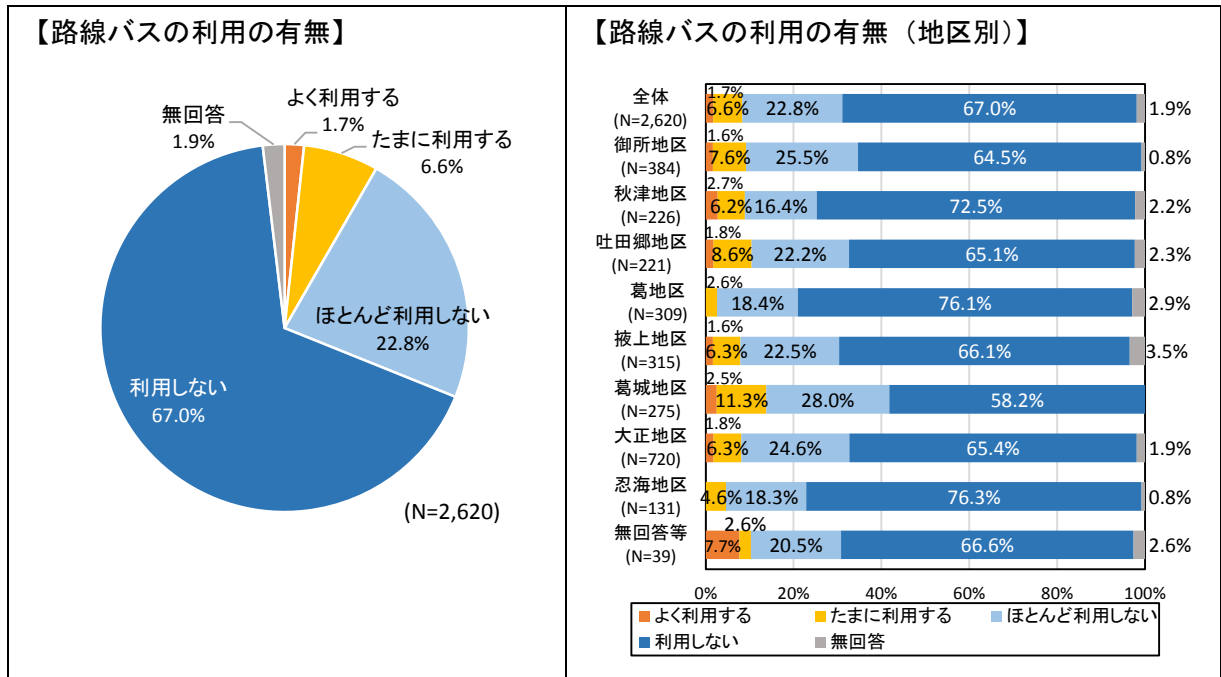


【鉄道の満足度】

オ 路線バス（奈良交通）について

(7) 路線バスの利用の有無

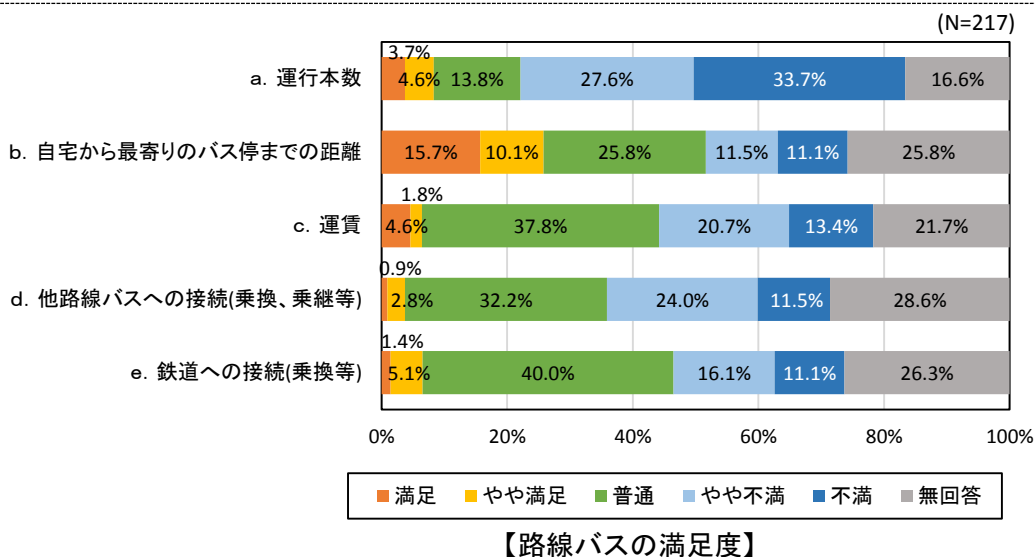
- ・路線バスの利用状況については、「よく利用する」と「たまに利用する」を足して8.3%と、およそ12人に1人が利用したことがあると回答している一方、「ほとんど利用しない」と「利用しない」を足すと89.8%であった。
- ・地区別にみると、「よく利用する」と「たまに利用する」を足すと、吐田郷地区および葛城地区で約10～14%と他の地区に比べて多い。



※(7) 「1. よく利用する」「2. たまに利用する」を選ばれた方

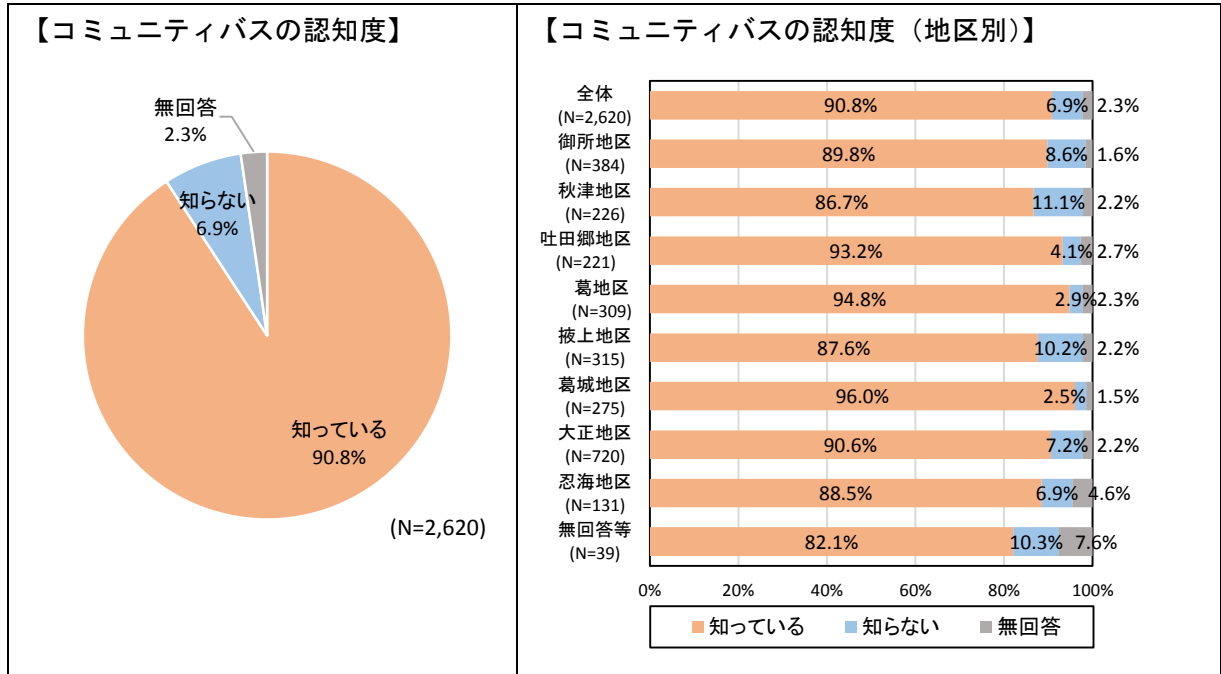
(1) 路線バスの満足度

- ・路線バスの満足度が高い項目は「b. 自宅から最寄りのバス停までの距離」で、25.8%が「満足」「やや満足」と回答している。
- ・一方、不満が高い項目は「a. 運行本数」で、61.3%が「不満」「やや不満」と回答している。



カ 御所市コミュニティバス（以下、「コミュニティバス」とする）について
 (7) コミュニティバスの認知度

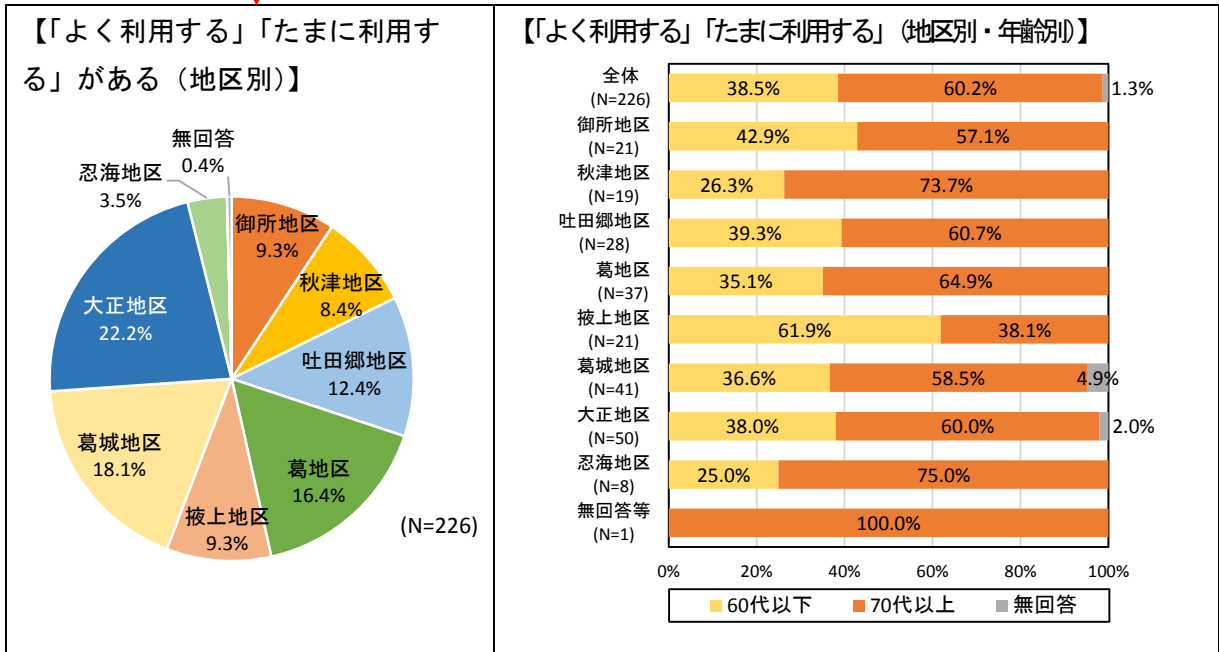
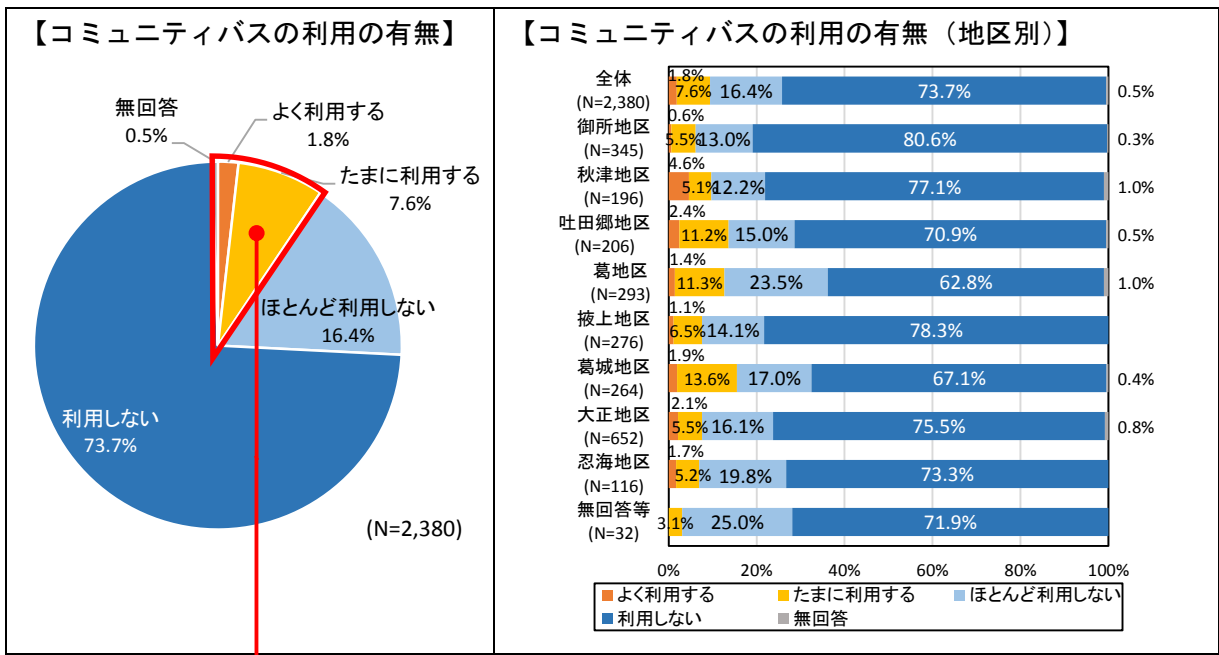
- ・コミュニティバスの認知度は、90.8%が「知っている」と回答している。
- ・地区別にみると、「知っている」が全ての地区で85%を超えている。



※(ア) 「1. 知っている」を選ばれた方

(イ) コミュニティバスの利用の有無

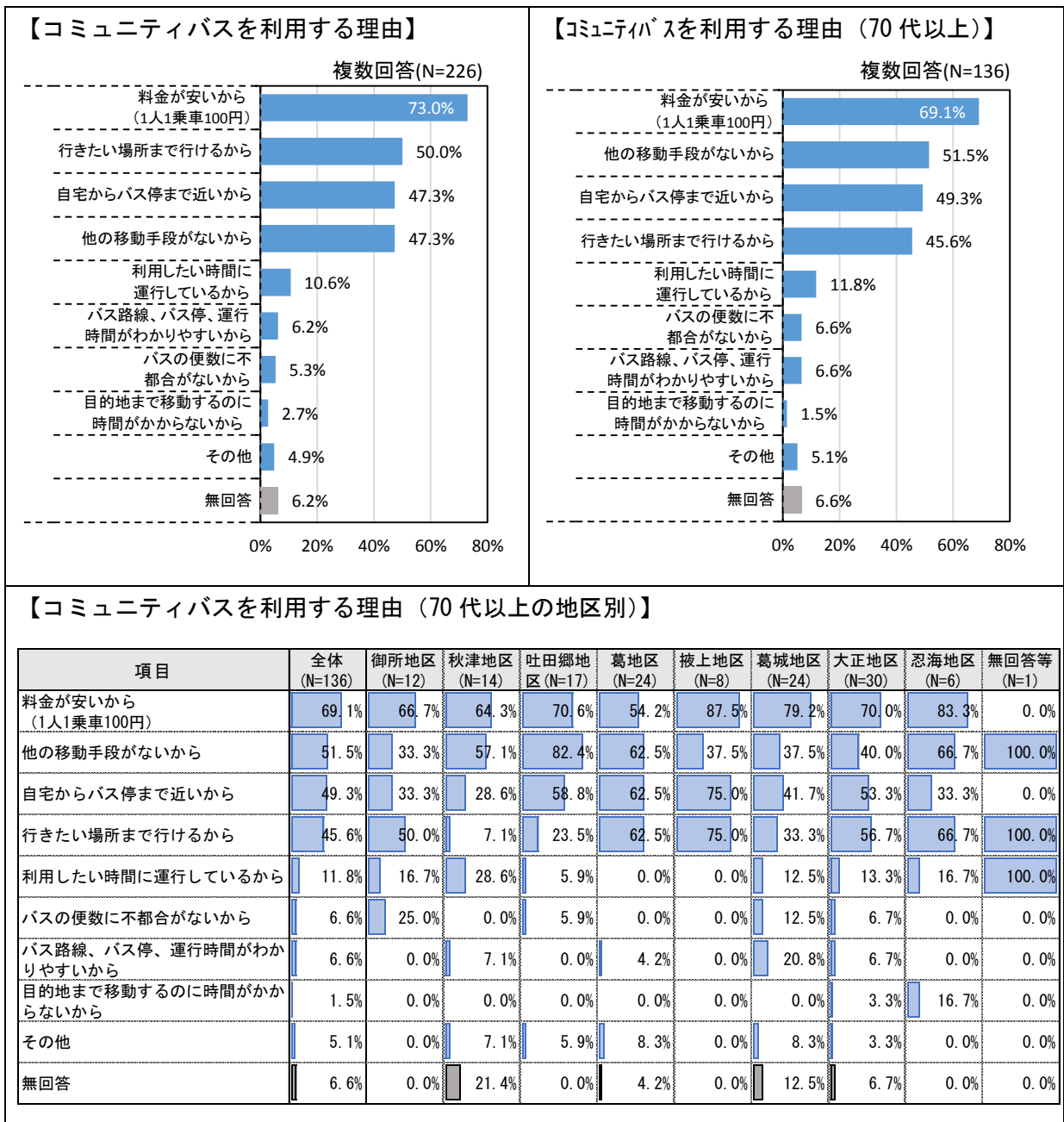
- ・コミュニティバスを「知っている」と回答した人のうち、9.4%が「よく利用する」「たまに利用する」と回答している。
- ・それを地区別にみると、秋津地区、吐田郷地区、葛地区、葛城地区が「よく利用する」「たまに利用する」方が約10～15%と他地区に比べ高い。
- ・また、「よく利用する」「たまに利用する」方を抜き出して、地区別に見ると、大正地区が22.2%と最も多く、次いで葛城地区が18.1%であった。さらに、それを年齢別に見ると、全体では70代以上の方が60.2%であるが、掖上地区は60代以下が61.9%と、他の地区に比べて60代以下の方が多く利用している。



※(イ) 「1. よく利用する」「2. たまに利用する」を選ばれた方

(ウ) コミュニティバスを利用する理由

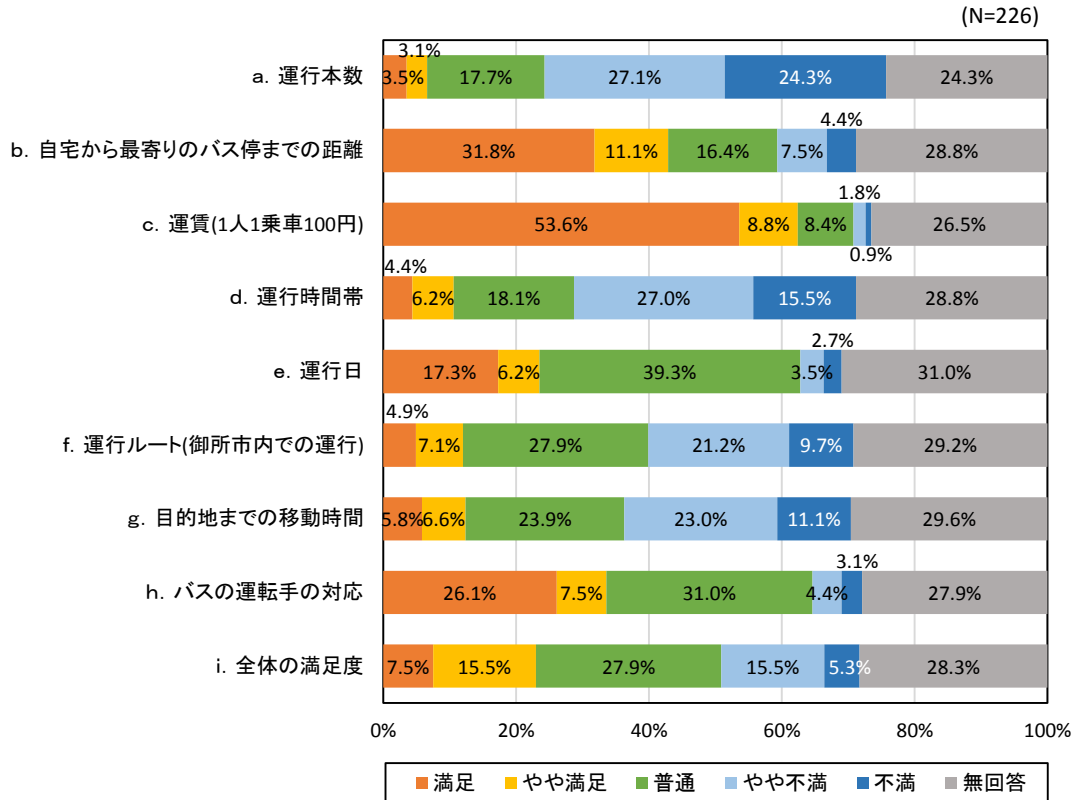
- ・全体では、コミュニティバスを利用する理由については、「料金が安いから」が73.0%と最も多く、次いで「行きたい場所まで行けるから」(50.0%)、「自宅からバス停まで近いから」「他の移動手段がないから」(いずれも47.3%)であった。
- ・70代以上では、「料金が安いから」が69.1%と最も多く、次いで「他の移動手段がないから」(51.5%)、「自宅からバス停まで近いから」(49.3%)であった。
- ・70代以上の地区別にみると、「料金が安いから」は御所地区、秋津地区、掖上地区、葛城地区、大正地区、忍海地区で多く、吐田郷地区、葛地区では「他の移動手段がないから」が多い。



※(イ) 「1. よく利用する」「2. たまに利用する」を選ばれた方

(I) コミュニティバスの満足度

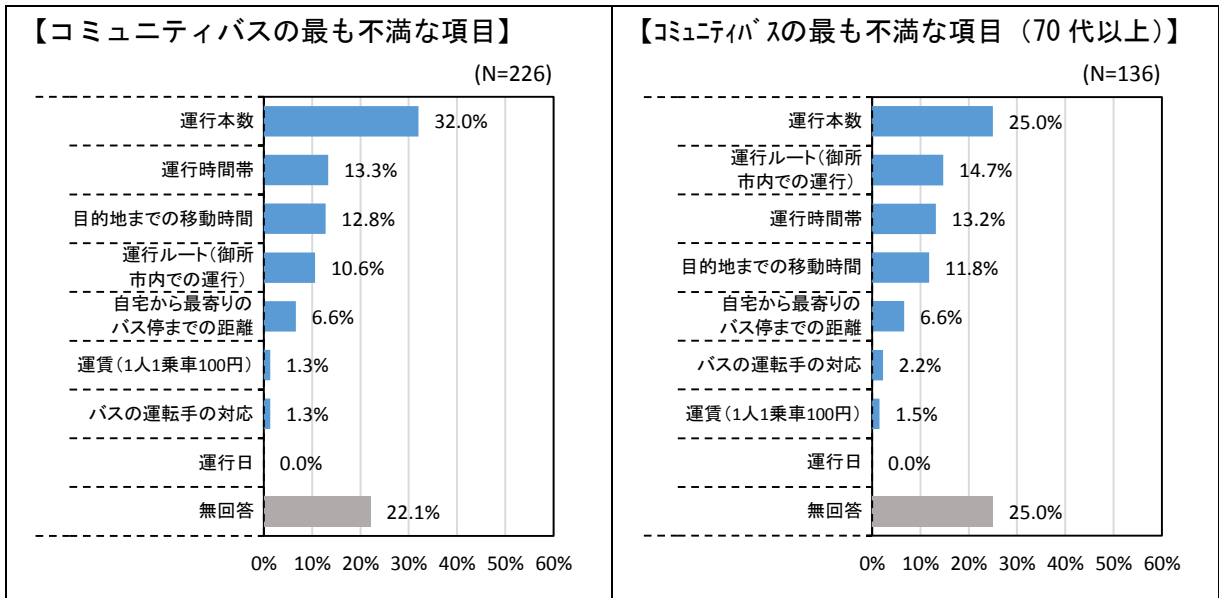
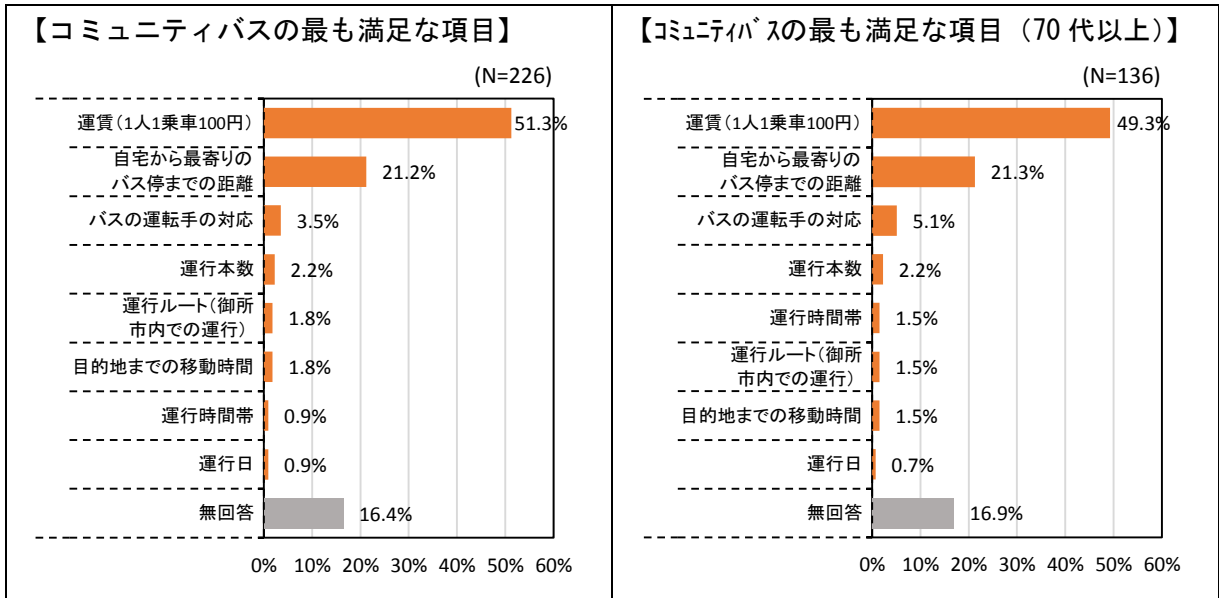
- ・コミュニティバスの満足度が最も高い項目は「c. 運賃」で、62.4%が「満足」「やや満足」と回答している。
- ・一方、不満が最も高い項目は「a. 運行本数」で、51.4%が「不満」「やや不満」と回答している。



【コミュニティバスの満足度】

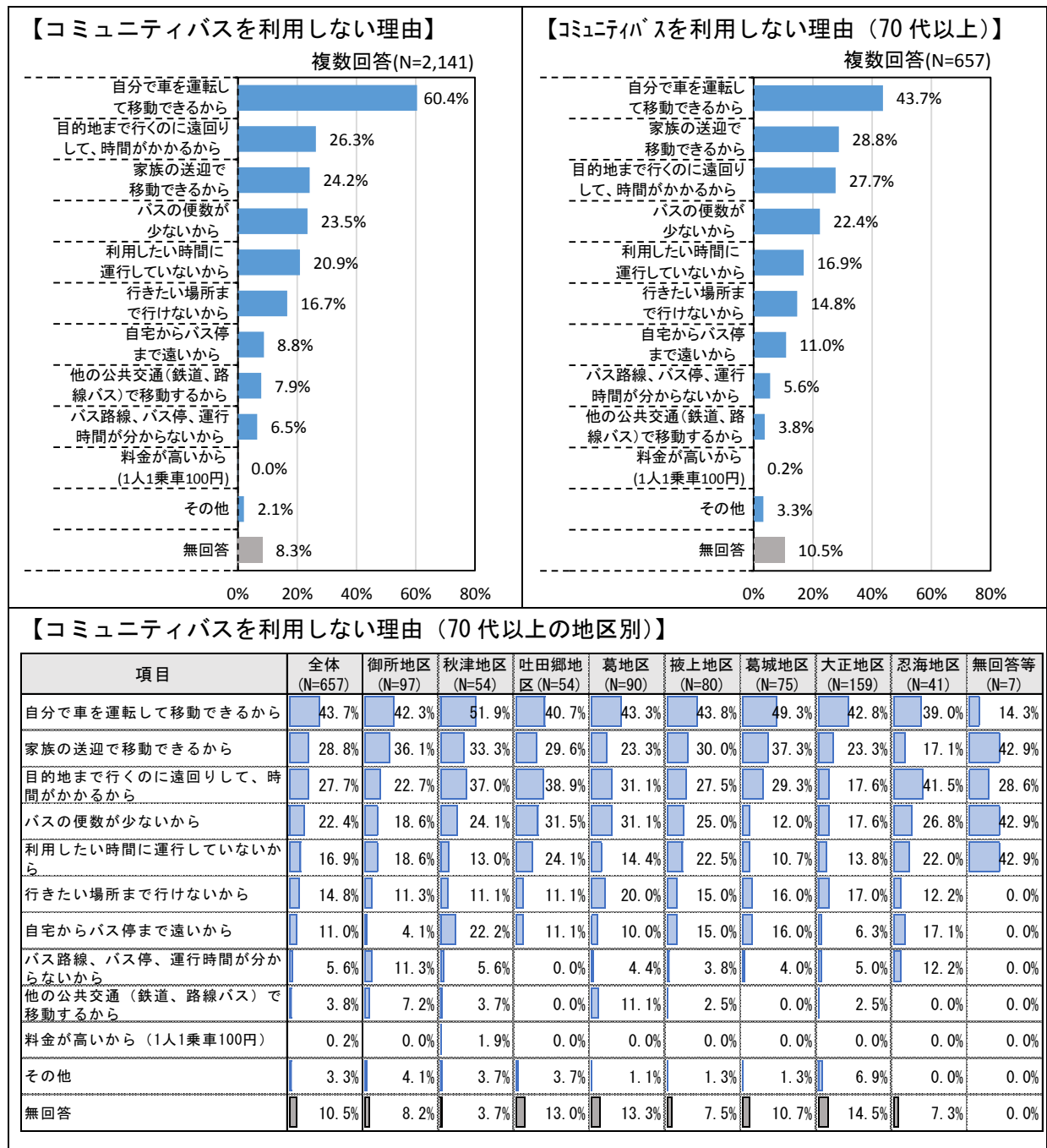
※(イ) 「1. よく利用する」「2. たまに利用する」を選ばれた方
 (オ) コミュニティバス「最も満足」「最も不満」な項目

- ・最も満足の回答が多い項目は、「運賃」が51.3%と多く、次いで「自宅から最寄りのバス停までの距離」(21.2%)であった。70代以上でも「運賃」の満足度は49.3%と高かった。
- ・最も不満の回答が多い項目は「運行本数」が32.0%と多く、次いで「運行時間帯」(13.3%)であった。70代以上でも「運行本数」の不満は25.0%と高かった。



※(イ) 「3. ほとんど利用しない」「4. 利用しない」を選ばれた方
 (カ) コミュニティバスを利用しない理由

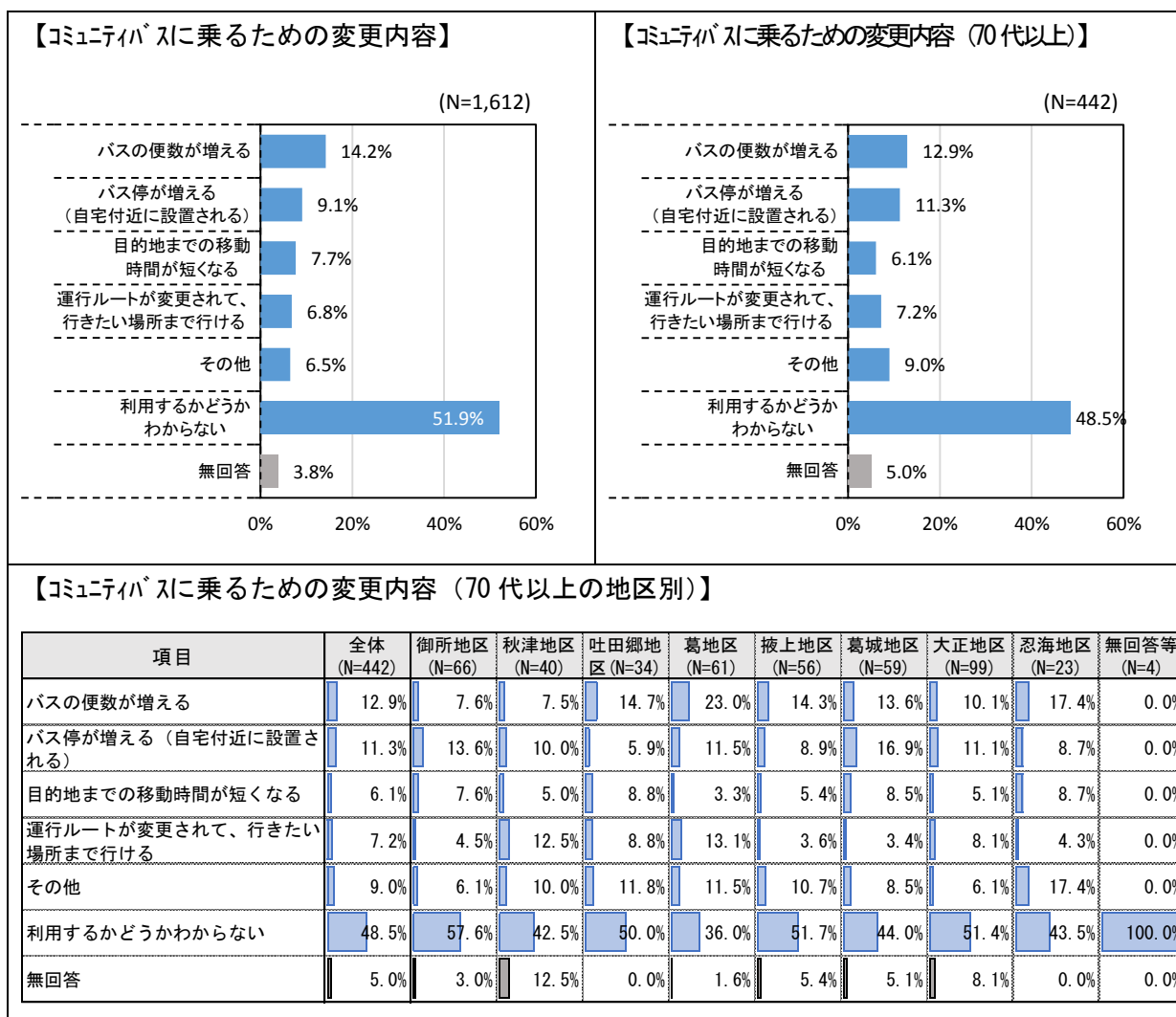
- ・全体では、コミュニティバスを利用しない理由については、「自分で車を運転して移動できるから」が60.4%と最も多く、次いで「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」(26.3%)、「家族の送迎で移動できるから」(24.2%)であった。
- ・70代以上では、「自分で車を運転して移動できるから」が43.7%と最も多く、次いで「家族の送迎で移動できるから」(28.8%)、「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」(27.7%)であった。
- ・70代以上の地区別にみると、忍海地区は「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」が41.5%と最も多い。



※(カ)「8. 自分で車を運転して移動するから」「9. 家族の送迎で移動できるから」「10. 他の公共交通で移動するから」を選ばれた方

(キ) コミュニティバスに乗るための変更内容

- ・全体では、コミュニティバスに乗るための変更内容については、「バスの便数が増える」が14.2%と最も多く、次いで「バス停が増える（自宅付近に設置される）」(9.1%)、「目的地までの移動時間が短くなる」(7.7%)であった。
- ・70代以上では、「バスの便数が増える」が12.9%と最も多く、次いで「バス停が増える（自宅付近に設置される）」(11.3%)、「運行ルートが変更されて、行きたい場所まで行ける」(7.2%)であった。
- ・70代以上の地区別にみると、御所地区、葛城地区、大正地区は「バス停が増える（自宅付近に設置される）」が最も多く、秋津地区は「運行ルートが変更されて、行きたい場所まで行ける」が最も多い。

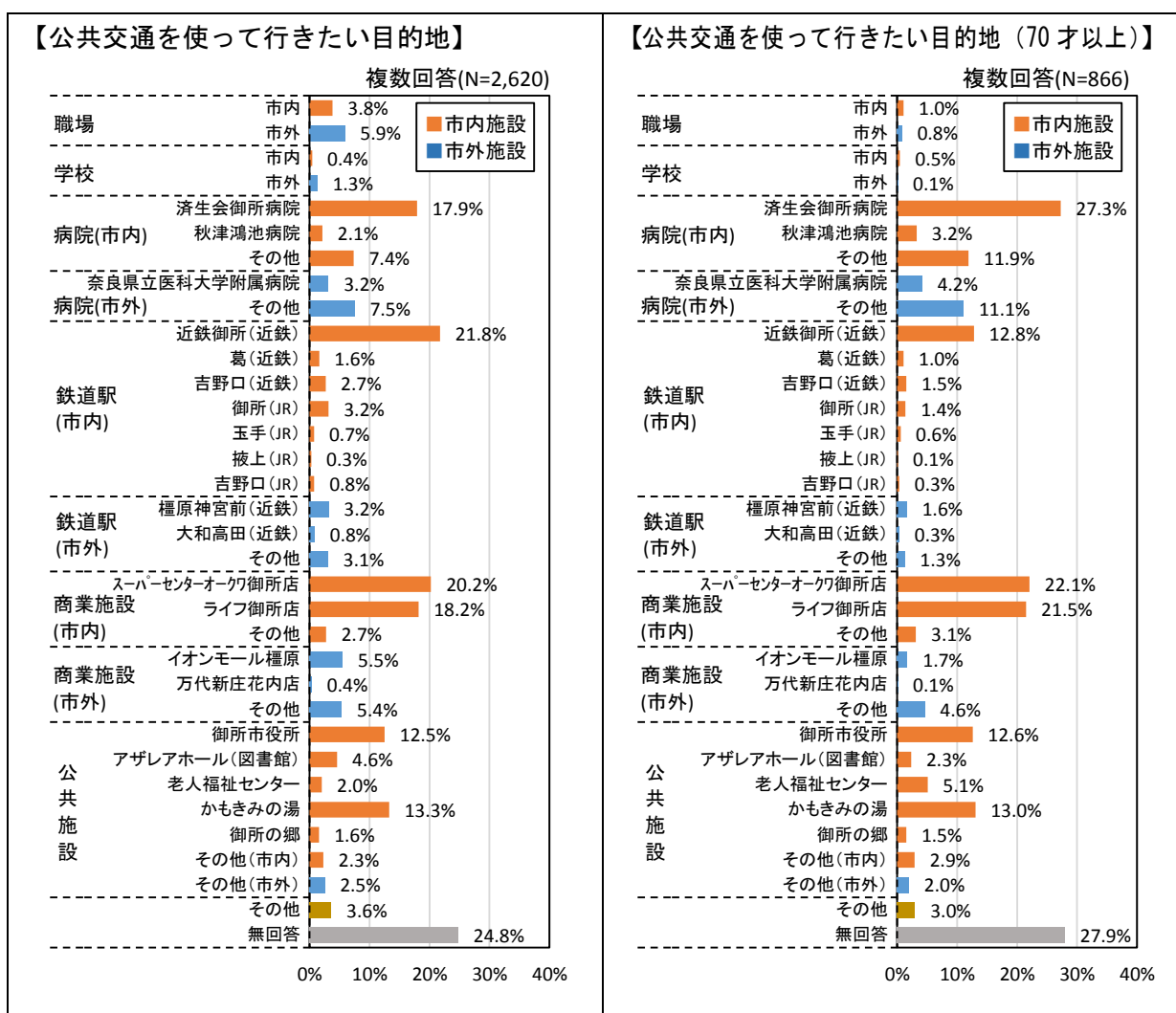


キ 今後の公共交通の利用について

市内の公共交通手段が利用しやすくなったら、それらの公共交通を使って行きたい場所などについて教えてください。

(7) 利用目的・行き先

- ・公共交通を使って行きたい行き先は、「近鉄御所駅」が21.8%と最も多く、次いで「スーパーセンターオークワ御所店」(20.2%)、「ライフ御所店」(18.2%)であった。
- ・70才以上では、「済生会御所病院」が27.3%と最も多く、次いで「スーパーセンターオークワ御所店」(22.1%)、「ライフ御所店」(21.5%)であった。

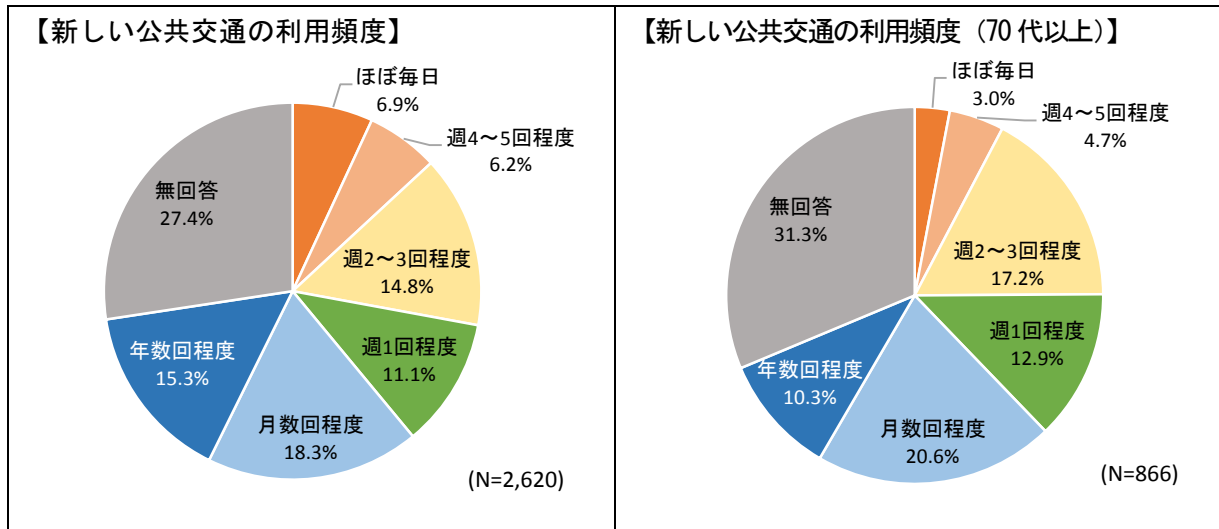


【公共交通を使って行きたい目的地（70代以上の地区別）】

項目		全体 (N=866)	御所地区 (N=125)	秋津地区 (N=73)	吐田郷地区 (N=74)	葛地区 (N=124)	掖上地区 (N=99)	葛城地区 (N=104)	大正地区 (N=206)	忍海地区 (N=50)	無回答等 (N=11)
職場	市内	1.0%	0.8%	2.7%	0.0%	0.8%	1.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
	市外	0.8%	0.8%	1.4%	1.4%	0.8%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%
学校	市内	0.5%	0.0%	1.4%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
	市外	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
病院 (市内)	済生会御所病院	27.3%	21.6%	23.3%	33.8%	33.1%	23.2%	33.7%	24.3%	26.0%	45.5%
	秋津鴻池病院	3.2%	4.0%	4.1%	2.7%	0.8%	8.1%	0.0%	3.9%	2.0%	0.0%
	その他	11.9%	11.2%	21.9%	12.2%	14.5%	11.1%	13.5%	7.8%	8.0%	9.1%
病院 (市外)	奈良県立医科大学附属病院	4.2%	4.0%	9.6%	1.4%	2.4%	5.1%	2.9%	4.9%	4.0%	0.0%
	その他	11.1%	8.8%	8.2%	9.5%	8.1%	12.1%	13.5%	11.2%	18.0%	36.4%
鉄道駅 (市内)	近鉄御所（近鉄）	12.8%	8.0%	16.4%	24.3%	1.6%	12.1%	19.2%	12.6%	18.0%	18.2%
	葛（近鉄）	1.0%	0.0%	1.4%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
	吉野口（近鉄）	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	8.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	御所（JR）	1.4%	0.0%	0.0%	2.7%	2.4%	1.0%	1.0%	1.9%	2.0%	0.0%
	玉手（JR）	0.6%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
	掖上（JR）	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	吉野口（JR）	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%	0.5%	0.0%	0.0%
鉄道駅 (市外)	橿原神宮前（近鉄）	1.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.8%	5.1%	1.0%	0.0%	8.0%	0.0%
	大和高田（近鉄）	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
	その他	1.3%	0.8%	0.0%	0.0%	2.4%	1.0%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%
商業施設 (市内)	スーパーセンターオークワ御所店	22.1%	19.2%	21.9%	25.7%	37.9%	17.2%	32.7%	13.6%	12.0%	0.0%
	ライフ御所店	21.5%	18.4%	21.9%	31.1%	21.0%	20.2%	23.1%	19.4%	24.0%	18.2%
	その他	3.1%	3.2%	1.4%	0.0%	7.3%	3.0%	3.8%	1.5%	4.0%	9.1%
商業施設 (市外)	イオンモール橿原	1.7%	4.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	3.4%	4.0%	0.0%
	万代新庄花内店	0.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	4.6%	8.0%	4.1%	2.7%	4.8%	6.1%	1.0%	5.3%	2.0%	0.0%
公共施設	御所市役所	12.6%	2.4%	12.3%	16.2%	12.1%	8.1%	16.3%	15.0%	28.0%	0.0%
	アザレアホール（図書館）	2.3%	0.8%	1.4%	2.7%	1.6%	4.0%	2.9%	2.4%	4.0%	0.0%
	老人福祉センター	5.1%	5.6%	1.4%	2.7%	4.8%	2.0%	1.9%	10.2%	2.0%	18.2%
	かもきみの湯	13.0%	25.6%	8.2%	10.8%	12.9%	14.1%	2.9%	13.6%	2.0%	45.5%
	御所の郷	1.5%	1.6%	2.7%	1.4%	2.4%	2.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%
	その他（市内）	2.9%	4.8%	6.8%	0.0%	4.8%	1.0%	2.9%	1.5%	2.0%	0.0%
その他（市外）	2.0%	1.6%	0.0%	1.4%	1.6%	3.0%	1.9%	3.4%	0.0%	0.0%	
その他	3.0%	3.2%	4.1%	0.0%	3.2%	7.1%	1.9%	1.9%	4.0%	0.0%	
無回答	27.9%	33.6%	23.3%	27.0%	23.4%	27.3%	26.9%	30.1%	32.0%	9.1%	

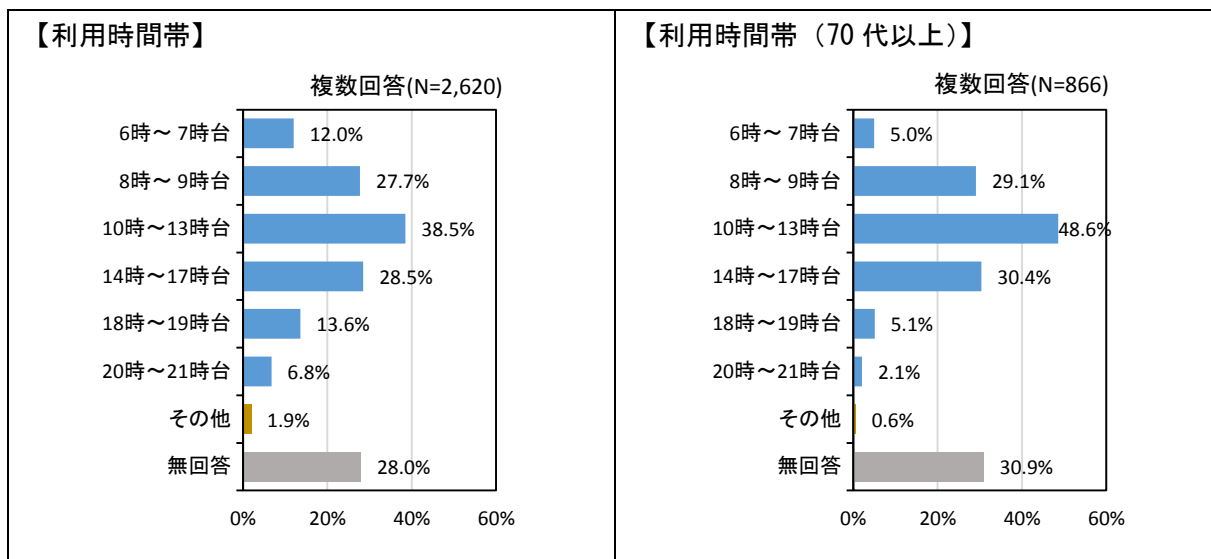
(イ) 利用頻度

- ・利用頻度は、「月数回程度」が18.3%と最も多く、次いで「年数回程度」(15.3%)、「週2~3回程度」(14.8%)であった。
- ・70代以上では、「月数回程度」が20.6%と最も多く、次いで「週2~3回程度」(17.2%)、「週1回程度」(12.9%)の順に多い。



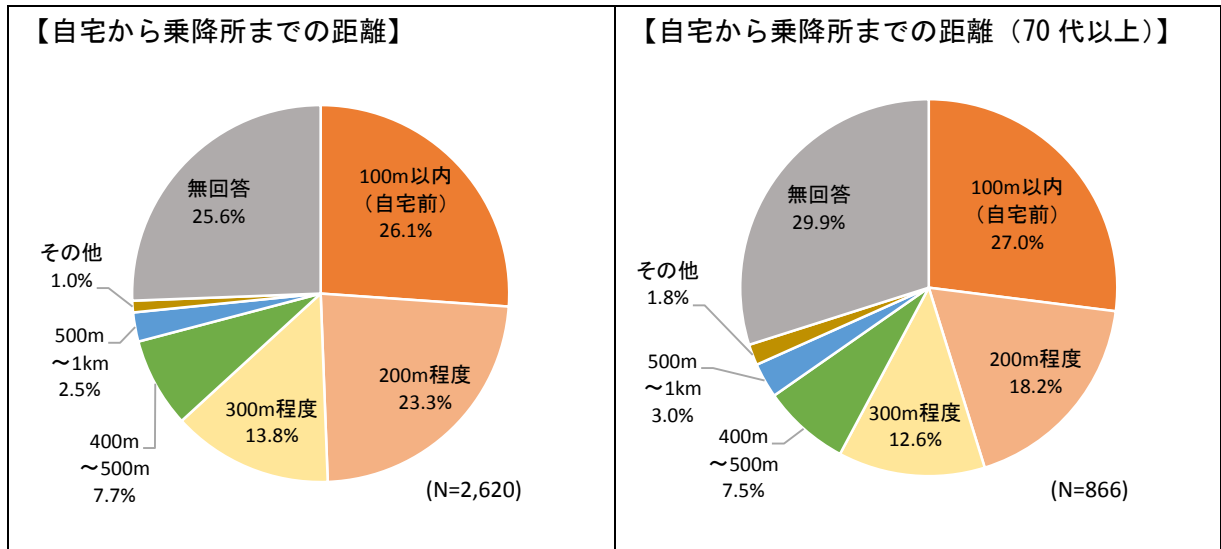
(ウ) 利用時間

- ・利用時間は、「10時～13時台」が38.5%と最も多く、次いで「14時～17時台」(28.5%)、「8時～9時台」(27.7%)であった。
- ・70代以上においても、「10～13時台」が48.6%と最も多く、次いで「14時～17時台」(30.4%)、「8時～9時台」(29.1%)の順に多い。



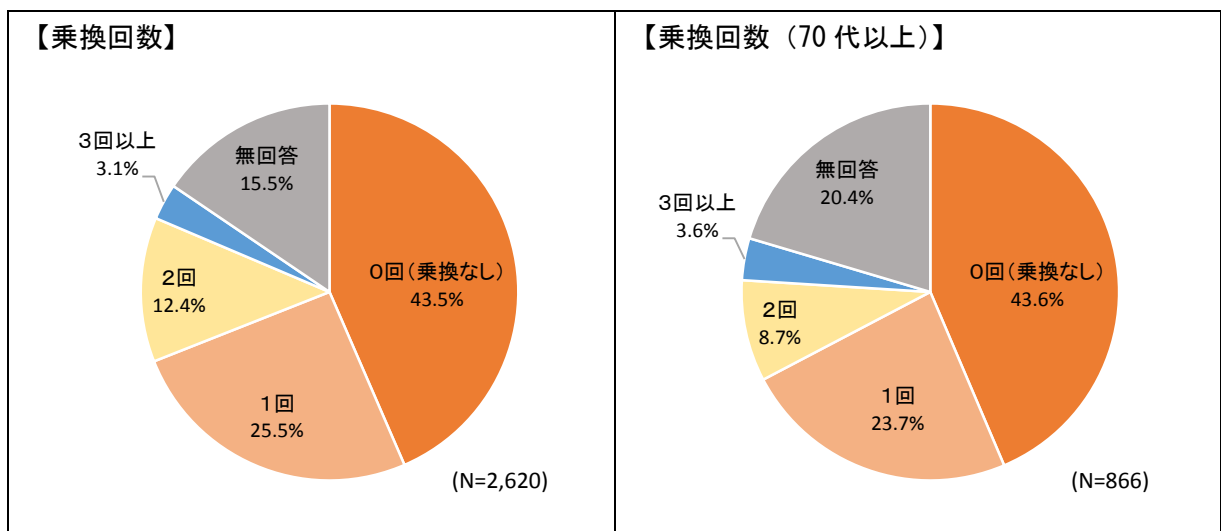
(I) 自宅から乗降所までの距離

- ・自宅から乗降所までの距離は、「100m以内（自宅前）」が26.1%と最も多く、次いで「200m程度」が23.3%であった。
- ・70代以上においても、「100m以内（自宅前）」が27.0%と最も多く、次いで「200m程度」が18.2%と多い。



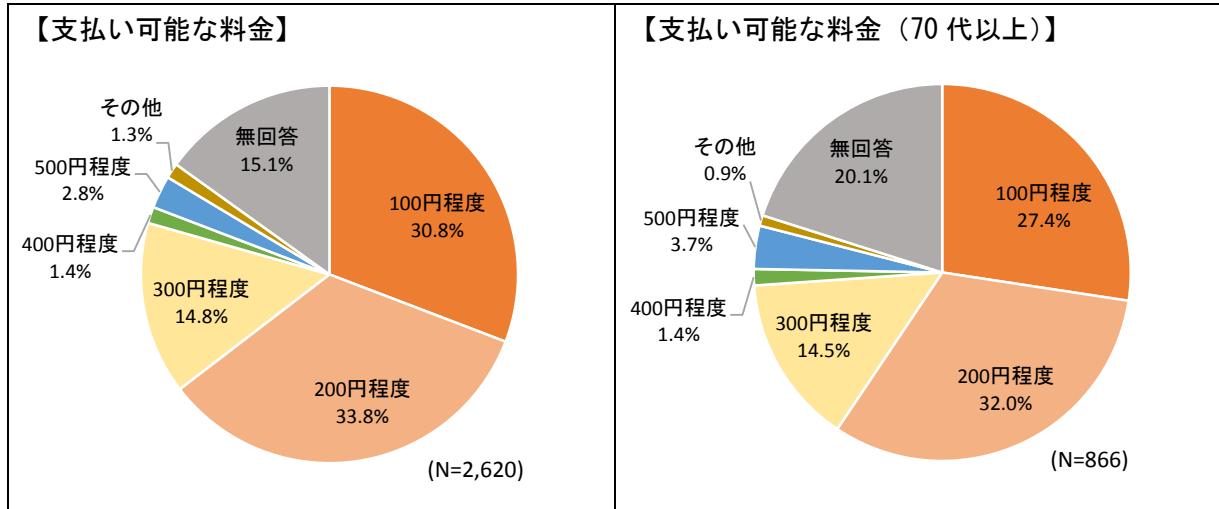
(オ) 乗換回数

- ・乗換回数は、「0回（乗換なし）」が43.5%と最も多く、次いで「1回」が25.5%であった。
- ・70代以上においても、「0回（乗換なし）」が43.6%と最も多く、次いで「1回」が23.7%であった。



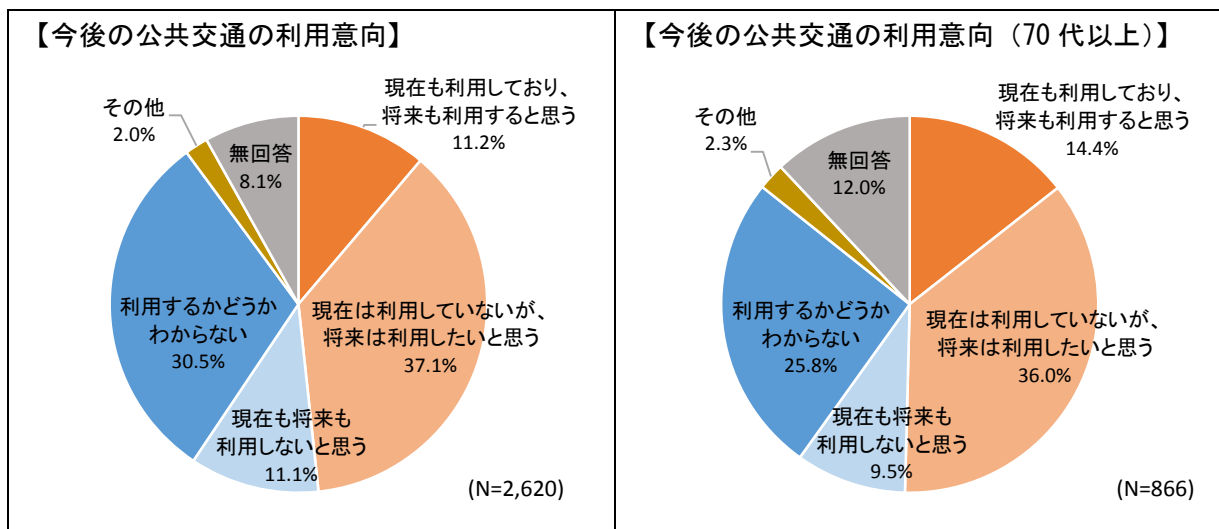
(カ) 支払い可能な料金

- ・支払い可能な料金は、「200円程度」が33.8%と最も多く、次いで「100円程度」が30.8%であった。
- ・70代以上においても、「200円程度」が32.0%と最も多く、次いで「100円程度」が27.4%であった。



(キ) 今後の公共交通の利用

- ・今後の公共交通について、「現在は利用していないが、将来は利用したいと思う」が37.1%と最も多く、次いで「利用するかどうか分からない」が30.5%であった。「将来は利用したいと思う、又は、将来も利用すると思う」と回答した方は、合計で48.3%であった。
- ・70代以上においても、「現在は利用していないが、将来は利用したいと思う」が36.0%と最も多い。「将来は利用したいと思う、又は、将来も利用すると思う」と回答した方は、合計で50.4%であった。



ク 公共交通に関して意見・要望について

(7) コミュニティバスについて

- ・意見は1,175通のうち、487意見。
- ・意見の中から、意見項目が多い意見から具体的な意見を抜粋した。

①運行本数について

- ・1時間に1本程度は運行してほしい。
- ・出来れば午前（午後）1本増便が望ましい。
- ・行く時は調べていい時間に乘ることができるが、帰りが無いのは困るので、本数を増やしてほしい。 等

②運行ルートについて

- ・ルートが長すぎる。目的地に行くのに、遠回りして乗ってはいくならない。
- ・駅、病院、市役所等に遠回りしないで、行けるようルートを要望します。
- ・東コースはスーパーセンターオークワに寄っていないので、寄ってほしい。 等

③情報提供について

- ・バス停や時刻表などもっとわかり易く積極的にPRして欲しい
- ・運行ルート、時刻表を新聞等に挟んで配達してほしい。
- ・バス停のある場所が分からないので、利用できない。 等

④その他

- ・通勤・通学の時間帯の運行をお願いしたい。
- ・バス停を自宅近くに作ってほしい。
- ・自分で運転出来なくなったら利用させて頂きたいと思います。
- ・バスは良く見えますがお客様はあまり乗っておられないと思う。 等

(イ) 鉄道、路線バスについて

- ・意見は1,175通のうち、345意見。
- ・意見の中から、意見項目が多い意見から具体的な意見を抜粋した。

①鉄道

1) 運行本数について

- ・近鉄は御所駅からの朝、夕の本数を増やしてほしい。
- ・JRの本数が少なすぎるので、増やして欲しい。 等

2) 接続について

- ・御所市内の鉄道とバスとの接続をスムーズにして欲しい。
- ・近鉄で御所駅から大阪方面へ行くのに、乗り換え時の接続を良くしてほしい。 等

3) 料金について

- ・近鉄の電車賃が他私鉄と比べて高いのでは。 等

4) その他

- ・JR御所駅の改札が西口に出来て便利になった。
- ・近鉄御所駅に西口改札をつくって欲しい。 等

②路線バス

1) 運行本数について

- ・全ての系統で1時間に1本はほしい。
- ・近鉄御所から橿原神宮前の運行本数が少なく不便である。 等

2) 料金について

- ・路線バスの運賃は、高いと思う。もうすこし安かったら利用しやすくなる。
- ・路線バスの回数券を同じ値段のままで、枚数を増やしてほしい。 等

3) その他

- ・路線バスを山麓線も走らせて、JR、近鉄御所駅まで行けるようにしてほしい。
- ・路線バスの本数が減って、以前より利用しなくなった。 等

(ウ) その他の公共交通について

①タクシーについて

- ・タクシーは便利だが、もっと運賃を安くしてもらえたら利用したいと思う。
- ・タクシーを利用する高齢者に割引制度を作って欲しい。 等

②デマンド交通について

- ・予約して来る乗合タクシー的なもの入れてほしい。
- ・必要なときに目的地へ直行する予約制の「デマンドタクシー」を検討してはどうか。 等

③その他

- ・行政の負担が少なく、受益者負担も適正に設定された新たな交通手段を検討してほしい。
- ・年寄りにも乗りやすい公共交通にしてほしい。 等

(2) コミュニティバス利用者の調査

ア コミュニティバス利用者調査の概要

概要を以下に示す。

項目	内容																																								
概要	コミュニティバス利用者を対象として、利用実態を把握するために調査を実施する。																																								
調査時期	夏期 3日間 平成30年7月31日(火)、8月3日(金)、4日(土) 秋期 3日間 平成30年10月31日(水)、11月1日(木)、3日(土)																																								
調査方法	コミュニティバスに乗り込んで直接利用者の聞き取りを行う。																																								
調査対象	コミュニティバス利用者																																								
回収数	248票 (回収数の内訳：夏期) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>7/31(火)</th> <th>8/3(金)</th> <th>8/4(土)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西ルート</td> <td>26票</td> <td>27票</td> <td>16票</td> <td>69票</td> </tr> <tr> <td>東ルート</td> <td>21票</td> <td>17票</td> <td>17票</td> <td>55票</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>47票</td> <td>44票</td> <td>33票</td> <td>124票</td> </tr> </tbody> </table> (回収数の内訳：秋期) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>10/31(水)</th> <th>11/1(木)</th> <th>11/3(土)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西ルート</td> <td>27票</td> <td>28票</td> <td>19票</td> <td>74票</td> </tr> <tr> <td>東ルート</td> <td>21票</td> <td>16票</td> <td>13票</td> <td>50票</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>48票</td> <td>44票</td> <td>32票</td> <td>124票</td> </tr> </tbody> </table>		7/31(火)	8/3(金)	8/4(土)	計	西ルート	26票	27票	16票	69票	東ルート	21票	17票	17票	55票	計	47票	44票	33票	124票		10/31(水)	11/1(木)	11/3(土)	計	西ルート	27票	28票	19票	74票	東ルート	21票	16票	13票	50票	計	48票	44票	32票	124票
	7/31(火)	8/3(金)	8/4(土)	計																																					
西ルート	26票	27票	16票	69票																																					
東ルート	21票	17票	17票	55票																																					
計	47票	44票	33票	124票																																					
	10/31(水)	11/1(木)	11/3(土)	計																																					
西ルート	27票	28票	19票	74票																																					
東ルート	21票	16票	13票	50票																																					
計	48票	44票	32票	124票																																					
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車バス停、降車バス停 ・利用目的 ・利用頻度 ・満足度 ・具体的な改善要望 等 																																								

イ コミュニティバス利用者の属性

- ・2回調査を合計で見ると、利用者のお住まいは、「御所市内」が87.9%、「市外」が10.1%であった。
- ・性別は、「女性」が77.0%、「男性」が23.0%であった。
- ・年代は、「70代」が42.7%と最も多く、次いで、「80代」が21.0%、「60代」が14.1%の順に多い。また、70代以上は63.7%と全体の約6割を占めている。

	お住まい	性別	年齢
夏期	<p>御所市外 7.3%</p> <p>御所市内 92.7%</p> <p>(N=124)</p>	<p>男性 21.8%</p> <p>女性 78.2%</p> <p>(N=124)</p>	<p>10代以下 3.2%</p> <p>20代 1.6%</p> <p>30代 2.4%</p> <p>40代 8.1%</p> <p>50代 7.3%</p> <p>60代 14.5%</p> <p>70代 39.5%</p> <p>80代以上 23.4%</p> <p>(N=124)</p>
秋期	<p>無回答 4.0%</p> <p>御所市外 12.9%</p> <p>御所市内 83.1%</p> <p>(N=124)</p>	<p>男性 24.2%</p> <p>女性 75.8%</p> <p>(N=124)</p>	<p>10代以下 0.8%</p> <p>20代 3.2%</p> <p>30代 3.2%</p> <p>40代 7.3%</p> <p>50代 7.3%</p> <p>60代 13.7%</p> <p>70代 46.0%</p> <p>80代以上 18.5%</p> <p>(N=124)</p>
合計	<p>無回答 2.0%</p> <p>御所市外 10.1%</p> <p>御所市内 87.9%</p> <p>(N=248)</p>	<p>男性 23.0%</p> <p>女性 77.0%</p> <p>(N=248)</p>	<p>10代以下 2.0%</p> <p>20代 2.4%</p> <p>30代 2.8%</p> <p>40代 7.7%</p> <p>50代 7.3%</p> <p>60代 14.1%</p> <p>70代 42.7%</p> <p>80代以上 21.0%</p> <p>(N=248)</p>

ウ コミュニティバスの利用実態

(7) 乗降したバス停

- ・乗車したバス停と降車したバス停で最も利用が多かったのは、両方とも「近鉄御所駅」であり、乗車数は68人、降車数は92人であった。
- ・近鉄御所駅の次に利用が多いバス停は、両方とも「かもきみの湯」であり、乗車数は17人、降車数は15人であった。

■バス停別の乗降者数

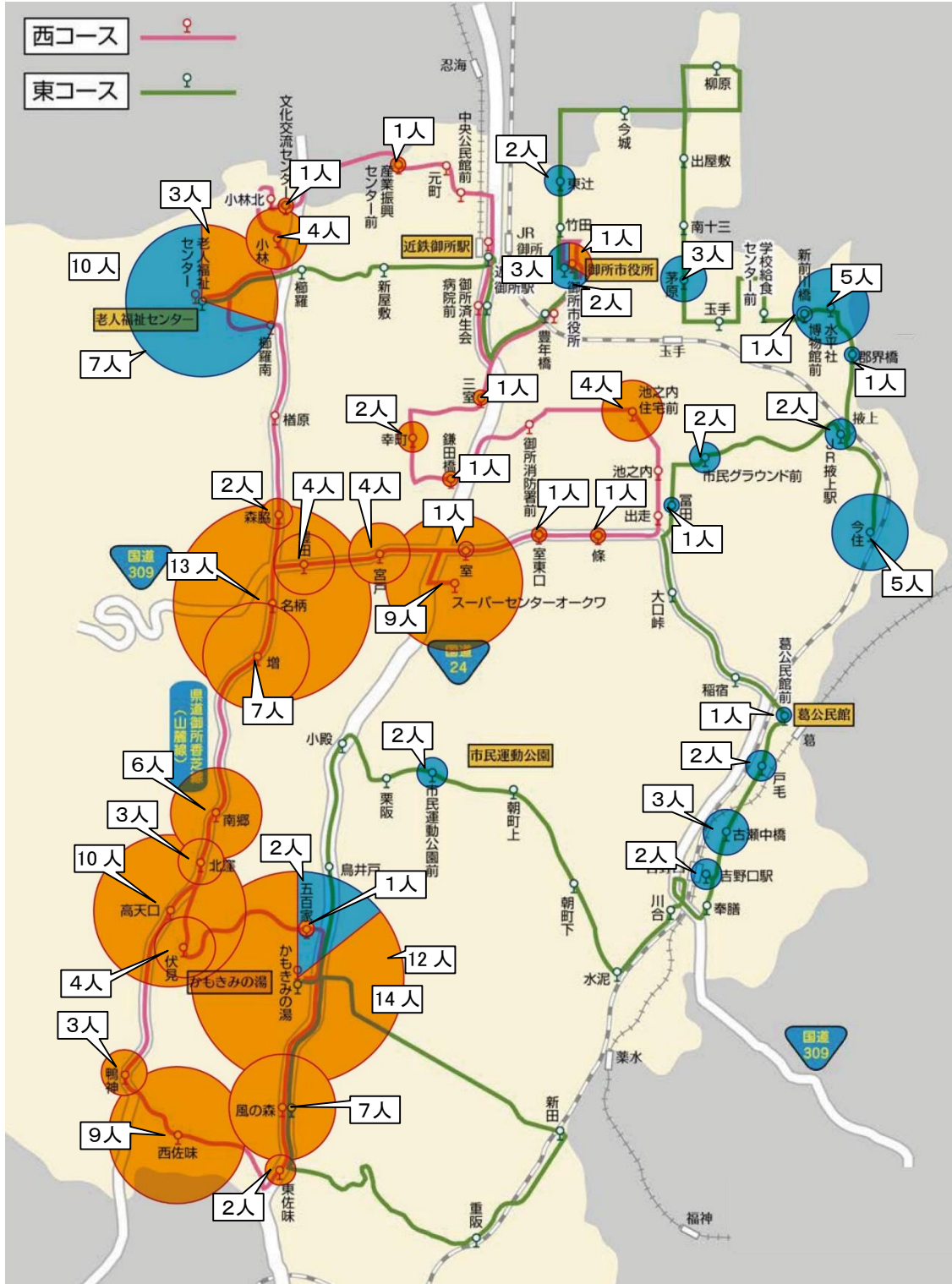
乗車したバス停	利用者数
近鉄御所駅	68人
かもきみの湯	17人
名柄	10人
御所市役所	9人
スーパーセンターオークワ	8人
今住	8人
その他	128人
計	248人

降車したバス停	利用者数
近鉄御所駅	92人
かもきみの湯	15人
老人福祉センター	14人
スーパーセンターオークワ	10人
JR掖上駅	8人
—	—
その他	109人
計	248人

※利用者数が多いバス停の上位5位までを記載

※参考

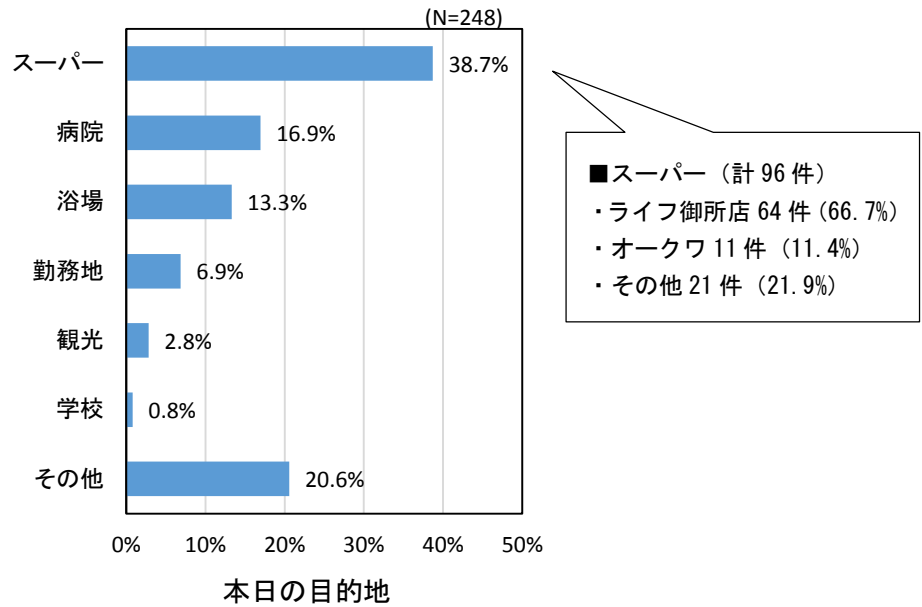
- ・「近鉄御所駅」のバス停を起点もしくは終点にしている方のみを整理した。
- ・近鉄御所駅のバス停を使っている方 (160 人) のうち、西コースは 117 人、東コースは 43 人と利用者の約 73.1%の人が西コースの方であった。



近鉄御所駅のバス停を起点もしくは終点にしている方

(イ) 本日の目的地

- ・コミュニティバスを利用して行く目的地は、「スーパー」が 38.7%と最も多く、次いで、「病院」が 16.9%であった。
- ・スーパーを目的とした人のうち、「ライフ御所店」が 66.7%と最も多く、次いで「オークワ」が 11.4%であった。

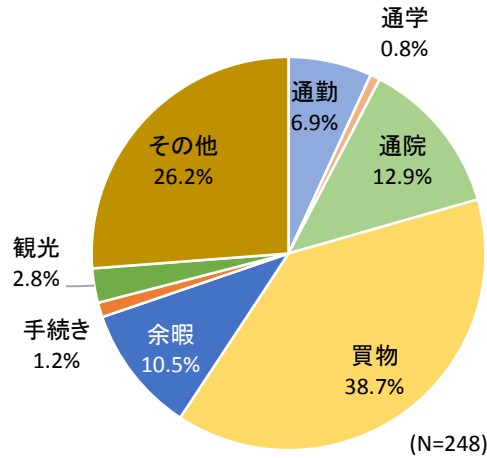


○所在地（市内、市外）別目的地一覧

項目	市内	市外	無回答	計
スーパー	92	1	3	96
病院	41	0	1	42
浴場	26	7	0	33
勤務地	13	3	1	17
観光	0	7	0	7
学校	2	0	0	2
その他	44	7	0	51
無回答	0	0	0	0
計	218	25	5	248

(ウ) 本日の移動の目的

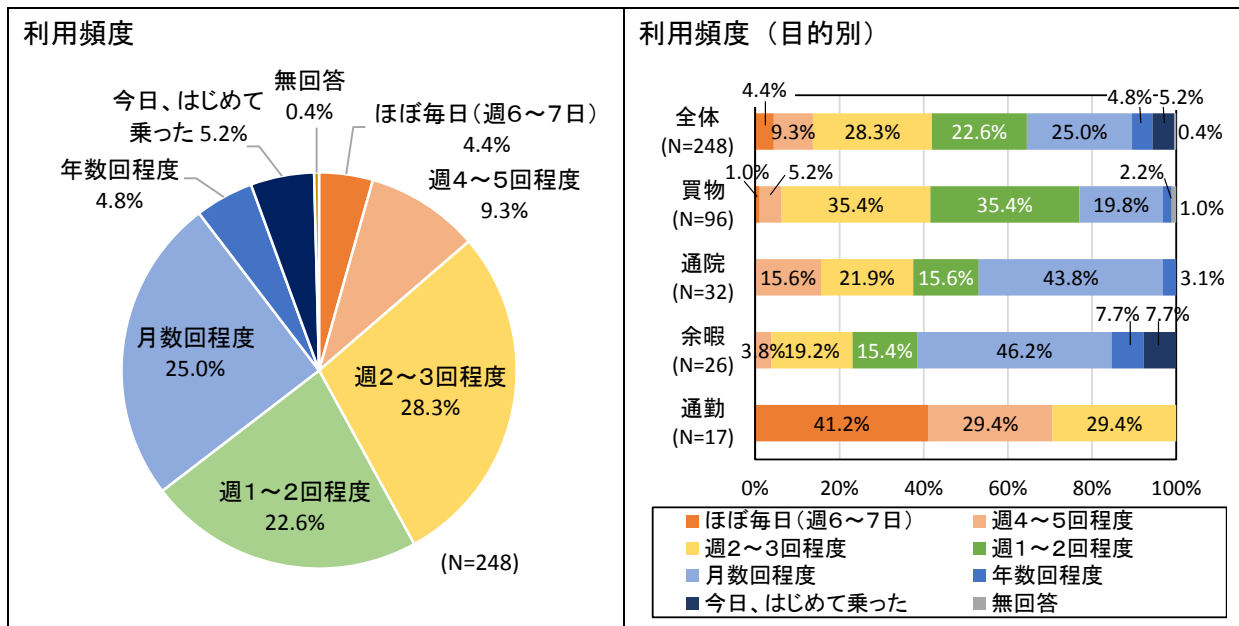
- ・コミュニティバスを利用しての移動の目的は、「買物」が38.7%と最も多く、次いで「通院」の12.9%であった。



移動の目的

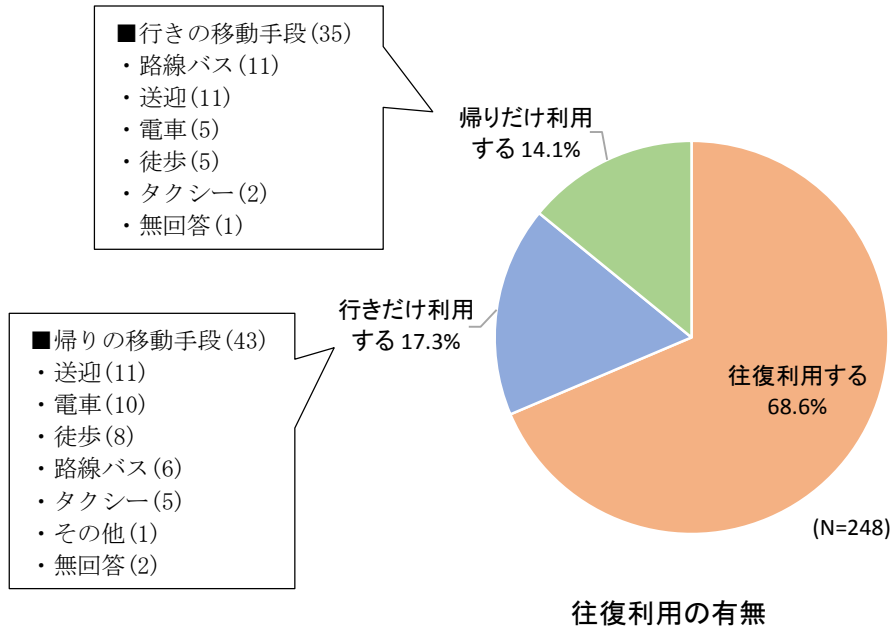
(I) 利用頻度

- ・コミュニティバスの利用頻度は、「週2～3回程度」が28.3%と最も多く、次いで「月数回程度」が25.0%であった。
- ・目的別にみると、「買物」は「週2～3回程度」と「週1～2回程度」が共に多く、「通院」と「余暇」は月数回程度が多く、「通勤」はほぼ毎日が多かった。



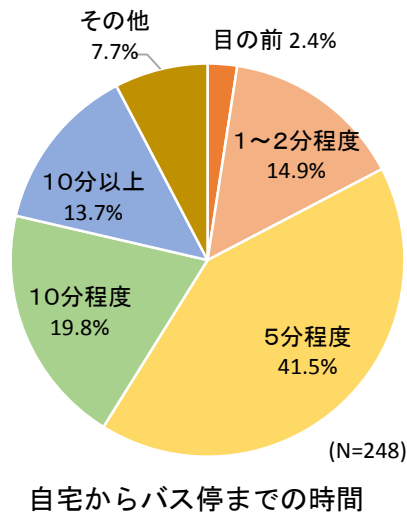
(オ) 往復利用の有無

・コミュニティバスを「往復利用する」方は 68.6%と約7割の方が利用している。



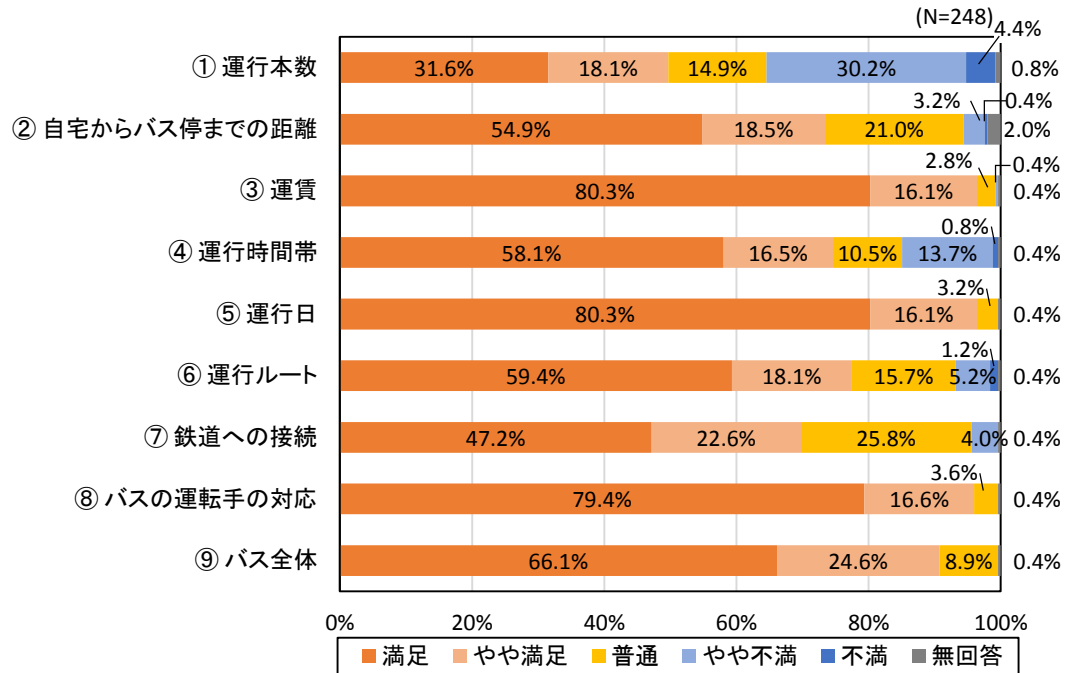
(カ) 自宅からバス停までの時間

・自宅からバス停までの時間は、「5分程度」が 41.5%と最も多く、次いで、「10分程度」が 19.8%であった。また、5分以内の方は、58.8%と約6割を占める。



ウ コミュニティバスの満足度

- ・最も満足度（満足とやや満足を足したもの）が高いのは「③運賃」と「⑤運行日」の96.4%であった。一方、最も不満（不満とやや不満を足したもの）が高かったのは、「①運行本数」の34.6%であった。
- ・満足度が8割を超えている項目は「③運賃」、「⑤運行日」、「⑧バスの運転手の対応」、「⑨バス全体」であった。

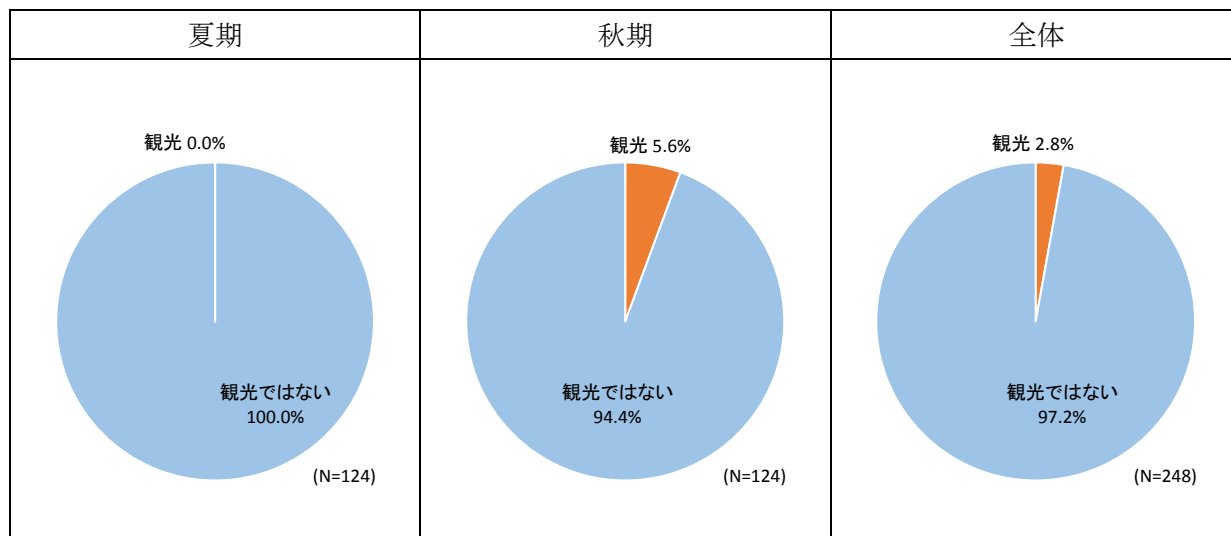


コミュニティバスの満足度

エ 観光目的

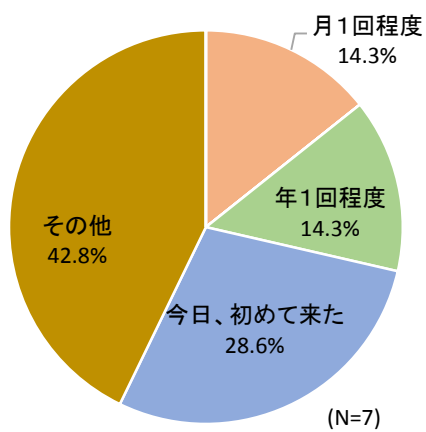
(7) 観光目的

・観光目的で来られていた方は、全体の2.8%であった。



(1) 観光頻度

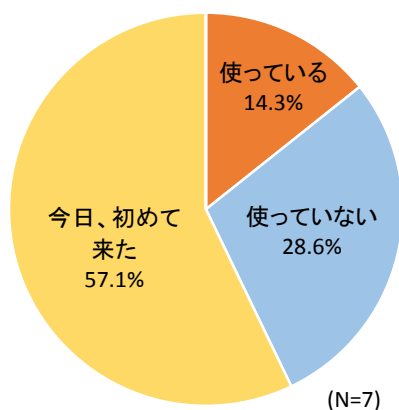
・御所市に観光で来られる頻度は「今日、初めて来た」が28.6%と最も多かった。



観光頻度

オ コミュニティバスの利用の有無

- ・御所市に観光で来た際にコミュニティバスを「使っている」方は、14.3%、「使っていない」方は28.6%であった。

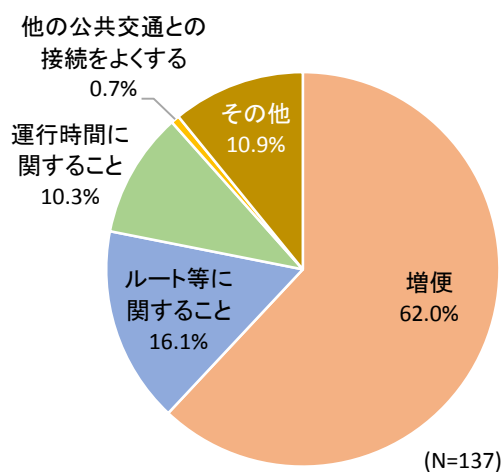


コミュニティバスの利用の有無

カ 今後について

(7) コミュニティバスの改善内容（自由意見）

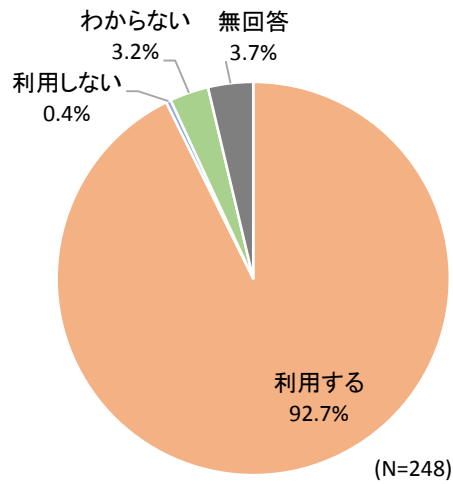
- ・自由意見の137件を集計した結果、コミュニティバスで改善してほしいことは、「増便」が62.0%と最も多く、次いで、「ルート等に関する事」の16.1%であった。



改善してほしいこと

キ 今後の利用意向

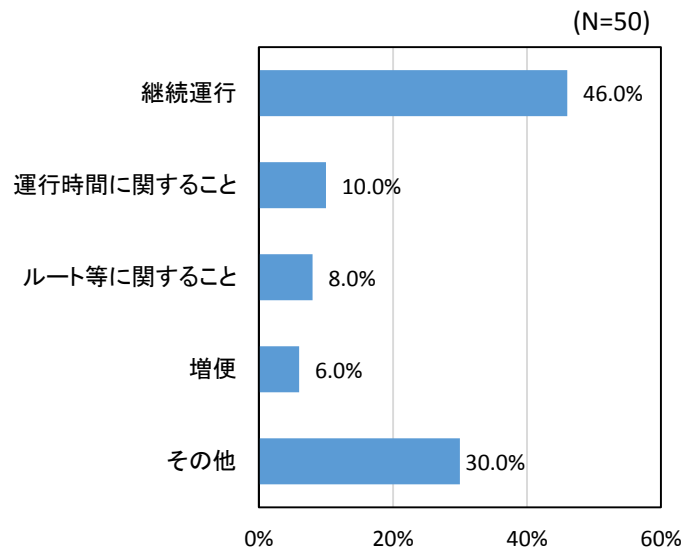
・今後も「利用する」が約 92.7%と、ほぼ利用者全員が今後も利用する意向であった。



今後の利用意向

ク コミュニティバスについての他の意見

・自由意見の 50 件を集計した結果、コミュニティバスの他の意見は、「継続運行」を希望する意見が 46.0%と最も多く、次いで、「運行時間に関すること」の 10.0%であった。



コミュニティバスの他の意見

(3) 分析結果

ア 住民アンケート調査の結果

(7) 属性

- ・回答者は、自動車運転免許を約 75%が持っており、自家用車も約 57%が所有している、また、目的地までの移動手段も「自動車（自分で運転）」と「自動車（家族等による送迎）」を合計すると 71.3%であることから、市民の普段の移動は自動車が主な移動手段であると考えられる。

(イ) 普段の生活での外出先

- ・普段の外出先は、40代以下は通勤・通学が多く、50代以上は買物・通院が多い傾向である。買物は、市内に行く方が多く、市北部の方はライフ御所店に、市中南部の方はスーパーセンターオークワ御所店に行く方が多く、地域の近くの商業施設に行っている。また、商業施設への移動手段は、「自動車（自分で運転）」と「自動車（家族等による送迎）」が多い。
- ・このことから、市民の買物は、市内の自宅近くの商業施設に行っており、行く手段としては主に自動車が多いと考えられる。

(ウ) 路線バス

- ・路線バスは、市民の利用率は約 8%であり、地区別に見ても利用率は高い地区で 14%であり、低い状況である。
- ・満足度については、「自宅から最寄りのバス停までの距離」の満足度は高く、「運行本数」は不満が高いことから、運行本数の増加を望んでいると考えられる。

(イ) コミュニティバス

- ・コミュニティバスについては、市民の認知度は高いが、利用率は 1割以下である。地区別に見ても、大きな差はなかった。
- ・コミュニティバスを利用したことはある人の中で、最も満足度が高い点は、「運賃」であり、最も不満な点としては、「運行本数」であった。
- ・このことから、コミュニティバスは認知をしている方は多いが、利用しない理由として「自分で車を運転して移動できるから」以外では、「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」の意見が多く、コミュニティバスの内容がニーズと合っていないことから、利用率が低いと考えられる。

(オ) 今後の公共交通の利用について

- ・市内の公共交通が利用しやすくなって行きたい目的地は、「近鉄御所駅」が約 22%と最も多く、次いで、「スーパーセンターオークワ御所店」、「ライフ御所店」となっている。一方、70才以上では「済生会御所病院」が約 27%と最も多い。
- ・このことから、市民は新しい公共交通が出来たら、市内の駅、大型商業施設、病院に行きたい意向があることから、これらのニーズへの対応が必要と考えられる。
- ・また、今後の公共交通の利用意向については、「将来は利用すると思う」と回答した方が、約 48%であった。
- ・このことから、市民の多くは今後も市の公共交通の継続を望んでいると考えられる。

イ コミュニティバス利用者調査の結果

- ・利用者は、買物、通院での利用が多く、その頻度は、「買物」は週2～3日程度と週1～2回程度、「通院」は月数回程度が多かった。
- ・利用者の約7割と殆どの方が往復利用しており、自宅からバス停までの時間も約6割の方が歩いて5分以内と比較的近い。
- ・最も満足度が高いのは、「運賃」と「運行日」であり、最も不満が高いのは、「運行本数」であり、改善してほしいことについても、利用者の約6割が「増便」との意見であった。
- ・今後も利用する方は、約93%と、殆どの方が今後も利用される意向であった。
- ・このことから、多くの利用者は、「買物」と「通院」に利用しており、往復利用率も今後の利用意向も非常に高く、必要な移動手段となっているが、「運行本数」が大きな不満な点となっている。